

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部の設置								
フリガナ設置者	コリツカクカクホシン コハダク 国立大学法人 神戸大学								
フリガナ大学の名称	コハダク 神戸大学								
大学本部の位置	兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1								
大学の目的	開放的で国際性に富む固有の文化の下、「真摯・自由・協同」の精神を発揮し、人類社会に貢献するため、普遍的価値を有する「知」を創造するとともに、人間性豊かな指導の人材を育成する。								
新設学部等の目的	システムの解析・統合、情報の創出・処理・利用、計算の高度化及び応用等、システム情報学に関する専門性及び学際性を重視した教育研究を行い、人間性、創造性、国際性に加え、幅広い知識及び学際的視点を有する人材、特に世界の現状や問題についての知識や理解力を持ち、システム情報学の各専門領域の知識や技術を応用し、俯瞰的に組み合わせることで、社会の様々な問題の解決や新しい価値の共創を主導できる人材を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	システム情報学部 [Faculty of System Informatics] システム情報学科 [Department of System Informatics]	4年	150人	3年次 3人	606人	学士（システム情報学） [Bachelor of System Informatics]	工学関係	令和7年4月 第1年次 令和9年4月 第3年次	兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1
	計		150	3年次 3	606				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<p>■学士課程</p> <p>人間発達科学部 発達コミュニティ学科 (3年次編入学定員) [定員減] (△3) (令和9年4月)</p> <p>子ども教育学科 (3年次編入学定員) [定員減] (△2) (令和9年4月学生募集停止)</p> <p>医学部 保健学科 [定員減] (△10) (令和7年4月) 医療創成工学科 [新設] (25) (令和6年4月事前相談提出) (3年次編入学定員) (5)</p> <p>工学部 建築学科 [定員減] (△3) (令和7年4月) (3年次編入学定員) [定員増] (3) (令和9年4月) 市民工学科 [定員減] (△3) (令和7年4月) (3年次編入学定員) [定員増] (3) (令和9年4月) 電気電子工学科 [定員減] (△3) (令和7年4月) (3年次編入学定員) [定員増] (4) (令和9年4月) 機械工学科 [定員減] (△3) (令和7年4月) (3年次編入学定員) [定員増] (4) (令和9年4月) 応用化学科 [定員減] (△3) (令和7年4月) (3年次編入学定員) [定員増] (3) (令和9年4月) 情報知能工学科 [廃止] (△107) ※令和7年4月学生募集停止 ※3年次編入学定員は令和9年4月学生募集停止 (3年次編入学定員(学科共通)) [定員減] (△20) (令和9年4月)</p> <p>■博士課程前期課程</p> <p>システム情報学研究科 システム情報学専攻 [定員増] (8) (令和7年4月)</p>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	システム情報学部 システム情報学科	講義	演習	実験・実習	計				
		238 科目	60 科目	9 科目	307 科目	124 単位			

学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	
		教授	准教授	講師	助教	計			
新 設 分	システム情報学部 システム情報学科	21 (24)	16 (16)	0 (0)	0 (0)	37 (40)	0 (0)	5 (5)	令和6年4月事前相談
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	20 (23)	15 (15)	0 (0)	0 (0)	35 (38)			大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数12人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	20 (23)	15 (15)	0 (0)	0 (0)	35 (38)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)			
	計（a～d）	21 (24)	16 (16)	0 (0)	0 (0)	37 (40)			
医学部 医療創成工学科	8 (8)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	15 (15)	0 (0)			
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	15 (15)			大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数11人	
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）	8 (8)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	15 (15)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	8 (8)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	15 (15)				
計	29 (32)	20 (20)	2 (2)	1 (1)	52 (55)				0 (0)
既 設 分	文学部 人文学科	23 (23)	12 (12)	15 (15)	2 (2)	52 (52)	0 (0)	21 (21)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数8人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	23 (23)	12 (12)	15 (15)	2 (2)	52 (52)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	23 (23)	12 (12)	15 (15)	2 (2)	52 (52)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	23 (23)	12 (12)	15 (15)	2 (2)	52 (52)			

国際人間科学部 グローバル文化学科	30 (30)	10 (10)	6 (6)	2 (2)	48 (48)	0 (0)	7 (7)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	27 (27)	5 (5)	3 (3)	1 (1)	36 (36)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	3 (3)	5 (5)	3 (3)	1 (1)	12 (12)		
小計(a~b)	30 (30)	10 (10)	6 (6)	2 (2)	48 (48)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計(a~d)	30 (30)	10 (10)	6 (6)	2 (2)	48 (48)		
発達コミュニティ学科	17 (17)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	15 (15)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	14 (14)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	19 (19)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)		
小計(a~b)	17 (17)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	22 (22)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計(a~d)	17 (17)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	22 (22)		
環境共生学科	15 (15)	10 (10)	0 (0)	6 (6)	31 (31)	0 (0)	2 (2)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	15 (15)	7 (7)	0 (0)	5 (5)	27 (27)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	4 (4)		
小計(a~b)	15 (15)	10 (10)	0 (0)	6 (6)	31 (31)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計(a~d)	15 (15)	10 (10)	0 (0)	6 (6)	31 (31)		
子ども教育学科	8 (8)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	14 (14)	0 (0)	0 (0)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	12 (12)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (2)		
小計(a~b)	8 (8)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	14 (14)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計(a~d)	8 (8)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	14 (14)		

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の教員8人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の教員10人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の教員11人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の教員8人

学部共通	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	0 (0)	38 (38)		
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	/	/		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)				
小計（a～b）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)				
計（a～d）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)				
法学部 法律学科	28 (28)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	39 (39)			4 (4)	19 (19)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	28 (28)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	39 (39)			/	/
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）	28 (28)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	39 (39)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	28 (28)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	39 (39)				
経済学部 経済学科	29 (29)	8 (8)	9 (9)	0 (0)	46 (46)	2 (2)	31 (31)		
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	29 (29)	7 (7)	8 (8)	0 (0)	44 (44)	/	/		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	2 (2)				
小計（a～b）	29 (29)	8 (8)	9 (9)	0 (0)	46 (46)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	29 (29)	8 (8)	9 (9)	0 (0)	46 (46)				
経営学部 経営学科	33 (33)	16 (16)	0 (0)	0 (0)	49 (49)			4 (4)	23 (23)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	27 (27)	15 (15)	0 (0)	0 (0)	42 (42)			/	/
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	6 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)				
小計（a～b）	33 (33)	16 (16)	0 (0)	0 (0)	49 (49)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	33 (33)	16 (16)	0 (0)	0 (0)	49 (49)				

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数
11人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数
13人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数
13人

理学部 数学科	12 (12)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	16 (16)	1 (1)	2 (2)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	12 (12)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	16 (16)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	12 (12)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	16 (16)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	12 (12)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	16 (16)		
物理学科	8 (8)	7 (7)	2 (2)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	0 (0)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	7 (7)	2 (2)	1 (1)	18 (18)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	8 (8)	7 (7)	2 (2)	1 (1)	18 (18)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	8 (8)	7 (7)	2 (2)	1 (1)	18 (18)		
化学科	10 (10)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	2 (2)	4 (4)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	10 (10)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	17 (17)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	10 (10)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	17 (17)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	10 (10)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	17 (17)		
生物学科	9 (9)	8 (8)	3 (3)	3 (3)	23 (23)	1 (1)	2 (2)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (9)	8 (8)	3 (3)	3 (3)	23 (23)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	9 (9)	8 (8)	3 (3)	3 (3)	23 (23)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	9 (9)	8 (8)	3 (3)	3 (3)	23 (23)		

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数
6人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数
6人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数
6人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数
6人

惑星学科	9 (9)	4 (4)	5 (5)	4 (4)	22 (22)	1 (1)	6 (6)		
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	4 (4)	5 (5)	4 (4)	21 (21)				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）	8 (8)	4 (4)	5 (5)	4 (4)	21 (21)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)				
計（a～d）	9 (9)	4 (4)	5 (5)	4 (4)	22 (22)				
学部共通	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)			0 (0)	2 (2)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)				
小計（a～b）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)				
計（a～d）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)				
医学部 医学科	67 (67)	53 (53)	21 (21)	18 (18)	159 (159)	1 (1)	122 (122)		
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	67 (67)	53 (53)	21 (21)	18 (18)	159 (159)				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）	67 (67)	53 (53)	21 (21)	18 (18)	159 (159)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	67 (67)	53 (53)	21 (21)	18 (18)	159 (159)				
保健学科	22 (22)	18 (18)	7 (7)	5 (5)	52 (52)			0 (0)	69 (69)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	22 (22)	18 (18)	7 (7)	5 (5)	52 (52)				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）	22 (22)	18 (18)	7 (7)	5 (5)	52 (52)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	22 (22)	18 (18)	7 (7)	5 (5)	52 (52)				

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数6人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数105人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数12人

学部共通	-	-	-	-	-	0 (0)	8 (8)		
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	/	/		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)				
小計（a～b）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)				
計（a～d）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)				
工学部 建築学科	11 (11)	8 (8)	1 (1)	2 (2)	22 (22)			0 (0)	5 (5)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	11 (11)	8 (8)	1 (1)	1 (1)	21 (21)			/	/
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)				
小計（a～b）	11 (11)	8 (8)	1 (1)	2 (2)	22 (22)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	11 (11)	8 (8)	1 (1)	2 (2)	22 (22)				
市民工学科	9 (9)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	1 (1)		
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (9)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	/	/		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）	9 (9)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	16 (16)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	9 (9)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	16 (16)				
電気電子工学科	12 (12)	8 (8)	0 (0)	3 (3)	23 (23)			1 (1)	2 (2)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	12 (12)	8 (8)	0 (0)	3 (3)	23 (23)			/	/
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）	12 (12)	8 (8)	0 (0)	3 (3)	23 (23)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	12 (12)	8 (8)	0 (0)	3 (3)	23 (23)				

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数7人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数6人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数7人

機械工学科	7 (7)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	1 (1)	6 (6)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	18 (18)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	7 (7)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	18 (18)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	7 (7)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	18 (18)		
応用化学科	11 (11)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	22 (22)	1 (1)	4 (4)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	11 (11)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	22 (22)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	11 (11)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	22 (22)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	11 (11)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	22 (22)		
学部共通	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	0 (0)	12 (12)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
小計（a～b）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
計（a～d）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
農学部 食料環境システム学科	6 (6)	6 (6)	0 (0)	2 (2)	17 (17)	0 (0)	0 (0)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	6 (6)	0 (0)	2 (2)	14 (14)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	3 (3)		
小計（a～b）	6 (6)	6 (6)	0 (0)	5 (5)	17 (17)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	6 (6)	6 (6)	0 (0)	5 (5)	17 (17)		

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数7人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数7人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数6人

資源生命科学科	10 (10)	10 (10)	0 (0)	12 (12)	32 (32)	0 (0)	0 (0)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	10 (10)	10 (10)	0 (0)	8 (8)	28 (28)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	4 (4)		
小計（a～b）	10 (10)	10 (10)	0 (0)	12 (12)	32 (32)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	10 (10)	10 (10)	0 (0)	12 (12)	32 (32)		
生命機能化学科	14 (14)	10 (10)	0 (0)	9 (9)	33 (33)	0 (0)	0 (0)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	13 (13)	10 (10)	0 (0)	7 (7)	30 (30)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	3 (3)		
小計（a～b）	14 (14)	10 (10)	0 (0)	9 (9)	33 (33)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	14 (14)	10 (10)	0 (0)	9 (9)	33 (33)		
学部共通	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	0 (0)	8 (8)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
小計（a～b）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
計（a～d）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数
6人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数
6人

海洋政策科学部 海洋政策科学科		27 (27)	32 (32)	3 (3)	7 (7)	69 (69)	1 (1)	9 (9)	大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の四分の三の数 14人
a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	27 (27)	32 (32)	3 (3)	7 (7)	69 (69)			
b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		27 (27)	32 (32)	3 (3)	7 (7)	69 (69)			
c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		27 (27)	32 (32)	3 (3)	7 (7)	69 (69)			
計		457 (457)	294 (294)	78 (78)	83 (83)	912 (912)			20 (20)
合 計		457 (457)	294 (294)	78 (78)	83 (83)	912 (912)	20 (20)	- (-)	
職 種		専 属			そ の 他		計		
事 務 職 員		人 930 (930)			人 559 (559)		人 1489 (1489)		
技 術 職 員		1681 (1681)			947 (947)		2628 (2628)		
図 書 館 職 員		40 (40)			39 (39)		79 (79)		
そ の 他 の 職 員		8 (8)			117 (117)		125 (125)		
指 導 補 助 者		0 (0)			0 (0)		0 (0)		
計		2659 (2,659)			1,662 (1,662)		4,321 (4,321)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地	638,671㎡	-	㎡	-	㎡	638,671㎡	大学全体	
	そ の 他	554,539㎡	-	㎡	-	㎡	554,539㎡		
	合 計	1,193,210㎡	-	㎡	-	㎡	1,193,210㎡		
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計			
		369,814㎡ (369,814㎡)	-	㎡ (- ㎡)	-	㎡ (- ㎡)	369,814㎡ (369,814㎡)	大学全体	
教 室 ・ 教 員 研 究 室		教 室	206室	教 員 研 究 室		1,210室		大学全体	
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	学部単位での 特定不能なため、 大学全体の数	
	システム情報学部	3,768,728 [1,579,252] (3,768,728 [1,579,252])	51,183 [41,130] (51,183 [41,130])	47,827 [24,268] (47,827 [24,268])	37,836 [36,272] (37,836 [36,272])	84 (84)	- (-)		
	計	3,768,728 [1,579,252] (3,768,728 [1,579,252])	51,183 [41,130] (51,183 [41,130])	47,827 [24,268] (47,827 [24,268])	37,836 [36,272] (37,836 [36,272])	84 (84)	- (-)		
スポーツ施設等	スポーツ施設		講 堂		厚生補導施設			大学全体	
	38,935㎡		749㎡		7,317㎡				

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による (運営費交付金)
	教員1人当り研究費等								
	共同研究費等								
	図書購入費								
	設備購入費								
学生1人当り納付金		第1年次 千円	第2年次 千円	第3年次 千円	第4年次 千円	第5年次 千円	第6年次 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									
大 学 等 の 名 称 神戸大学									
学部等の名称	修業年限 年	入学定員 人	編入学員 定員 年次 人	収容定員 人	学位又は称号	収容定員 充足率 倍	開設 年度	所在地	
[学部] 文学部 人文学科	4	100	—	400	学士 (文学)	1.11 《1.07》	平成13年度	兵庫県神戸市灘区 六甲台町1-1	
国際人間科学部 グローバル文化学科	4	140	—	560	学士 (学術)	1.07 《1.01》	平成29年度	兵庫県神戸市灘区 鶴甲1-2-1	
発達コミュニティ学科	4	100	3年次 5	410		1.10 《1.01》			
環境共生学科	4	80	3年次 3	326		1.06 《1.02》			
子ども教育学科	4	50	3年次 2	204		1.07 《1.02》			
法学部 法律学科	4	180	3年次 20	760	学士 (法学)	1.04	昭和24年度	兵庫県神戸市灘区 六甲台町2-1	
経済学部 経済学科	4	270	3年次 20	1120	学士 (経済学)	1.14 《1.04》	昭和24年度	兵庫県神戸市灘区 六甲台町2-1	
経営学部 経営学科	4	260	3年次 20	1080	学士 (経営学又は商学)	1.10 《1.02》	昭和24年度	兵庫県神戸市灘区 六甲台町2-1	
理学部 数学科	4	28	—	112	学士 (理学)	1.09 《1.05》	昭和29年度	兵庫県神戸市灘区 六甲台町1-1	
物理学科	4	35	—	140		1.26 《1.21》			
化学科	4	30	—	120		1.20 《1.17》			
生物学科	4	25	—	100		1.15 《1.10》			
惑星学科	4	35	—	140		1.18 《1.15》			
学科共通			3年次 25	50		1.10 《1.06》			
									平成5年度

医学部									
医学科	6	112	2年次 5	637	学士 (医学)	1.01	昭和39年度	兵庫県神戸市中央区楠町7-5-1	
保健学科	4	160	—			1.04	平成6年度	兵庫県神戸市須磨区友が丘7-10-2	
看護学専攻	4	80	—	320	学士 (看護学)	1.04	平成6年度	同上	
検査技術科学専攻	4	40	—	160	学士 (保健衛生学)	1.06	平成6年度	同上	
理学療法学専攻	4	20	—	80	学士 (保健学)	1.02	平成6年度	同上	
作業療法学専攻	4	20	—	80	学士 (保健学)	1.07	平成6年度	同上	
工学部						1.07 《1.02》			
建築学科	4	93	—	372	学士 (工学)	1.06 《1.01》	平成19年度	兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1	
市民工学科	4	63	—	252		1.07 《1.04》	平成19年度	同上	
電気電子工学科	4	93	—	372		1.13 《1.05》	平成4年度	同上	
機械工学科	4	103	—	412		1.13 《1.07》	平成4年度	同上	
応用化学科	4	106	—	424		1.05 《1.02》	平成4年度	同上	
情報知能工学科	4	107	—	428		1.07 《1.02》	平成4年度	同上	
学科共通			3年次 20	40					
農学部						1.03 《0.99》			
食料環境システム学科	4	36	—	144	学士 (農学)	1.11 《1.05》	平成20年度	兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1	
資源生命科学科	4	55	—	220		1.06	平成20年度	同上	
生命機能科学科	4	69	—	276		1.03	平成20年度	同上	
学科共通			3年次 10	20					
海洋政策科学部						0.99			
海洋政策科学科	4	200	3年次 10	820	学士 (海洋政策科学又は商船学)		令和3年度	兵庫県神戸市東灘区深江南町5-1-1	
海事科学部						—			
グローバル輸送科学科	4	—	—	—	学士 (海事科学)		平成25年度	兵庫県神戸市東灘区深江南町5-1-1	
海洋安全システム科学科	4	—	—	—			平成25年度	同上	
マリソングニアリソク学科学科	4	—	—	—			平成25年度	同上	
学科共通			3年次 —	—					

令和3年度より募集停止
令和3年度より募集停止
令和3年度より募集停止

〔大学院〕								
人文学研究科								
文化構造専攻 (M)	2	17	—	34	修士 (文学)	0.82	平成19年度	兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1
社会動態専攻 (M)	2	27	—	54		1.01	平成19年度	同上
文化構造専攻 (D)	3	8	—	24	博士 (文学又は 学術)	1.62	平成19年度	同上
社会動態専攻 (D)	3	12	—	36		1.50	平成19年度	同上
国際文化学研究科								
文化関連専攻 (M)	2	18	—	36	修士 (学術)	1.16	平成19年度	兵庫県神戸市灘区鶴甲1-2-1
グローバル文化専攻 (M)	2	29	—	58		1.12	平成19年度	同上
文化関連専攻 (D)	3	6	—	18	博士 (学術)	1.44	平成19年度	同上
グローバル文化専攻 (D)	3	9	—	27		1.22	平成19年度	同上
人間発達環境学研究科								
人間発達専攻 (M)	2	51	—	102	修士 (学術又は 教育学)	1.00	平成25年度	兵庫県神戸市灘区鶴甲3-11
1年履修コース	1	4	—	4		0.75		同上
人間環境学専攻 (M)	2	36	—	72	修士 (学術又は理学)	0.84	平成19年度	同上
人間発達専攻 (D)	3	11	—	33	博士 (学術又は教育学)	1.96	平成25年度	同上
人間環境学専攻 (D)	3	6	—	18	博士 (学術又は理学)	1.77	平成19年度	同上
法学研究科								
法学政治学専攻 (M)	2	37	—	74	修士 (法学又は政治学)	0.91	平成30年度	兵庫県神戸市灘区六甲台町2-1
法学政治学専攻 (D)	3	18	—	54	博士 (法学又は政治学)	0.92	平成30年度	同上
実務法律専攻 (P)	3	80	—	240	法務博士 (専門職)	0.75	平成16年度	同上
経済学研究科								
経済学専攻 (M)	2	83	—	166	修士 (経済学)	0.88	平成20年度	兵庫県神戸市灘区六甲台町2-1
経済学専攻 (D)	3	20	—	60	博士 (経済学)	1.35	平成20年度	同上
経営学研究科								
経営学専攻 (M)	2	51	—	102	修士 (経営学又は商学)	1.02	平成24年度	兵庫県神戸市灘区六甲台町2-1
経営学専攻 (D)	3	32	—	96	博士 (経営学又は商学)	1.02	平成24年度	同上
現代経営学専攻 (P)	2	69	—	138	経営学修士 (専門職)	1.00	平成14年度	同上

理学研究科											
数学専攻(M)	2	22	—	44	修士 (理学)	1.18	平成19年度	兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1			
物理学専攻(M)	2	24	—	48		1.00	平成19年度		同上		
化学専攻(M)	2	28	—	56		1.14	平成19年度		同上		
生物学専攻(M)	2	24	—	48		1.00	平成19年度		同上		
惑星学専攻(M)	2	24	—	48		0.95	平成27年度		同上		
数学専攻(D)	3	4	—	12	博士 (理学又は 学術)	0.83	平成19年度	同上			
物理学専攻(D)	3	5	—	15		0.53	平成19年度	同上			
化学専攻(D)	3	6	—	18		0.77	平成19年度	同上			
生物学専攻(D)	3	6	—	18		1.00	平成19年度	同上			
惑星学専攻(D)	3	6	—	18		0.66	平成27年度	同上			
医学研究科											
バイオテクノロジー サイエンス専攻(M)	2	25	—	50	修士 (バイオテクノロジーサイエンス)	0.90	平成13年度	兵庫県神戸市中央区 楠町7-5-1			
医療創成工学専攻(M)	2	15	—	30	修士 (医工学)	1.10	令和5年度		同上		
医科学専攻(D)	4	120	—	420	博士 (医学)	1.19	平成13年度		同上		
医療創成工学専攻(D)	3	8	—	24	博士 (医工学)	1.37	令和5年度		同上		
保健学研究科											
保健学専攻(M)	2	79	—	143	修士 (保健学)	1.04	平成20年度	兵庫県神戸市須磨区 友が丘7-10-2			
保健学専攻(D)	3	25	—	75	博士 (保健学)	1.70	平成20年度		同上		
工学研究科											
建築学専攻(M)	2	64	—	128	修士 (工学)	1.03	平成19年度	兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1			
市民工学専攻(M)	2	42	—	84		1.02	平成19年度		同上		
電気電子工学専攻(M)	2	64	—	128		1.09	平成19年度		同上		
機械工学専攻(M)	2	76	—	152		0.94	平成19年度		同上		
応用化学専攻(M)	2	70	—	140		0.98	平成19年度		同上		
建築学専攻(D)	3	8	—	24	博士 (工学又は 学術)	0.79	平成19年度	同上			
市民工学専攻(D)	3	6	—	18		1.27	平成19年度	同上			
電気電子工学専攻(D)	3	8	—	24		0.75	平成19年度	同上			
機械工学専攻(D)	3	10	—	30		0.63	平成19年度	同上			
応用化学専攻(D)	3	10	—	30		1.43	平成19年度	同上			

科学技術イノベーション研究科	科学技術イノベーション専攻(M)	2	40	—	80 (科学技術イノベーション)	1.10	平成28年度	兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1	
	科学技術イノベーション専攻(D)	3	10	—	30 (科学技術イノベーション)	1.36	平成30年度	同上	
附属施設の概要	<p>名称: 経済経営研究所 目的: 経済及び経営に関する総合研究 所在地: 兵庫県神戸市灘区六甲台町2-1 設置年月: 昭和24年5月 規模等: 土地 103,097 m², 建物 4,984 m²</p>								※同一敷地・建物内にあるため土地・建物面積は合計を示す。
	<p>名称: 経済経営研究所附属企業資料総合センター 目的: 企業及び産業に関する文献等の総合的収集, 整備 所在地: 兵庫県神戸市灘区六甲台町2-1 設置年月: 平成22年4月 規模等: 土地 103,097 m², 建物 4,984 m²</p>								
	<p>名称: 附属図書館 目的: 学術発展への寄与 所在地: 兵庫県神戸市灘区六甲台町2-1 設置年月: 昭和24年5月 規模等: 土地 — m², 建物 27,263 m²</p>								※各キャンパス毎に設置されているため、土地の面積は集計不可。
	<p>名称: 医学部附属病院 目的: 医学の教育研究及び診療 所在地: 兵庫県神戸市中央区楠町7丁目5-2 設置年月: 昭和42年6月 規模等: 土地 41,181 m², 建物 107,739 m²</p>								
	<p>名称: 医学部附属病院国際がん医療・研究センター 目的: 医学の教育研究及び診療 所在地: 兵庫県神戸市中央区港島南町1丁目5-1 設置年月: 平成31年3月 規模等: 土地 6,395 m², 建物 13,258 m²</p>								※土地は借上を示す。
	<p>名称: 医学研究科附属動物実験施設 (医学研究科・医学部内) 目的: 動物実験の実施による教育研究 所在地: 兵庫県神戸市中央区楠町7丁目5-1 設置年月: 平成21年4月 規模等: 土地 8,665 m², 建物 34,926 m² (医学研究科・医学部を含む)</p>								※同一敷地・建物内にあるため土地・建物面積は合計を示す。
	<p>名称: 医学研究科附属感染症センター (医学研究科・医学部内) 目的: 感染症に関する研究及び臨床教育 所在地: 兵庫県神戸市中央区楠町7丁目5-1 設置年月: 平成21年4月 規模等: 土地 8,665 m², 建物 34,926 m² (医学研究科・医学部を含む)</p>								
	<p>名称: 海事科学研究科附属国際海事研究センター (海事科学研究科・海洋政策科学部内) 目的: 海事に関する総合的かつ先端的な研究 所在地: 兵庫県神戸市東灘区深江南町5丁目1-1 設置年月: 平成21年10月 規模等: 土地 94,547 m², 建物 41,681 m² (海事科学研究科・海洋政策科学部を含む)</p>								
	<p>名称: 海事科学研究科附属練習船海神丸 目的: 船舶による実験, 実習及び学術研究並びに共同利用 所在地: 兵庫県神戸市東灘区深江南町5丁目1-1 設置年月: 令和4年3月 規模等: 総トン数 889 トン</p>								
<p>名称: 農学研究科附属食資源教育研究センター 目的: 動植物資源開発から生産までに関わる実学の教育研究及び実習 所在地: 兵庫県加西市鶉野町1348 設置年月: 平成19年4月 規模等: 土地 403,787 m², 建物 7,071 m²</p>									

<p>名 称：内海域環境教育研究センターマリンスイト 目 的：内海域における自然環境及び環境保全に関する教育，研究 所 在 地：兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1 設置年月：平成 15 年 10 月 規 模 等：土地 3,122 m²，建物 1,183 m²</p>	
<p>名 称：附属幼稚園 目 的：幼稚園における教育及び研究 所 在 地：兵庫県明石市山下町3-4 設置年月：平成 21 年 4 月 規 模 等：土地 33,773 m²，建物 1,236 m²</p>	<p>※同一敷地内にあるため土地面積は合計を示す。</p>
<p>名 称：附属小学校 目 的：小学校における教育及び研究 所 在 地：兵庫県明石市山下町3-4 設置年月：平成 21 年 4 月 規 模 等：土地 33,773 m²，建物 4,324 m²</p>	
<p>名 称：附属中等教育学校 目 的：中等教育学校における教育及び研究 所 在 地：兵庫県神戸市東灘区住吉山手5丁目11-1 設置年月：平成 21 年 4 月 規 模 等：土地 29,185 m²，建物 11,843 m²</p>	
<p>名 称：附属特別支援学校 目 的：特別支援学校における教育及び研究 所 在 地：兵庫県明石市大久保町大窪2752-4 設置年月：平成 21 年 4 月 規 模 等：土地 16,652 m²，建物 3,642 m²</p>	

国立大学法人神戸大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和7年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
神戸大学				神戸大学				
文学部				文学部				
人文学科	100		400	人文学科	100		400	
国際人間科学部		3年次		国際人間科学部		3年次		
グローバル文化学科	140		560	グローバル文化学科	140		560	
発達コミュニケーション学科	100	5	410	発達コミュニケーション学科	100	2	404	編入学定員変更 (△3)
環境共生学科	80	3	326	環境共生学科	80	3	326	
子ども教育学科	50	2	204	子ども教育学科	50	0	200	編入学定員変更 (△2) 令和9年4月学生募集停止
法学部		3年次		法学部		3年次		
法律学科	180	20	760	法律学科	180	20	760	
経済学部		3年次		経済学部		3年次		
経済学科	270	20	1,120	経済学科	270	20	1,120	
経営学部		3年次		経営学部		3年次		
経営学科	260	20	1,080	経営学科	260	20	1,080	
理学部		3年次		理学部		3年次		
数学科	28		112	数学科	28		112	
物理学科	35		140	物理学科	35		140	
化学科	30		120	化学科	30		120	
生物学科	25		100	生物学科	25		100	
惑星学科	35		140	惑星学科	35		140	
学科共通		25	50	学科共通		25	50	
医学部		2年次		医学部		2年次		
医学科	112	5	697	医学科	100	5	625	※R6年度まで臨時定員12名増 (R7年度以降については調整中)
保健学科	160		640	保健学科	150		600	定員変更 (△10)
工学部		3年次		工学部		3年次		
建築学科	93		372	建築学科	90	3	366	定員変更 (△3) 編入学定員変更 (3)
市民工学科	63		252	市民工学科	60	3	246	定員変更 (△3) 編入学定員変更 (3)
電気電子工学科	93		372	電気電子工学科	90	4	368	定員変更 (△3) 編入学定員変更 (4)
機械工学科	103		412	機械工学科	100	4	408	定員変更 (△3) 編入学定員変更 (4)
応用化学科	106		424	応用化学科	103	3	418	定員変更 (△3) 編入学定員変更 (3)
情報知能工学科	107		428	情報知能工学科	0		0	令和7年4月学生募集停止
学科共通		20	40	学科共通	0	0	0	編入学定員変更 (△20) 情報知能工学科の3年次編入学定員は令和9年4月学生募集停止
システム情報学部				システム情報学部		3年次		学部の設置 (届出)
システム情報学科				システム情報学科	150	3	606	令和5年度大学・高専機能強化支援事業選定による
農学部		3年次		農学部		3年次		
食料環境システム学科	36		144	食料環境システム学科	36		144	
資源生命科学科	55		220	資源生命科学科	55		220	
生命機能科学科	69		276	生命機能科学科	69		276	
学科共通		10	20	学科共通		10	20	
海事科学部				海事科学部				
グローバル輸送科学科	-	-	-	グローバル輸送科学科	-	-	-	
海洋安全システム科学科	-	-	-	海洋安全システム科学科	-	-	-	
マリエンジニアリング学科	-	-	-	マリエンジニアリング学科	-	-	-	
学科共通	-	-	-	学科共通	-	-	-	
海洋政策科学部		3年次		海洋政策科学部		3年次		
海洋政策科学科	200	10	820	海洋政策科学科	200	10	820	
		2年次				2年次		
		5				5		
計	2,530	135	10,639	計	2,561	135	10,739	

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
神戸大学大学院					神戸大学大学院				
人文学研究科					人文学研究科				
文化構造専攻(M)	17	-	34		文化構造専攻(M)	17	-	34	
文化構造専攻(D)	8	-	24		文化構造専攻(D)	8	-	24	
社会動態専攻(M)	27	-	54		社会動態専攻(M)	27	-	54	
社会動態専攻(D)	12	-	36		社会動態専攻(D)	12	-	36	
国際文化学研究科					国際文化学研究科				
文化相關専攻(M)	18	-	36		文化相關専攻(M)	18	-	36	
文化相關専攻(D)	6	-	18		文化相關専攻(D)	6	-	18	
グローバル文化専攻(M)	29	-	58		グローバル文化専攻(M)	29	-	58	
グローバル文化専攻(D)	9	-	27		グローバル文化専攻(D)	9	-	27	
人間発達環境学研究所					人間発達環境学研究所				
人間発達専攻(M)	55	-	106		人間発達専攻(M)	55	-	106	
(1年履修コースを含む)					(1年履修コースを含む)				
人間発達専攻(D)	11	-	33		人間発達専攻(D)	11	-	33	
人間環境学専攻(M)	36	-	72		人間環境学専攻(M)	36	-	72	
人間環境学専攻(D)	6	-	18		人間環境学専攻(D)	6	-	18	
法学研究科					法学研究科				
法学政治学専攻(M)	37	-	74		法学政治学専攻(M)	37	-	74	
法学政治学専攻(D)	18	-	54		法学政治学専攻(D)	18	-	54	
実務法律専攻(P)	80	-	240		実務法律専攻(P)	80	-	240	
経済学研究科					経済学研究科				
経済学専攻(M)	83	-	166		経済学専攻(M)	83	-	166	
経済学専攻(D)	20	-	60		経済学専攻(D)	20	-	60	
経営学研究科					経営学研究科				
経営学専攻(M)	51	-	102		経営学専攻(M)	51	-	102	
経営学専攻(D)	32	-	96		経営学専攻(D)	32	-	96	
現代経営学専攻(P)	69	-	138		現代経営学専攻(P)	69	-	138	
理学研究科					理学研究科				
数学専攻(M)	22	-	44		数学専攻(M)	22	-	44	
数学専攻(D)	4	-	12		数学専攻(D)	4	-	12	
物理学専攻(M)	24	-	48		物理学専攻(M)	24	-	48	
物理学専攻(D)	5	-	15		物理学専攻(D)	5	-	15	
化学専攻(M)	28	-	56		化学専攻(M)	28	-	56	
化学専攻(D)	6	-	18		化学専攻(D)	6	-	18	
生物学専攻(M)	24	-	48		生物学専攻(M)	24	-	48	
生物学専攻(D)	6	-	18		生物学専攻(D)	6	-	18	
惑星学専攻(M)	24	-	48		惑星学専攻(M)	24	-	48	
惑星学専攻(D)	6	-	18		惑星学専攻(D)	6	-	18	
医学研究科					医学研究科				
バイオテクノロジー専攻(M)	25	-	50		バイオテクノロジー専攻(M)	25	-	50	
医科学専攻(D)	120	-	480		医科学専攻(D)	120	-	480	
医療創成工学専攻(M)	15	-	30		医療創成工学専攻(M)	15	-	30	
医療創成工学専攻(D)	8	-	24		医療創成工学専攻(D)	8	-	24	
保健学研究科					保健学研究科				
保健学専攻(M)	79	-	158		保健学専攻(M)	79	-	158	
保健学専攻(D)	25	-	75		保健学専攻(D)	25	-	75	
工学研究科					工学研究科				
建築学専攻(M)	64	-	128		建築学専攻(M)	64	-	128	
建築学専攻(D)	8	-	24		建築学専攻(D)	8	-	24	
市民工学専攻(M)	42	-	84		市民工学専攻(M)	42	-	84	
市民工学専攻(D)	6	-	18		市民工学専攻(D)	6	-	18	
電気電子工学専攻(M)	64	-	128		電気電子工学専攻(M)	64	-	128	
電気電子工学専攻(D)	8	-	24		電気電子工学専攻(D)	8	-	24	
機械工学専攻(M)	76	-	152		機械工学専攻(M)	76	-	152	
機械工学専攻(D)	10	-	30		機械工学専攻(D)	10	-	30	
応用化学専攻(M)	70	-	140		応用化学専攻(M)	70	-	140	
応用化学専攻(D)	10	-	30		応用化学専攻(D)	10	-	30	
システム情報学研究科					システム情報学研究科				
システム科学専攻(M)	-	-	-		システム科学専攻(M)	-	-	-	
システム科学専攻(D)	-	-	-		システム科学専攻(D)	-	-	-	
情報科学専攻(M)	-	-	-		情報科学専攻(M)	-	-	-	
情報科学専攻(D)	-	-	-		情報科学専攻(D)	-	-	-	
計算科学専攻(D)	-	-	-		計算科学専攻(D)	-	-	-	
システム情報学専攻(M)	95	-	190		システム情報学専攻(M)	103	-	206	定員変更(8)
システム情報学専攻(D)	12	-	36		システム情報学専攻(D)	12	-	36	
農学研究科					農学研究科				
食料共生システム学専攻(M)	26	-	52		食料共生システム学専攻(M)	26	-	52	
食料共生システム学専攻(D)	5	-	15		食料共生システム学専攻(D)	5	-	15	
資源生命科学専攻(M)	42	-	84		資源生命科学専攻(M)	42	-	84	
資源生命科学専攻(D)	8	-	24		資源生命科学専攻(D)	8	-	24	
生命機能科学専攻(M)	52	-	104		生命機能科学専攻(M)	52	-	104	
生命機能科学専攻(D)	10	-	30		生命機能科学専攻(D)	10	-	30	
海事科学研究科					海事科学研究科				
海事科学専攻(M)	75	-	150		海事科学専攻(M)	75	-	150	
海事科学専攻(D)	11	-	33		海事科学専攻(D)	11	-	33	
国際協力研究科					国際協力研究科				
国際開発政策専攻(M)	26	-	52		国際開発政策専攻(M)	26	-	52	
国際開発政策専攻(D)	8	-	24		国際開発政策専攻(D)	8	-	24	
国際協力政策専攻(M)	22	-	44		国際協力政策専攻(M)	22	-	44	
国際協力政策専攻(D)	7	-	21		国際協力政策専攻(D)	7	-	21	
地域協力政策専攻(M)	22	-	44		地域協力政策専攻(M)	22	-	44	
地域協力政策専攻(D)	8	-	24		地域協力政策専攻(D)	8	-	24	
科学技術イノベーション研究科					科学技術イノベーション研究科				
科学技術イノベーション専攻(M)	40	-	80		科学技術イノベーション専攻(M)	40	-	80	
科学技術イノベーション専攻(D)	10	-	30		科学技術イノベーション専攻(D)	10	-	30	
計	1,882		4,383		計	1,890		4,399	

教育課程等の概要															
(システム情報学部システム情報学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養科目	人文系	哲学	1①-4④		1		○								1
		論理学	1①-4④		1		○								1
		倫理学	1①-4④		1		○								1
		科学技術と倫理	1①-4④		1		○								1
		心理学A	1①-4④		1		○								1
		心理学B	1①-4④		1		○								1
		教育学A	1①-4④		1		○								1
		教育学B	1①-4④		1		○								1
		教育と人間形成	1①-4④		1		○								1
	言語科学A	1①-4④		1		○								1	
	言語科学B	1①-4④		1		○								1	
	文学A	1①-4④		1		○								1	
	文学B	1①-4④		1		○								1	
	芸術と文化A	1①-4④		1		○								1	
	芸術と文化B	1①-4④		1		○								1	
	芸術史A	1①-4④		1		○								1	
	芸術史B	1①-4④		1		○								1	
	美術史A	1①-4④		1		○								1	
	美術史B	1①-4④		1		○								1	
	科学史A	1①-4④		1		○								1	
	科学史B	1①-4④		1		○								1	
	日本史A	1①-4④		1		○								1	
	日本史B	1①-4④		1		○								1	
	東洋史A	1①-4④		1		○								1	
	東洋史B	1①-4④		1		○								1	
	アジア史A	1①-4④		1		○								1	
	アジア史B	1①-4④		1		○								1	
	西洋史A	1①-4④		1		○								1	
	西洋史B	1①-4④		1		○								1	
	考古学A	1①-4④		1		○								1	
	考古学B	1①-4④		1		○								1	
小計 (31科目)		-	-	0	31	0	-	-	-	0	0	0	0	0	24
社会系	法学A	1①-4④		1		○								1	
	法学B	1①-4④		1		○								1	
	社会生活と法	1①-4④		1		○								1	
	国家と法	1①-4④		1		○								1	
	政治学A	1①-4④		1		○								1	
	政治学B	1①-4④		1		○								1	
	政治と社会	1①-4④		1		○								1	
	経済学A	1①-4④		1		○								1	
	経済学B	1①-4④		1		○								1	
	現代の経済A	1①-4④		1		○								1	
	現代の経済B	1①-4④		1		○								1	
	経済社会の発展	1①-4④		1		○								1	
	経営学	1①-4④		1		○								1	
	社会学	1①-4④		1		○								1	
	教育と社会	1①-4④		1		○								1	
	地理学	1①-4④		1		○								1	
	社会思想史	1①-4④		1		○								1	
文化人類学	1①-4④		1		○								1		
現代社会論A	1①-4④		1		○								1		
現代社会論B	1①-4④		1		○								1		
生活環境と技術	1①-4④		1		○								1		
小計 (21科目)		-	-	0	21	0	-	-	-	0	0	0	0	0	20
自然系	数学A	1①-4④		1		○								1	
	数学B	1①-4④		1		○					1			1	
	数学C	1①-4④		1		○								1	
	数学D	1①-4④		1		○				1				1	
	統計学A	1①-4④		1		○								1	

教養科目	外国語系	Academic English Literacy B2 (ACE)	1①-4④			0.5		○								1		
		第三外国語 (ドイツ語) T1	1①-4④			0.5		○									1	
		第三外国語 (ドイツ語) T2	1①-4④			0.5		○									1	
		第三外国語 (ドイツ語) T3	1①-4④			0.5		○									1	
		第三外国語 (ドイツ語) T4	1①-4④			0.5		○									1	
		第三外国語 (フランス語) T1	1①-4④			0.5		○									1	
		第三外国語 (フランス語) T2	1①-4④			0.5		○									1	
		第三外国語 (フランス語) T3	1①-4④			0.5		○									1	
		第三外国語 (フランス語) T4	1①-4④			0.5		○									1	
		小計 (20科目)	-	-	0	10	0	-					0	0	0	0	0	5
科・スポーツ	健康・スポーツ	健康・スポーツ科学講義A	1①-4④			1	○									1		
		健康・スポーツ科学講義B	1①-4④			1	○									1		
		健康・スポーツ科学実習基礎	1①-4④			1				○						1		
		健康・スポーツ科学実習1	1①-4④			0.5					○					1		
		健康・スポーツ科学実習2	1①-4④			0.5					○					1		
		小計 (5科目)	-	-	0	0	4	-					0	0	0	0	0	3
専門科目	基礎系	数学	線形代数	1前	○	2		○				1						
			基礎解析	1前	○	2		○				1						
			離散数学	1前			2		○				1					
			代数・幾何演習1	1前			1			○			1					
			解析演習1	1前			1				○		1					
			代数概論	1後			2		○				1				1	
			応用解析	1後			2		○				1					
			代数・幾何演習2	1後			1				○		1					
			解析演習2	1後			1				○		1					
			幾何概論	2前			2		○				1				1	
			常微分方程式論	2前			2		○				1					
			複素関数論	2前			2		○				1					
			数理論理学	2後			2		○				1					
			偏微分方程式	3前			2		○				1					
小計 (14科目)	-	-	4	20	0	-				8		0	0	0	1			
物理学	物理学	物理基礎	1前	○	2		○				2							
		物理数学	1後	○	2		○				1						オムニバス	
小計 (2科目)	-	-	4	0	0	-				3	0	0	0	0	0			
イデ エン タス サ	データ解析	確率・統計・情報	1前	○	2		○				1	1						
		データ解析	1後	○	2		○				1				1			
小計 (2科目)	-	-	4	0	0	-				1	1	0	0	0	1			
ズ ム ル ゴ リ	計算論	アルゴリズムとデータ構造	1前	○	2		○				1							
		計算論	1後			2		○			1	1						
小計 (2科目)	-	-	2	2	0	-				1	1	0	0	0	0			
数理系	設計と計画	システムモデル	1後	○	2		○				1							
		最適化理論1	2前	○	2		○				1				1			
		最適化理論2	2後			2		○				1						
		設計工学	3前			2		○				1						
	小計 (4科目)	-	-	4	4	0	-			3	1	0	0	0	1			
	計測と制御	制御工学1	2前	○	2		○				1							
制御工学2		2後			2		○			1								
知能ロボティクス		3前			2		○				1							
計測工学		3後			2		○				1							
小計 (4科目)	-	-	2	6	0	-			2	2	0	0	0	0				
現象系	信号処理	信号処理1	2前	○	2		○				1							
		信号処理2	2後			2		○			1							
		画像工学	3前			2		○			1							
		光情報工学	3後			2		○			1							
	小計 (4科目)	-	-	2	6	0	-			3		0	0	0	0			
	物理計算	数値解析1	1後	○	2		○				1	1					共同	
数値解析2		2前	○	2		○				1								
数値解析3		2後			2		○			1								
量子コンピューティング		3前			2		○			1								
HPC		3後			2		○			1								
小計 (5科目)	-	-	4	6	0	-			3	2	0	0	0	0				
情報系	計算機工学	コンピュータシステム1	1前	○	2		○				1							
		コンピュータシステム2	1後	○	2		○				1				1			
		コンピュータシステム3	2前	○	2		○				1							
		情報通信工学	2前	○	2		○				1							
		情報セキュリティ	2後			2		○			1							
		ソフトウェア工学1	2後			2		○			1	1						
		電子回路	2後			2		○			1							
		並列コンピューティング	3前			2		○				1						
		ソフトウェア工学2	3前			2		○				1						
		量子デバイス	3前			2		○				1						
小計 (10科目)	-	-	8	12	0	-			5	5	0	0	0	1				

教育課程等の概要																
【基礎となる学部等】(工学部 情報知能工学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員(助手を除く)
全学共通授業科目 基礎教養科目 人文系 社会科学系 生命科学系 自然科学系 総合教養科目 (1) 多文化理解	哲学	哲学	1②-2④		1		○							1		
	心理学	心理学A	1②-2④		1		○							1		
		心理学B	1②-2④		1		○							1		
	論理学	論理学	1②-2④		1		○							1		
	教育学	教育学A	1②-2④		1		○							1		
		教育学B	1②-2④		1		○							1		
	倫理学	倫理学	1②-2④		1		○							1		
	小計(7科目)		—	—	0	7	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	法学	法学A	1②-2④		1		○								1	
		法学B	1②-2④		1		○								1	
	政治学	政治学A	1②-2④		1		○								1	
		政治学B	1②-2④		1		○								1	
	経済学	経済学A	1②-2④		1		○								1	
		経済学B	1②-2④		1		○								1	
	経営学	経営学	1②-2④		1		○								1	
社会学	社会学	1②-2④		1		○								1		
教育社会学	教育社会学	1②-2④		1		○								1		
地理学	地理学	1②-2④		1		○								1		
小計(10科目)		—	—	0	10	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
医学	医学A	1②-2④		1		○								1		
	医学B	1②-2④		1		○								1		
保健学	保健学A	1②-2④		1		○								1		
	保健学B	1②-2④		1		○								1		
	健康科学A	1②-2④		1		○								1		
	健康科学B	1②-2④		1		○								1		
生物学	生物学A	1②-2④		1		○								1		
	生物学B	1②-2④		1		○								1		
	生物学C	1②-2④		1		○								1		
小計(9科目)		—	—	0	9	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
情報科学	データサイエンス基礎学	1②-2④		1		○								1		
小計(1科目)		—	—	0	1	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
教育と人間形成	教育と人間形成	1②-2④		1		○								1		
文学	文学A	1②-2④		1		○								1		
	文学B	1②-2④		1		○								1		
言語科学	言語科学A	1②-2④		1		○								1		
	言語科学B	1②-2④		1		○								1		
芸術と文化	芸術と文化A	1②-2④		1		○								1		
	芸術と文化B	1②-2④		1		○								1		
日本史	日本史A	1②-2④		1		○								1		
	日本史B	1②-2④		1		○								1		
東洋史	東洋史A	1②-2④		1		○								1		
	東洋史B	1②-2④		1		○								1		
アジア史	アジア史A	1②-2④		1		○								1		
	アジア史B	1②-2④		1		○								1		
西洋史	西洋史A	1②-2④		1		○								1		
	西洋史B	1②-2④		1		○								1		
考古学	考古学A	1②-2④		1		○								1		
	考古学B	1②-2④		1		○								1		
芸術史	芸術史A	1②-2④		1		○								1		
	芸術史B	1②-2④		1		○								1		
美術史	美術史A	1②-2④		1		○								1		
	美術史B	1②-2④		1		○								1		
科学史	科学史A	1②-2④		1		○								1		
	科学史B	1②-2④		1		○								1		
社会思想史	社会思想史	1②-2④		1		○								1		
文化人類学	文化人類学	1②-2④		1		○								1		
現代社会論	現代社会論A	1②-2④		1		○								1		
	現代社会論B	1②-2④		1		○								1		
越境する文化	越境する文化	1②-2④		1		○								1		
生活環境と技術	生活環境と技術	1②-2④		1		○								1		
カタチの文化学	カタチの文化学	1②-2④		1		○								1		
小計(30科目)		—	—	0	30	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

全学共通授業科目	外国語第Ⅰ	Academic English Communication A1	1①			0.5			○											1		
		Academic English Communication A2	1②			0.5			○												1	
		Academic English Communication B1	1③			0.5			○												1	
		Academic English Communication B2	1④			0.5			○												1	
		Academic English Communication B1 (選抜上級クラス)	1③				0.5			○											1	
		Academic English Communication B2 (選抜上級クラス)	1④				0.5			○											1	
		Academic English Literacy A1	1①			0.5				○											1	
		Academic English Literacy A2	1②			0.5				○											1	
		Academic English Literacy B1	1③			0.5				○											1	
		Academic English Literacy B2	1④			0.5				○											1	
		Academic English Literacy B1 (選抜上級クラス)	1③				0.5			○											1	
		Academic English Literacy B2 (選抜上級クラス)	1④				0.5			○											1	
		小計 (12科目)		—	—	0	4	2		—		0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	—
	外国語第Ⅱ	ドイツ語初級A 1	1①			0.5				○											1	
		ドイツ語初級A 2	1②			0.5				○											1	
		ドイツ語初級B 1	1①			0.5				○											1	
		ドイツ語初級B 2	1②			0.5				○											1	
		ドイツ語初級A 3	1③			0.5				○											1	
		ドイツ語初級A 4	1④			0.5				○											1	
		ドイツ語初級B 3	1③			0.5				○											1	
ドイツ語初級B 4		1④			0.5				○											1		
ドイツ語初級S A 3		1③				0.5			○											1		
ドイツ語初級S A 4		1④				0.5			○											1		
ドイツ語初級S B 3		1③				0.5			○											1		
ドイツ語初級S B 4		1④				0.5			○											1		
フランス語初級A 1		1①			0.5				○											1		
フランス語初級A 2		1②			0.5				○											1		
フランス語初級B 1		1①			0.5				○											1		
フランス語初級B 2		1②			0.5				○											1		
フランス語初級A 3		1③			0.5				○											1		
フランス語初級A 4		1④			0.5				○											1		
フランス語初級B 3		1③			0.5				○											1		
フランス語初級B 4		1④			0.5				○											1		
フランス語初級S A 3		1③				0.5			○											1		
フランス語初級S A 4		1④				0.5			○											1		
フランス語初級S B 3		1③				0.5			○											1		
フランス語初級S B 4		1④				0.5			○											1		
中国語初級A 1		1①			0.5				○											1		
中国語初級A 2		1②			0.5				○											1		
中国語初級B 1		1①			0.5				○											1		
中国語初級B 2		1②			0.5				○											1		
中国語初級A 3		1③			0.5				○											1		
中国語初級A 4		1④			0.5				○											1		
中国語初級B 3		1③			0.5				○											1		
中国語初級B 4		1④			0.5				○											1		
中国語初級S A 3		1③				0.5			○											1		
中国語初級S A 4		1④				0.5			○											1		
中国語初級S B 3		1③				0.5			○											1		
中国語初級S B 4		1④				0.5			○											1		
ロシア語初級A 1		1①			0.5				○											1		
ロシア語初級A 2		1②			0.5				○											1		
ロシア語初級B 1		1①			0.5				○											1		
ロシア語初級B 2		1②			0.5				○											1		
ロシア語初級A 3		1③			0.5				○											1		
ロシア語初級A 4		1④			0.5				○											1		
ロシア語初級B 3		1③			0.5				○											1		
ロシア語初級B 4		1④			0.5				○											1		
小計 (44科目)		—	—	0	16	6		—		0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	—		
情報科目	情報基礎	1①		1					○											1		
	小計 (1科目)		—	—	1	0	0		—		0	0	0	0	0	0	0	0	1	—		
健康・スポーツ科学	健康・スポーツ科学講義A	1③				1			○											1		
	健康・スポーツ科学講義B	1③				1			○											1		
	健康・スポーツ科学実習基礎	1①②		1																1		
	健康・スポーツ科学実習1	1③				0.5			○											1		
	健康・スポーツ科学実習2	1④				0.5			○											1		
小計 (5科目)		—	—	1	0	3		—		0	0	0	0	0	0	0	0	4	—			

専門科目	オペレーションズリサーチ	3③④			2		○			1									
	現代制御	3③④			2		○			1									
	システムモデル (△)	2①②	○	2			○			1									
	ロボティクス (△)	3①②	○	2			○			1	1								
	現象計算 (△)	2③④	○	2			○			5									
	信号解析演習 (○)	2①②	○	0.5			○			1							1	隔週	
	プログラミング演習 I (◎)	1①②	○	1			○			20	21								
	プログラミング演習 II (◎)	1③④	○	1			○			20	21								
	アルゴリズム・データ構造演習 (○)	1①②	○	0.5			○			1									隔週
	応用アルゴリズム演習 (◎)	2③④	○	0.5			○			20	21								
	総合演習 1 (◎)	3①②	○	1			○			20	21								
	総合演習 2 (◎)	3③④	○	1			○			20	21								
	総合実験 1 (◎)	3①②	○	2			○			20	21								
	総合実験 2 (◎)	3③④	○	2			○			20	21								
	ソフトウェア開発	3③④			2		○				1								
	H P C	3③④			2		○			1									
卒業研究 (△)	4通	○	8						20	21									
その他必要と認める専門科目	—																	その都度定める	
小計 (46科目)	—	—	61	26	0	—			20	21	0	0	0	0	1			—	
合計 (272科目)	—	—	87	195 又は 196	11	—			20	21	0	0	0	0	173			—	
学位又は称号	学士 (工学)			学位又は学科の分野			工学関係												
卒業要件及び履修方法										授業時間等									
卒業要件 124単位										1 学年の学期区分				2学期					
【内訳】										1学期の授業期間				15週					
全学共通授業科目										1時限の授業の標準時間				90分					
基礎教養科目 6単位																			
総合教養科目 6単位																			
外国語科目																			
外国語第 I 4単位																			
※Academic English Communication B1,B2, Academic English Literacy B1,B2は AcademicEnglish Communication B1(選抜上級クラス), B2(選抜上級クラス), Academic English Literacy B1(選抜上級クラス), B2(選抜上級クラス) で読み替えることができる。																			
外国語第 II 4単位																			
※ドイツ語, フランス語, 中国語の初級A3, 初級A4, 初級B3, 初級B4は初級SA3, 初級SA4, 初級SB3, 初級SB4で読み替えることができる。																			
情報科目																			
情報基礎 1単位																			
健康・スポーツ科学																			
健康・スポーツ科学実習基礎 1単位																			
専門科目																			
高度教養科目 4単位																			
専門科目 98単位																			
1. 必修科目 (◎印) 33.5単位																			
必修科目 (○印) 13.5単位																			
必修科目 (△印) 38単位																			
2. 選択科目 13単位以上																			

授 業 科 目 の 概 要

(システム情報学部システム情報学科)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目 人文系	哲学		哲学的思考とは何か？ 私たちが子供の頃、「僕が僕で、君でないのはなぜ？」、「時の始まりはいつ？」、「宇宙の果てはどこ？」等々といった解決のつかない疑問を抱いたことがないだろうか。当時はそれが哲学的な大問題だとも知らずに、そうした疑問は考えても仕方がないもの、無意味なものとして放置され、今は疑問を抱いていたことも忘れてしまっているかもしれない。しかし、こうした問題を考察することは本当に無意味なのだろうか。たとえば、「私とは何か」とか、「時間とは何か」といった問題は普段わかったつもりになっているが、いざこれらの問題に答えようとなると答えることができない。実際、これらの「問題」に最終的な解答を出すことは困難であり、できないかもしれない。しかし、これらの「問題」を考察することで、分りきったもの、当たり前のものだと思いついでいる日常生活の世界がいかに脆弱なものの上に成り立っているのかに、逆に言えばそのかけがえのなさに気づくことができるのではないだろうか。このような問題意識、そしてそこから得られるこの気づきは、専門の研究にも活かされる思考態度でもあります。この講義では、「授業の概要」に挙げられている哲学の諸問題に対して、哲学的に思考するとはどのようなことを具体的に提示することで、その思考パターンを理解し、その思考態度を身につけます。	
	論理学		講義と課題を通じて、論証の基本的形式や演繹や帰納などといった種々の推論形式を学ぶことで、論理的にものごとを考えるための力を養う。正しい推論や論証についての基本的な理解を得ること、与えられた主張の論理的内容を正確に把握できるようになること、それについての的確な批判ができるようになること、などがこの授業の目標である。	
	倫理学		倫理学は、社会における人間関係に見られる規範、原理、規則についての学問である。この授業では、倫理学における諸問題に対してどのような規範、原理、規則が考えられるのかを学ぶ。「倫理学」とは、古典ギリシア語のエトス(人柄)に由来する英語ethicsに相当する日本語であり、哲学の一部門を成す学問である。ただ、古来より現代に至るまで行われてきた倫理的な営みは、それが人間の生について学問的に探究するものであるという共通点を別にすれば、極めて多様な広がりを有している。本科目では、そのような倫理学が、どのような問題をどのように考察し、そしてどのような立場がそこに見出されるのかについて、受講者が体感できることを目標とする。	
	科学技術と倫理		科学技術の身体への介入、特に障害と科学技術の問題に焦点をあて、具体的な事例を参照しつつ、倫理学の観点から考える。各回で扱うそれぞれのトピックについて、何が問題になっているのかを把握するとともに、自分自身で問いを立てそれについて検討できるようになる。	
	心理学A		心理学Aでは実験心理学を扱う。特に知覚心理学、認知心理学、学習心理学、社会心理学、感情心理学など実験という手法を用いて心のありかたを研究している領域について学ぶ。心理学Aでは実験心理学の基本的な考え方を身につけることを目標とする。実験心理学では、心のはたらきを実験という手法により明らかにしようとする。そこで大事になるのは、実験をどのように設計するかということ、心のはたらきを捉えるためにどのような測定を行うかということである。これについては、具体的な実験の例を知ることで理解が深まる。そこで、心理学Aでは、実験心理学の諸領域を網羅的に概観することはせず、いくつかの代表的な実験事例を通じて実験心理学を学ぶ。	
	心理学B		誕生から死に至るまでの人間発達の特徴を発達心理学の観点から理解し、その発達を支援する働きかけを教育心理学や臨床心理学の観点から学習する。①人間発達がどのように生じるのかというメカニズムと、各発達段階である胎児期、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期、中年期、老年期の特徴と意義を理解する。あわせて、発達研究に用いられる実験、観察、調査、事例研究などの研究方法を理解し、その研究方法によりどのようにして知見が得られたかを知る。②発達の中で生じるつまずき、不適応、精神病理、障害などについて理解を深め、どのような支援があるかを知る。	
	教育学A		本科目では、科学教育、国語教育、学習科学、家族関係学、教育方法学、日本教育史、乳幼児教育、社会認識教育、教育法制度、教育経営などの観点から教育学に関する基本的な内容を講述する。教育学、特に乳幼児教育学に関する基礎的な知見を獲得することを目標とする。	
	教育学B		本授業では、現代の教育問題の本質について、事例とディスカッションを通じて掘り下げます。これにより、教育問題の多面性と複雑性を認識し、それぞれの立場がどのような論理に基づいているかを理解します。 ・現代の教育問題におけるその特徴について、複数の立場を踏まえて説明できる ・現代の教育問題に対して、自分の見解を論理的に述べることができる	
	教育と人間形成		この授業のテーマは「映像から学ぶ教育問題」です。この授業では学校教育および大学教育に関するさまざまな映像作品を鑑賞し、意見交換を行います。本授業では大学生と社会との関係性について古今東西の映像作品を鑑賞することにより、大学生としてどう生きるか、どう学ぶかという点について一定の知見を得ることを目標とします。	
	言語科学A		授業のテーマは「言語学入門」です。特に統語論と意味論を中心に講義していきます。英語を主な対象としますが、日本語との比較も取り入れます。 統語論と意味論の基礎を学ぶ。	
	言語科学B		一般言語学の主要分野の一つである語用論(pragmatics)の基礎的な内容について講義していきます。英語を主な対象としますが、日本語との比較も取り入れます。 ・語用論の主要な研究テーマについて理解する。 ・語用論の研究手法の基本を学ぶ。	
	文学A		《テーマ》 アジア系アメリカ演劇にみるマスキュリティ(男らしさ/男性性) 《目標》 この講義では、マスキュリティ(男らしさ・男性性)という視点から、アメリカの現代社会とマイリテリティ文学(特にアジア系アメリカ人の戯曲/演劇)の関係について焦点を当て、アジア系アメリカ人のマスキュリティにまつわる問題点(アイデンティティ再構築、ホモフォビア、ステレオタイプとしてのブルース・リー、モデル・マイリテリティ神話、イデオロギーとしてのアメリカ家族など)について考察する。また、文学と他の文化メディア(映像・音楽・マスメディアなど)あるいは日本の社会・文学などと比較研究するなどして、文学に対する多角的なアプローチを試みる。受講者がアメリカ社会・文化についての理解を深め、アメリカ文学・演劇についての興味を高めることを目標とする。	

教養科目	人文系	文学B	テーマは「古典」からみる日本の思想である。私たちは『万葉集』『源氏物語』『平家物語』などを日本の古典と捉え、それらには日本人のものの感じ方の特徴が示されていると自然に判断している。本講義を受講することで、履修者は、このような常識を疑い、作品に即して学ぶとともに、近代日本の歴史的背景を知ることによって、ある作品が「古典」となる理由を理解することができるようになることを目標とする。
		芸術と文化A	西洋及び日本の美術作品に親しみ、主体的、能動的な美術鑑賞能力を身につける。美術史の知識を学ぶとともに、美術作品に親しみ、鑑賞スキルを身につけ総合的な美術鑑賞能力を獲得することを目標とする。
		芸術と文化B	「描かれた芸術」美術作品に描かれた日本の様々な芸術を読み解く。日本の美術作品に親しむとともに、そこに描かれている行事や歌、踊り、楽器などに関する基礎知識を獲得する。
		芸術史A	私達はともすれば音楽を、それだけが独立して存在しているものとみなしてしまいがちである。しかし音楽は、それを取り巻く人々の営み(社会)なしには存在しない。 例えば、現代における音楽のつくられかたはテクノロジーの発達を抜きにしては考えられないだろう。あるいは19世紀のヨーロッパ芸術音楽の「伝達」には、楽譜というその時代のメディアの状況が大いに関わってくるだろう。さらに、そもそも音楽(音楽家)というものを、人々がどのようにみなし受け止めているのかという認識や行動を考えると、音楽はそれを支える社会集団とともに考察する必要があるだろう。 このように音楽は、「生産」「伝達」「受容」のどの局面においても、社会と無縁ではありえない。本講義では、音楽そのものを対象とするのではなく、音楽のどの局面においても深く関わってくる「社会」といものを広く視野に入れることを目指し、音楽が音楽「外」のものといかに関わっているのかについて広く考えてゆきたい。 (1) 音楽研究の歴史を、文化研究としてとらえることができる。 (2) 音楽を音響それだけではなく、社会的及び歴史的背景からとらえることができる。 (3) 「異文化を理解する」ということを通して、自分自身の傾向やバイアスに気付くことができる。 (4) 音楽の好き嫌いを個人的なものとしてではなく、ある程度社会学的観点から説明できる。
		芸術史B	エポックメーカーと評されてきた音楽作品、作曲家は、なぜ時代の代表的な表現と称されているのか? その音楽芸術の表現様式の変遷、その社会的、文化的背景と意味について学び、考察する。このことにより、今ここで鳴り響く音楽、「生の音楽」をただ「聞き流す」だけでなく、音楽の語法や文化的背景も含めて、多角的に「聴き取る」方法を学ぶ。「時間芸術」である音楽をより深く味わい、考えながら聴取する方法を学習することが目標となる。
		美術史A	美術史学の基礎とキリスト教 美術史学の基礎を通して、西洋文化の根幹であるキリスト教と美術、さらに両者の関係について理解する。
		美術史B	日本絵画の見方 日本絵画は、屏風や絵巻、掛け軸など、現代の日本ではなじみの少ない形状の作品が多い。この授業では、それぞれの形状に注目し、その作品の見方や魅力について紹介する。
		科学史A	ガリレオから見る科学史 IQ, 3Qは、ガリレオを中心とした、17世紀科学革命について、理解を深め、現代科学の問題性の根源を探るための考察をする。
		科学史B	江戸時代のイノベーション、渋川春海と伊能忠敬から見る科学史 イノベーション論のなかで特に江戸自体のイノベーションと、現代の軍事科学のABC、そして最先端科学(GRAINN: ゲノム科学、ロボット、AI、神経科学、ナノテク)について比較する。
		日本史A	テーマ グローバルヒストリー視点から「日本」の近代史を読み直す。 過去の社会編成のあり方を知ることで、現在を考える視座を養う。 対面の通常講義です。 過去の学びを通じて他者への想像力を養うと同時に、歴史的思考を通じて自分の立脚点を捉える見方を獲得する。足元に歴史あり! 短文のコメント(感想文にあらず)を書く能力の習得もめざす。
		日本史B	テーマ 「日本の近代化—開発の時代をくさむ」19-20世紀日本の資本主義化、帝国経験の時代を「開発の時代」としてとらえ、社会や人びとの歴史的経験から今日の社会のあり方を考える、相対化する試み。 なんとなく/あるいは受験科目として熟知?の「日本史」の延長にあらず。大学の一般教養としての歴史学は歴史的思考によつてももの見方を鍛える試み。「歴史」を通じ、他者への想像力を養い、「当たり前」への問いかけを含む訓練です。
		東洋史A	18世紀中国の社会と文化: 雍正帝の弾劾事件から考える 現代中国で起こっている諸現象を正しく理解し、東アジアの一員として、グローバル社会に相応しい行動規範を身につけること。
		東洋史B	イスラーム世界の歴史と文化 中東を中心に、イスラーム世界の歴史・社会・文化に関する基礎的知識を身につけることを目標とする。
		アジア史A	アジア史という「中国史」が主に語られることが多いかもしれませんが、「中国史」もあくまでもアジア史の一部に過ぎません。「中国」における歴代の王朝交代も中国本土内で完結していたわけではなく、周囲の様々な民族との関わり合いの中で行われてきました。このような考え方から、本講義では古代から現代に至るまでのアジアにおける「中国」と周辺民族との関係史を考察していきます。
		アジア史B	19世紀にヨーロッパ列強が東アジアに登場して以降、東アジアの国際関係は複雑に変容していきます。本講義では、近代東アジアの国際関係の変化をいくつかの重要事項を中心に考察していきます。
西洋史A	イギリスの人形劇「パンチ&ジュディ」をテーマとする。17世紀後半にイタリアから人形劇の一キャラクターとしてイギリスに渡来した「パンチネットロ」は、当時のイングランドの政治的・宗教的波乱をうまく乗りこなしつつ、19世紀には「パンチ&ジュディ」の主人公として人気の絶頂を迎え、現在に至るまで「イギリスの伝統」として演じ継がれるまでの人気者になった。本講義では「パンチ&ジュディ」のキャラクターや上演様式の成立と変遷を追いつつ、娯楽文化が芸術や商業だけでなく、それぞれの時代における政治や宗教の動きからどのような影響を受けるのかを考察していく。 パンチ&ジュディの歴史を手掛かりにイギリス文化についての知識を深め、同時に文化は芸術や商業だけでなく政治や宗教などとも常に相互に影響し合いながら発展していくものであることを理解できるようにする。		

教養科目	人文系	西洋史B		ソ連史 最新の研究に基づき、1917年のロシア革命から1991年のソ連解体までの約70年間にわたるソ連の歴史を検討する。 ・ソ連史の重要な問題・論点を理解し、論理的に説明できるようになることを目標とする。	
		考古学A		考古学について、古墳時代の奈良盆地の遺跡を中心に、時代背景や世界情勢も含めて紹介する。理論よりも実践例を重視する。 考古学の実践例を理解し、各自が興味を持った地域を考古学的に紹介できるようになることを目標とする。	
		考古学B		考古学について、日本列島における古墳時代の遺跡にみられる渡来系要素を中心に、東アジア情勢を考える。理論よりも実践例を重視する。 考古学の実践例を理解し、各自が興味を持った地域における渡来系要素を考古学的に紹介できるようになることを目標とする。	
	社会系	法学A		本授業では、法学が対象とする法規範のうち、国際法、特に国際慣習法を取り上げる。 国際法というと、多くの人には「パリ協定」「環太平洋パートナーシップ(TPP)」といった、ニュースで見かける具体的な条約の名前を思い浮かべるのではないだろうか。確かに、条約は国際法規範を構成する重要な法規範である。しかし、国際法にはもう一種類、慣習法という存在形態をとる法規範があり、国際社会での秩序維持において重要な役割を果たしている。にもかかわらず、慣習法は一般にはあまりその存在を知られておらず、知られている場合でも誤解されていることが少なくない。さらに、国際法における慣習法の位置づけは、国内法におけるそれとは全く異なる。 そこで、本授業では、この国際慣習法の概念を正確に理解するとともに、その意義と現代的課題を把握することを目指す。 ・国際法規範の存在形態のひとつである慣習法とは何か、およびその短所と長所、ならびに国際法における役割を説明できる ・慣習法の現代的意義と課題を把握し、今後の発展の方向性について自分の意見をまとめることができる	
		法学B		法学の基本的な用語とその意味を正確に習得すると共に、日本の近代法学の特徴を理解すること。民事と刑事の相違、法学の歴史、大陸法と英米法の相違、明治維新後の日本法、法の象徴としての女神像につき、梗概を説明できるようになること。	
		社会生活と法		国際移民の基本理論 私たちの日常生活はすでに、国際移民による労働なくしては成り立たなくなっている。それだけではなく、私たち自身が将来——留学生として、社会人として——国際移民となり日本以外の社会で生活する可能性もある。 この授業では、国際移民の歴史と現状を踏まえ、国際移民が(を)生み出しているさまざまな法的・政治的・経済的・社会的課題を俯瞰するとともに、人間が国境を越えて生活するとはどういうことであり、現代世界においていかに意義づけられるべきなのかを理解することを目指す。	
		国家と法		まず、「主権とは何か」から始め、国籍、人権、領域、法的手続の重要性、機能的管轄権の意味、および「コロナ2019」に関する国内法の諸事項につき概説する。当然に国内問題とみなされる国内法ですら、国際社会のあり方によって影響を受けることがあることを理解し、「国家と法」の関係が、国際社会の動向にあつて、変化してゆく構造を内包していることに鋭敏になり、自らの視座で「国家と法」の関係を提示できる能力を獲得する。	
		政治学A		現在のグローバル社会の実態を総体として大まかに理解することを目指す。冷戦構造崩壊後いつそうの市場原理主義と米国単独行動主義がさまざまな矛盾を生み、さらに9・11テロを契機としてそれらが大きく転換した。また中国が大きな影響力を持つようになってきた。具体的な実態に基づきながら、現代世界の内包する政治経済の意味と問題について検討する。知識の習得ではなく、視点の涵養を目標とする。	
		政治学B		日本政府は2020年10月、温室効果ガスの増加量を2050年までに実質ゼロとする目標「カーボンニュートラル」を宣言した。また、この目標を達成するために、岸田政権は、GX(グリーン・トランスフォーメーション)実行会議を2023年に設置した。今や世界には、パキスタンのように、地球温暖化の影響で国土の約三分の一が水没する被害を受ける国が現れ始めている。日本の国民の大半や若者は、まだ日本を環境先進国や技術大国だと考えているかもしれないが、実は、日本のエネルギー政策は、欧米にも中国にも出遅れてしまった。優れた技術を活かすためには、政府による適切な政策立案と、民間部門による迅速な実用化・商業化が求められている。 エネルギー政策は、「3E(安定供給、経済性、環境性)+S(安心)」という四つのサブ目標の均衡として立案される。エネルギー問題を解決するための省エネ、太陽光発電、水素発電などのための新技術の開発は、単に科学的探求により推進されているのではなく、法制度、税制や補助金、経営や投資、地方自治体の権限強化、電力自由化、国土の開発などにおける発想の転換により推進される。本講義では、公的部門と民間部門の担い役割分担と協力のあり方に関して、考えを深めてもらいたい。本講義は、政策を文理融合の観点から考える機会にもなる。 本講義では、日本政府によるエネルギー政策の課題に関して情報収集したり、批判的に考察したりする考え方を解説する。エネルギー調達に関してわかりやすく導入するために、最初に、小説・映画「海賊と呼ばれた男」で描かれた「神戸大学出身」の出光佐三によるイラン原油の輸入実話を紹介する。彼の発想や行動は、今でも学生の指針として刺激的である。 ・日本政府の政策に関して情報を集め、理解する方法を知る。 ・メディア情報や政策を批判的に考察する視点を養う。 ・資源確保のための官民による国際的な取り組みを理解できる視野を身につける。 ・技術系の問題と社会科学の問題の両方を考察できるようになる。	
		政治と社会		本講義では、現代における格差(貧困や不平等)、労働問題などの様々な社会問題について考察する。 以上の問題を考察しながら、当事者の声を政治および政策に反映させる仕組みの構築(住民、当事者の政策参加)の重要性や、民主主義について考えを深めることを目標とする。	
		経済学A		経済学Aはミクロ経済学の入門授業を行う。消費者や企業の行動、市場の機能およびその限界などについて解説する。経済のしくみを理解するために必要な基本的概念や分析枠組みを学び、さまざまな経済問題や経済政策について考えるためのミクロ経済学の基礎を習得することを目標とする。	
		経済学B		経済学Bはマクロ経済学の入門授業を行う。経済全体の活動を考え、経済成長や失業、利子率、物価上昇率、景気変動などについて解説する。経済のしくみを理解するために必要な基本的概念や分析枠組みを学び、さまざまな経済問題や経済政策について考えるためのマクロ経済学の基礎を習得することを目標とする。	

教養科目	社会系	現代の経済A	この授業では、経済学を専門としない人にも、現在の社会状況を経済学的な視点から理解できるようになることを目的とします。 <到達目標> (1) 経済学の分野で一般的に用いられる用語を理解し、説明することができるようになることを目標とします。 (2) 一國の経済動向についての問題意識を深め、講義で学んだ知識や理論を用いて考察することができるようになることを目標とします。	
		現代の経済B	本講義では、データ分析を行う際に必要となる統計学の基礎を学ぶ。例えば、「所得の高い人は所得の低い人にとって健康状態が良いか？」といった身近な例を用いて、どうすればそれを検証できるかを学ぶ。理論的に学ぶだけでなく、実際にデータを使ってExcelで分析を行う。その際、World Bankなど国連のデータを用いることで海外の現状についても理解を深める。 ・初級統計学の知識を習得する ・データを用いて簡単な仮説の検証ができるようになる。	
		経済社会の発展	今日経済の世界化(グローバル化)が急速な勢いで進行していますが、現代社会に生きる私たちは誰であれ否応なくその影響にさらされています。この授業では、経済学的発想の基礎を理解していただくと同時に、時間的・歴史的側面を重視して、今日にいたる現実の経済社会の発展を、下記の四つのキーワードに即してお話しします。経済社会を長期的な視野で理解する見方・考え方の基本を養っていただくことを目標としています。	
		経営学	テーマ: 経営学 経営学を専攻しない学部生を対象に、「企業とは何か」「経営とは何か」「経営学とはどのような学問か」等について、現実起こっている事例を豊富に取り入れ、基礎知識のない人にもわかりやすく授業を進めます。履修生が社会人になる時に必要になる、企業・経営・経営学についての基礎知識を身につけることを目標とします。	
		社会学	現代社会における多様な事象について、社会学的視点から分析・考察を行う。 1. 社会学の基本的な考え方を理解すること。 2. 現代社会の諸事象について、社会学的視点から考えることができるようになること。	
		教育と社会	「社会学」は社会現象をいかに説明するかという学問ですから、その研究対象は社会現象のすべてとなります。そのうち、社会現象としての「教育」に焦点を当てるのが「教育社会学」です。この授業の目的は、「教育社会学」の重要な概念や考え方を学ぶことを通じて、社会現象としての「教育」が実際はどのような特徴を持つものか、より正確に認識できるようになることにあります。	
		地理学	人間と社会(環境) さまざまな地理的事象を取り上げ、人間と社会、環境の特徴や互いの関係を、「地理学」の観点から考える。到達目標は、地理的な基礎知識を得て、標記課題への理解を深める点にある。	
		社会思想史	この授業では、近現代ヨーロッパの社会思想の歴史を学びます。16世紀から20世紀まで500年間の思想の歴史を、駆け足で追いかけていくことになります。注目するのは影響力の大きい社会思想家たちの主張ですが、「偉大な思想家たち」の列伝にこだわるとはならず、「その時々状況がどのようなものであったのか、そこでどういったことが問われ、どのような答えが、どうやって出されたのか」という関心をもってヨーロッパ史を見ていきます。 自分の中にいろいろな考え方を取り込んで、自分なりに組み合わせて使用していく(ありふれた)作業を、社会思想というジャンルにおいてもできるようにすること、そうすることで、近代史の先端にあると言える現代をもっと複眼的・立体的に眺めることができるようになることを目指します。そのための道具立てとして、近現代ヨーロッパ社会思想史の古典的な理解枠組みを獲得していきます。	
		文化人類学	文化人類学は、「異文化を通じて自文化を問い直す」ことを目的とする学問です。つまり、異文化のまなざしを獲得することによって私たちが「当たり前」だと思っていることが、実はまったく「当たり前」でないことを学ぶ学問であると言えます。異文化のまなざしを獲得するためには、一般的には異文化に1年以上にわたり滞在し、異文化のなかで使われている言語を学び、そこで行われている様々なイベントに加わって人々の営みを書き留め、人々が日々何を考えているのかについて事細かく聞き取り調査を行う必要があると言われます。そこで得られた調査資料をまとめたものが、「民族誌」と呼ばれる書き物です。この民族誌を武器に、文化人類学者は、政治学、経済学、歴史学、あるいは自然科学といった制度化された学問(ディシプリン)が創り出してきた「当たり前」に絶えず疑問を投げかけてきました。本講義では、文化人類学の学説史を踏まえながら、文化人類学的な観点から、他の学問分野についても考えていきます。その際、講義者が長年調査してきたベトナム、東南アジアの事例を適宜参照しながら、議論を進めていきます。	
		現代社会論A	私たちがいま生きているこの社会はどのような社会なのか。社会学はその成立当初から、この点について問題関心をいだいてきました。とりわけ20世紀後半以降、社会が複雑化するにつれ、大衆社会、管理社会、脱工業化社会、消費社会、情報社会などさまざまな考え方が主張されています。この授業では、社会学の基礎的な概念と社会学的思考をとおして、現代社会のトータルなイメージとその具体的な問題をとりあげます。 (1)社会学の基礎的な概念と社会学的思考をとおして現代社会を理解する。 (2)大衆社会化状況、少子高齢化など現代社会に特徴的な現象を理解する。 (3)消費化と情報化、環境・資源問題、南北問題など現代社会の基本的な枠組みを理解する。 (4)現代社会の具体的な問題について理解し、自分なりの見解をもつことができる。	
	現代社会論B	テーマ: 超高齢社会「日本」の理解 1) 超高齢社会日本の現状を知る 2) 超高齢社会における問題を理解する		
	生活環境と技術	環境問題と人間の経済活動の関係を理解し、環境問題解決に向けた技術の役割について考察する。開発か保全かという二項対立の超克について考えるための基礎を築く。環境問題の解決に向けた経済的方法論と技術をまなぶ。		
	自然系	数学A	数理的思考における基本的な知識及び「ものの見方」を学び、理解する。「かず」や「かたち」の中にある構造や体系における数理的な考え方及び理論を学ぶ。	
数学B		数理的思考における基本的な知識及び「ものの見方」を学び、理解する。実数や関数の性質や微積分の考え方、現象の解析的手法による解釈を学ぶ。		
数学C		数理的思考における基本的な知識及び「ものの見方」を学び、理解する。数学的概念の歴史的経過、哲学、美的感覚や、諸科学と数学の関連を学ぶ。		

教養科目	自然系	数学D		数理的思考における基本的な知識及び「ものの見方」を学び、理解する。自然現象・社会現象を理解するための数学的な表現方法や計算の仕組みを学ぶ。	
		統計学A		データを正しく扱うためのデータテラシーを身に付ける事は、日々の暮らしにおいても非常に大切な事である。この講義では、データを読み、視覚化し、整理するデータテラシーを学んだ後、確率変数、確率分布、極限定理、推定量などについて、実例を中心に学ぶ。データを読み、視覚化し、整理するデータテラシーを身に付け、確率と確率変数、確率分布などを理解し、データを統計的に分析し、正しく理解する方法を身に付ける。	
		統計学B		データを正しく扱うためのデータテラシーを身に付ける事は、日々の暮らしにおいても非常に大切な事である。この講義では、データを読み、視覚化し、整理するデータテラシーを学んだ後、確率変数、確率分布、推定、仮説検定について、実例を中心に学ぶ。データを読み、視覚化し、整理するデータテラシーを身に付け、確率と確率変数、確率分布などを理解し、データを統計的に分析し、正しく理解する方法、特に推定と仮説検定の考え方を身に付ける。	
		物理学A		物理学AおよびBは、物理学を必要としない専門領域(主として人文・社会系)の学生が、物理学の基本的な知識や、考え方を学ぶことを目的とする。物理学Aでは、古典物理学(力学、電磁気学、熱力学など)について、その基礎となるいくつかの重要な概念に焦点を絞って講義を行なう。物理学を必要としない専門領域の学生が、古典物理学にふれることを通じて、物理学とはどのような学問かを理解することを目標とする。	
		物理学B		物理学AおよびBは、物理学を必要としない専門領域(主として人文・社会系)の学生が、物理学の基本的な知識や、考え方を学ぶことを目的とする。物理学Bでは、現代物理学(相対性理論、量子力学など)について、その基礎となるいくつかの重要な概念に焦点を絞って講義を行なう。物理学を必要としない専門領域の学生が、現代物理学にふれることを通じて、物理学とはどのような学問かを理解することを目標とする。	
		現代物理学が描く世界		物理学の世界では、19世紀末までにニュートン力学や電磁気学、熱力学などに一応の完成が見られ、学問として完成したかのように思われた時代がありました。しかし当時の「古典物理学」で説明できなかったいくつかの現象を突破口として、20世紀には相対論や量子論といった現代物理学が誕生しました。今日、この現代物理学の成果なしには、エネルギー、情報通信など現代文明に不可欠なインフラを支えることはできません。さらにはこの現代物理学によって物質や生命、宇宙の根源に対する探求を進めることが可能になっています。この授業では、現代物理学を通して日常の社会から先端研究の世界まで俯瞰し、理解を深めることを目的とします。物理学を専門に学ぶことのない学生が、現代物理学にふれることを通じて、現代物理学が描く世界とはどのようなものかを理解することを目標とする。	
		身近な物理法則		身近な現象から様々なテーマを取りあげ、その背後にある物理法則との関係を学ぶ。身の回りにおける現象がどのような法則に従って引き起こされているのか、科学的な視点で理解できるようになることを目標とする。	
		化学A		我々の身近で起こる諸現象は、おおよそ物質構成要素である分子レベルで捉えることができる。一般に分子は複数の原子から構成されており、固有の形や性質を有している。本講義ではこうした分子にまつわる微視的な内容に関して平易に解説し、日常生活においても化学的思考ができることを目標とする。 1. 化学反応や分子構造を理解できる。2. 化合物の機能と構造との関係について理解できる。3. 日常生活において、化学との関わりを理解し、化学的思考ができる。	
		化学B		我々の身近で起こる諸現象は、おおよそ物質構成要素である分子レベルで捉えることができる。一般に分子は複数の原子から構成されており、固有の形や性質を有している。本講義ではこうした分子にまつわる微視的な内容に関して平易に解説し、日常生活においても化学的思考ができることを目標とする。 1. 化学反応や分子構造を理解できる。2. 化合物の機能と構造との関係について理解できる。3. 日常生活において、化学との関わりを理解し、化学的思考ができる。	
		生物学A		地球上の生物はすべて核酸を遺伝子として受けつぎながら、そこから必要な遺伝情報を取り出して核酸、タンパク質、炭水化物、脂質などのさまざまな機能分子を合成し、これらを巧妙に制御することで生命を維持し、増殖・進化してきた。すべての生命活動は細胞を単位として行われており、また一部の生物群は多細胞体制を進化させ組織分化を行うことで、1つの細胞では不可能な多様な機能を実現してきた。本講義では、これらの、生物に共通する生命の基本的な仕組みを学ぶ。生命現象の基礎である、細胞を単位とした遺伝および代謝や組織分化の基本メカニズムを理解する。	
		生物学B		全ての生物の生命活動は細胞を単位として行われているが、その生活の単位である個体は、バクテリアのように単細胞のものから陸上植物や哺乳類のように多細胞で複雑に組織分化してものまで見られ、さらには社会性昆虫のように個体単位で機能分化した生物まで多様である。本講義では、生物個体がどのように自らの体を作り上げ、多様な細胞環境にตอบสนองしながら生きているかについて、基本的な仕組みを学ぶ。さまざまな生物が、個体レベルで多様な生育環境にตอบสนองするための基本メカニズムとその多様性を理解する。	
		生物学C		30億年以上にわたる生物進化の結果、現在、地球上には数千種といわれる多様な生物が存在している。この授業では、生物多様性について学ぶとともに、現在みられる多様な生物がどのように誕生し、進化してきたかについて学ぶ。 ・生物多様性とはなにか、また生物多様性の重要性について説明することができる。 ・現世の生物多様性を俯瞰し、身近な生物に適用することができる。 ・生物がどのように多様化してきたか説明することができる。	
		生物学D		地球上には多様な生物が暮らしています。これら生物は、ときに周囲の環境に適応し、また、ときには周囲に変化をもたらしながら存続してきました。この授業では、私達とともに暮らす多様な生物が、どのように周囲の環境と関わりあっているのかを理解することを目指します。身近な自然を科学的な視点で楽しみ、それを他の人にもわかりやすく伝えられるようになることを目標にします。	
		生命科学A		生命機能とその異常。生命機能とその異常の根底にあるメカニズムに興味を持つ。	
		生命科学B		生命機能とその異常。生命機能とその異常の根底にあるメカニズムに興味を持つ。	
医学A		健康と疾病 学生あるいは社会人として健康・医学に関する基礎知識を習得する。			
医学B		健康と疾病 学生あるいは社会人として健康・医学に関する基礎知識を習得する。			

教養科目	自然系	保健学A	日本は世界でもトップレベルの長寿国ですが、今日のような長寿社会がもたらされたのは、病気の予防対策や検診などを初めとする保健学の進歩のおかげです。一方で、新しい感染症の出現や人口構成の変化に伴う病気の変化など、さまざまな新しい課題が次々と生じています。本講義では感染症、細胞の機能、メンタルヘルス、長寿社会と高齢者の保健、生活リズムと保健などについて講義します。健康で文化的な生活を送るために必要な保健学の知識を習得することを目標とします。なお、保健学Bと合わせて受講することにより、より広い保健学の知識を身につけることが可能になります。
		保健学B	近年の医療の進歩により、かつて治療が難しく死に至ることが当然であった、がんのような悪性の病気であっても、病状をコントロールして生存できるようになってきました。しかし、良い治療成績が得られるためには、早期診断と早期治療、そして健康管理が欠かせません。本授業では、重要と考えられる、小児の発達、患者報告型アウトカム/生活の質、メンタルヘルス、がん、女性の健康、神経機能に焦点を絞り、その基礎知識の習得を目指します。(1)生涯に渡り健康に過ごせるように、主要な病気に関する知識を深めて自身で体調管理ができること、(2)医学のトピックスを理解し、それらについて討論できるようになることを目標とします。
		健康科学A	本講義のテーマは、「健康とは？」を考えることです。私たちは毎日、食べたり、運動したり、物を見聞きし考えたり、眠ったりしています。これらは当たり前のことのようにですが、全ての身体の機能が順調に機能して初めて健康であると言えます。本講義では、学生が健康な生活を可能とする人体のさまざまな機能について、その構造や身近な病気とも関連づけながら学ぶことで、健康な生活を過ごすために有用な健康科学の知識を学修することを目標とします。なお、健康科学Bと合わせて受講することにより、より広い健康科学の知識を身につけることが可能になります。
		健康科学B	病気や怪我になって初めて健康のありがたさが分かりますように、健康であればあるほど健康については関心が薄くなります。本講義では、健康管理の対象となる心と身体について、それらの機能とも関連づけながら学びます。自分自身の健康への興味を高め、健康管理ができるようになることを目標とします。なお、健康科学Aと合わせて受講することにより、より広い健康科学の知識を身につけることが可能になります。
		惑星学A	惑星の構造と変動 地球・惑星の内部や表層の構造ならびにそこに見られる変動現象について基本的なことがらを理解することを目標とする。
		惑星学B	惑星と生命の起源と進化 宇宙における地球を含む諸天体の形成ならびに生命の起源と進化について基本的なことがらを理解することを目標とする。
		情報学A	現代社会においては、コンピュータやスマートフォンなど、情報技術を利用した機器が日常的な道具として我々の暮らしに溶け込んでいる。本講義では、それらを有効に利用するために、情報処理技術に関する知識を学ぶ。本講義は、様々な情報技術の歴史や仕組み、特にコンピュータに着目し、最近の活用事例を学び、高度に発展を続ける情報化社会に暮らす上で必要な知識を習得することを目標とする。
		情報学B	現代社会においては、コンピュータやスマートフォンなど、情報技術を利用した機器が日常的な道具として我々の暮らしに溶け込んでいる。本講義では、それらを有効に利用するために、情報処理技術に関する知識を学ぶ。本講義は、様々な情報技術の歴史や仕組み、特にインターネットに着目し、最近の活用事例を学び、高度に発展を続ける情報化社会に暮らす上で必要な知識を習得することを目標とする。
	総合系	ESD論(持続可能な社会づくり)基礎	ESDとは、あらゆる人が互いに連携・協働しながら持続可能な開発を実現する主体になるような仕組み(場・装置・活動)のことです。ESD基礎では、あらゆる人との関係づくりや学び合い(協働・共同・協同)を体験するとともに、頭と心と心をゆるめほぐすなかで、固定観念や思い込みを一旦学びすて、また構築することを繰り返し、「ゆらぎ」も体験してもらいます。
		ESD論(持続可能な社会づくり)A	ESDとは、あらゆる人が互いに連携・協働しながら持続可能な開発を実現する主体になるような仕組み(場・装置・活動)のことです。ESD論Aでは、ESDの世界に触れ、SDを探究する面白さを感じながら、理想を追究ことの楽しさや専門を総合化することの大切さを学んでもらいます。
		ESD論(持続可能な社会づくり)B	ESDとは、あらゆる人が互いに連携・協働しながら持続可能な開発を実現する主体になるような仕組み(場・装置・活動)のことです。ESD論Bでは、ESD論Aをふまえて、ESDの世界に触れ、SDを探究する面白さを感じながら、理想を追究ことの楽しさや専門を総合化することの大切さをグループワークを通して主体的に学んでもらいます。
		環境学入門A	地球環境問題は今世紀最大の課題となっている。本講義「環境学入門A」では、自然科学の立場から、幅広く環境に関する基礎知識とアプローチ方法を講義する。
		環境学入門B	地球環境問題は今世紀最大の課題となっている。本講義「環境学入門B」では、人文・社会科学の立場から、幅広く環境に関する基礎知識とアプローチ方法を講義する。様々な環境問題やそれに対する多様な解決法について、人文・社会科学の立場から網羅的な理解を達成し、自分自身の考え方や創造的なアイデアを構築出来るようになることを目標とする。
		海への誘い	海事科学研究科附属練習船「海神丸」や大型クルーズ船「クライナーベルク」等の実際の船舶の乗船・操縦の実習と関連する座学を通じて、大阪湾を題材とした海運の現状及び海の利用についての検討と考察を促すことを目的としています。国民生活を支える海運と接点としての港湾の紹介、さらには「海の利用」についての実習や見学を通じて、受講者各位の学術活動等との関係性についてそれぞれの解釈を得る。
瀬戸内海学入門	瀬戸内海は海の恵みと温暖な気候により人類に豊かな生活・生産の場を与えてきた。沿岸部には古くから人工が集約し、人間活動が営まれ、その長い歴史をとおして文化・産業・交通などを発達させてきた。1960年代以降、工業化に伴う海水汚染や埋め立てによる自然海浜の消失により瀬戸内海は瀕死の状態になったが、近年きれいな海が戻り、逆に貧栄養化が問題になりつつある。この身近な瀬戸内海を題材に自然環境を考えてもらうことが目的である。受講者には、(1)瀬戸内海の自然環境、人類との関わり・開発の歴史などを海洋科学、海洋生物学、海洋環境科学などの見地から理解し、(2)瀬戸内海をはじめとする閉鎖性海域がもつ海としての機能や特異性などを認識し、将来の人間生活と海との共存、失われた自然の回復などについて考える力を身につけてもらう。授業を契機に、身近な海の自然や環境について深く理解し、将来の海の活用や保全に関して自らの意見がもてることをめざす。		
社会と人権A	現代の日本社会における人権に関わる問題を社会的・歴史的背景をふまえて検討することを通して、人権を保障することの意味とそこに現れた現代の日本社会の特質について考える。当該問題の内容を歴史的・社会的文脈をふまえて深く理解し、かつ自らの見解を形成して、異なる見解を持つ者と合理的な議論ができるようになる。		

教養科目	総合系	社会と人権B	現代の日本社会における人権に関わる問題を社会的・歴史的背景をふまえて検討することを通して、人権を保障することの意味とそこに現れた現代の日本社会の特質について考える。当該問題の所在と内容を歴史的・社会的文脈をふまえて深く理解し、かつ自らの見解を形成して、異なる見解を持つ者と合理的な議論ができるようになる。
		社会と人権C	現代の日本社会では、「個々人の属性だけでなく、価値観や知識など深層の多様性にも着目し、その多様性を積極的に受け入れ、活かすことによって、組織の生産性や革新に結びつけること」が求められている。本講義は、ダイバーシティ(多様性)およびアクセシビリティの理解を目的としている。 なお、アクセシビリティとは、「利用しやすさ」や「参加しやすさ」といった意味を持ち、近年、障害の有無や身体特性、年齢や言語・文化などの違いに関係なく、多様な利用者にとって「利用しやすいか?」「参加しやすいか?」「使いやすいか?」といった文脈で議論されている概念のことをさす。 (1)多様な環境とニーズを授業や演習を通じて気づき、社会の中のアクセシビリティについて考察できるようになること、(2)またダイバーシティ(多様性)およびアクセシビリティの基本的な知識を学修することを目標とする。 (3)さらに、授業で学んだことを通じて、自分の身近な環境についてのバリアを意識し、全ての人にとって利用や参加が可能な環境について、自分の意見を持つことを目標とする。
		ジェンダーとセクシュアリティA	ジェンダーの概念、性の平等、「男女共同参画」などの政策について、さまざまな専門分野を通じて理解する。さまざまな領域における課題についてジェンダー概念を通じて考察し、男女共同参画および性の平等についての理解を深め、個人的な問題は必ず社会的問題につながっているということを確認する。
		ジェンダーとセクシュアリティB	ジェンダーの概念、性の平等および「男女共同参画」を多様な専門分野を通じて理解する。さまざまな領域における課題についてジェンダー概念を通じて考察し、男女共同参画およびジェンダー平等についての理解を深め、個人的な問題は必ず社会的問題につながっているということを確認する。
		阪神・淡路大震災と都市の安全	1995年に起きた阪神・淡路大震災は、現代都市が地震に襲われた最初の経験であり、大きな被害を生じた。それから23年経ち、さまざまな対策が考えられている一方、人々の記憶は薄らいでいっている。この講義では、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえながら、各分野の研究者と現場の専門家が協力して、その具体的な取り組みと今後の課題を明らかにしていく。阪神・淡路大震災の被災地の大学生として何をなすべきか、また、地域の安全に対する配慮と関与のあり方について考える基盤を形成する。
		ボランティアと社会貢献活動A	現代は多様な形で社会参加が期待されていて、ボランティアや社会貢献活動は特別な行動ではなく日常である。社会を創出する原動力としてのボランティアと社会貢献活動はどのようなものなのか、実際に社会で活躍する講師からその現状、役割、課題について学び、実践現場の知識を得て、行動に繋げることを目標とする。
		ボランティアと社会貢献活動B	現代は多様な形で社会参加が期待されていて、ボランティアや社会貢献活動は特別な行動ではなく日常である。社会を創出する原動力としてのボランティアと社会貢献活動はどのようなものなのか、実際に社会で活躍する講師からその現状、役割、課題について学ぶ。講師が活動する現場においてのボランティア活動実習から実践現場の知識を得て、次の行動に繋げることを目標とする。
		地域社会形成基礎論	現在、「地域社会の危機」について様々な分野で議論されており、また一方で地域再生や地域づくりの取り組みが各地で行われている。この授業では、現在、地域が直面している課題について多角的に理解し、地域社会形成の意義や、そのための取り組みについての知識を得ることを目的とし、経済・環境・福祉・歴史・法などの各分野から地域社会形成についての講義をおこなう。地域社会の担い手となるための、地域社会・地域課題についての基礎的な知識や考え方を身につける。
		ひょうご神戸学	現在、「地域社会の危機」について様々な分野で議論されており、また一方で地域再生や地域づくりの取り組みが各地で行われている。この授業では、地域で活躍できる人材、地元の兵庫・神戸で地域の担い手となる人材の育成を目的とし、兵庫・神戸地域について、経済、地理、歴史、震災や災害、そして現状や課題などの基礎的知識についての講義をおこなう。地域を理解するための基礎として、大学の地元である兵庫県・神戸市についての多角的な知識を身につける。
		日本酒学入門	日本酒学入門 日本酒に関して、酒造り、経営、法律、広告などの幅広い基礎知識を身につけるとともに、それを通して神戸の地域・文化の一端を理解できるようになること。
		神戸大学史	近代日本の高等教育の特質を、神戸大学前身校等の歴史を通して学びます。神戸大学前身校等についての知識を身に付けるだけでなく、日本における高等教育の歴史的展開を理解し、そこで行われる教育・研究の役割や機能について理解することを目標とします。
		社会基礎学	世界は冷戦終結以降、新興国の急成長や情報通信技術のめざましい進歩、金融市場のボーダレス化などにより、大交流・大競争の時代にシフトしています。このようなグローバル時代に活躍する人材に不可欠とされるのが社会基礎学です。 全学部を対象とした本リレー講座では、社会基礎学とは何かを探求しながら今後の大学生活で身につけるべき知識、教養、想像力や構想力が身につきます。社会基礎学とは何かを探求しながら、今後の大学生活で養うべき知識、教養、想像力および構想力を全学部の受講生と共に身につけます。

教養科目	総合系	職業と学び-キャリアデザインを考えるA	「職業と学び-キャリアデザインを考えるA」(社会で活躍する神戸大卒業生によるリレー講義) 若い皆さんは、世の中の職業や仕事について具体的に知っている人も殆どいませんし、他方、自分自身がいかにか大きな可能性にみちているかを理解している人もごく稀です。しかし、皆さんのもつその測り知れない可能性を生かすためには、将来に広がる卒業後の多様な進路について思い巡らし、職業や仕事の具体的な姿とその仕事に就いている人々の経験と思いを知ることが大切です。 この授業では、様々な職業に就いている神戸大学の卒業生の方々から仕事の現場と遣り甲斐、さらに仕事への夢や志などを語っていただきます。皆さんはふだんの大学の授業では聞くことのできない社会人の先輩たちの話に耳を傾けながら、自分の将来の目標や職業に思いを馳せ、そのために今どんな基本的な能力や知識や教養を身につけるべきかを考えるキッカゲにしてもらいたいと思っています。 また、こうした機会をもつことは、今大学で学んでいることの意味を知り、かけがえない4年間の大学生活を充実させるためにもきわめて有益です。文系・理系の区別や職種を問わず、仕事をするうえでは共通の要素がありますし、どの分野であれ多様な職業について幅広い視野を得ることが必要ですが、そうしたこともこの授業から学びとってほしいと思います。	隔年
		職業と学び-キャリアデザインを考えるB	「職業と学び-キャリアデザインを考えるB」(社会で活躍する神戸大卒業生によるリレー講義) 若い皆さんは、世の中の職業や仕事について具体的に知っている人も殆どいませんし、他方、自分自身がいかにか大きな可能性にみちているかを理解している人もごく稀です。しかし、皆さんのもつその測り知れない可能性を生かすためには、将来に広がる卒業後の多様な進路について思い巡らし、職業や仕事の具体的な姿とその仕事に就いている人々の経験と思いを知ることが大切です。 この授業では、様々な職業に就いている神戸大学の卒業生の方々から仕事の現場と遣り甲斐、さらに仕事への夢や志などを語っていただきます。皆さんはふだんの大学の授業では聞くことのできない社会人の先輩たちの話に耳を傾けながら、自分の将来の目標や職業に思いを馳せ、そのために今どんな基本的な能力や知識や教養を身につけるべきかを考えるキッカゲにしてもらいたいと思っています。 また、こうした機会をもつことは、今大学で学んでいることの意味を知り、かけがえない4年間の大学生活を充実させるためにもきわめて有益です。文系・理系の区別や職種を問わず、仕事をするうえでは共通の要素がありますし、どの分野であれ多様な職業について幅広い視野を得ることが必要ですが、そうしたこともこの授業から学びとってほしいと思います。	隔年
		価値創造論基礎	価値および価値創造に関する考え方について様々な観点から講述する。価値の創造がどのようなものであるか、どのように価値が創造されるのか等について議論するための視点・考え方の習得を目標とする。	
		価値創造論A	急速に進むグローバル化によって政治、経済、雇用など、あらゆる面で社会環境の変化が促されている今日、新しい価値の創造(イノベーション)を通して社会の変革をリードしてゆくことこそが、若者達に期待されている最も重要な役割です。未来の日本のリーダーとして、この役割を担う「力」を身に付け、社会の変化に流されることなく社会人、職業人として自立するためには、できるだけ早い時期から社会の変化と求めるものを積極的に学び、明確な職業観の上にならってキャリア形成を目指すことが大切です。「新しい価値の創造とはどういうことか」、「将来どのような仕事につきたいのか」、そして「どのように社会に関わり、どんな人生を送りたいのか」をよく考え、将来の希望進路に向けて準備を始めておくことは、かつてないほど重要になっています。しかし、大学で学ぶ若者が、社会の現実を知る機会には限られており、新しい価値の創造を通して社会に貢献できる人材となるための心構えを身に付けたり、生きがいや幸福感を感じることができるキャリア形成について明確なイメージを描くことは非常に難しいのが現状です。日本を代表する企業等の第一線で活躍されているリーダーの方々を招聘し、企業活動の実態や産業界の将来展望などに関する最新情報を講義していただくことによって、神戸大学生が「新しい価値の創造者(イノベーター)」として自律的キャリアデザインを図るために必要な知識を学ぶ場を提供することです。この授業を受講することによって、イノベーションとはどのようなことであるかを具体的に理解したうえで、受講生ひとりひとりが望ましい職業観と主体的に進路を選択する能力をしっかりと身につけることを期待します。	
		価値創造論B	以下の5項目を身につけることを目標とします。 ・学問を理解し、学ぶ理由を考える力 ・情報・知識を収集する力(検索する力と情報提供者とのコミュニケーション能力) ・情報の分析・評価する能力 ・学問に対する興味・関心を表現する力 ・他者の学問に対する意見・価値観を傾聴する力	
		価値創造論C	「考え方の考え方」に基づいて、実社会における課題に対してソリューションを提案してもらう課題解決型学習です。本講義は、文部科学省次世代アントレプレナー育成事業における「レジリエンス社会の構築を牽引する社会起業家精神育成プログラム」として開講し、神戸大学・東北大学・宮城大学・北海道大学・小樽商科大学・徳島大学が共同で実施するプログラムの一部に含まれます。今年度のテーマは、「被災地に学び、未来の防災・減災を考える～南海トラフなど来る自然災害に備える～」とします。東北でのフィールドワークを通じて、東日本大震災における復興プロセスを振り返りながら、今後発生するであろう我が国の大規模災害に対して、徳島にて新しい復興/防災・減災の在り方を考えることで、未来のレジリエンスについて考える機会を設けます。	
		食と健康A	さまざまな農畜産物や食品の機能と微生物の関与について、我々の「食の安全・安心」だけでなく「地球環境の保全」や「人類の幸福」につながってゆく事項について学ぶ。人の「健康」と密接に関係する「食」を科学的視点で捉えた「学問の発展」の成果の中から、我々が今後「持続可能な開発・発展」を進めていく上で重要な事項について幅広く理解を深めることを目標とする。	
		食と健康B	さまざまな農畜産物や食品の機能と微生物の関与について、我々の「食の安全・安心」だけでなく「地球環境の保全」や「人類の幸福」につながってゆく事項について学ぶ。	
		生物資源と農業A	有史以前から人類は生活を豊かにする糧として周囲の多様な植物(植物資源)を生活に利用し、さらに改良を加え、栽培してきた(農林業)。本講義では、その大部分を占める資源植物とそれを取り巻く環境の保全について、および生産物の特性について紹介する。農林業についての理解を深め、グローバルな視点から食料・環境問題を考えることができるようになることを目標とする。	
		生物資源と農業B	有史以前から人類は生活を豊かにする糧として周囲の多様な植物(植物資源)を生活に利用し、さらに改良を加え、栽培してきた(農林業)。本講義では、その大部分を占める資源植物とそれを取り巻く環境の保全について、および生産物の特性について紹介する。農林業についての理解を深め、グローバルな視点から食料・環境問題を考えることができるようになることを目標とする。	

教養科目	総合系	生物資源と農業C	有史以前から人類は、生活の糧として多様な生物資源を利用し、改良を加えてきた。本授業では、農業上重要な昆虫及び微生物の資源について紹介し、農業とこれらをめぐる諸問題について複眼的視点から論考する。農業上重要な昆虫及び微生物の資源などと、これらをめぐる諸問題について多面的に理解する力を身につけることを目標とする。
		生物資源と農業D	有史以前から人類は、生活の糧として多様な生物資源を利用し、改良を加えてきた。本授業では、農業上重要な資源植物や土壌環境などについて紹介し、農業とこれらをめぐる諸問題について複眼的視点から論考する。農業上重要な資源植物や土壌環境などと、これらをめぐる諸問題について多面的に理解する力を身につけることを目標とする。
		ものづくりと科学技術A	日本の産業を支え我々の社会生活を豊かなものにしていくのは機械工学である。また、ナノテク、バイオ、ロボット、医療、環境と機械工学の応用分野は広がる一方で、人類が抱えるエネルギー問題や地球温暖化問題、老朽化が進む社会インフラの維持管理などの解決も機械工学に求められている。本講義では、機械工学を専門としない学生を対象に、ものづくりに関わる機械工学の重要性をわかりやすく説明する。 本講義では、機械工学を専門としない学生を対象に、以下の観点でもものづくりに関わる機械工学の重要性をわかりやすく説明する。1.身の回りの工業製品やそれによる快適な生活が機械工学の産物であることを認識する。2.機械工学の歴史的な変遷と将来の展望を知る。3.機械工学に携わる科学者や技術者の夢を実現するための努力を理解する。 本講義の前半では、エネルギーをテーマに講義を行う。エネルギーの定義を示した上で日本の現状と課題をわかりやすく説明する。私たちの生活を豊かにするために、経済活動を維持するためにもエネルギーが必要不可欠です。エネルギー資源を海外に頼っている日本が、地球環境問題を考えながらどのように振舞うのか、多面的に考えるための知識を身につける。 後半では、ものづくりの基本となる材料力学の基礎を解説し、ものが壊れるメカニズムやその測定法、ものが壊れないようにするための維持管理、信頼性工学について説明する。
		ものづくりと科学技術B	日本の産業を支えている製造業では、研究開発による技術革新(イノベーション)と実用化による利益が常に求められる。本講義では、工学的な観点から基礎研究がどのように社会実装に繋がるのか、具体的な技術を取り上げて講述する。本講義では、機械工学を中心とした技術開発の特徴と実用化に至るまでのプロセスを理解する。
		資源・材料とエネルギーA	周期表に示されている118種類の元素の特質・特性を学び、現代社会を考えるための基本的素養を身につける。4年が経過しましたが、2019年はメンデレーエフによる周期律の発見から150年目でした。 各元素の化学的性質と資源・材料としての役割・可能性・リスク、発見や命名にまつわる科学史について学び、科学と技術の進歩・発展が人類社会に及ぼしている影響を人類の将来との関係で考えることができるようになることを目標とする。
		資源・材料とエネルギーB	エネルギーには、電気、光、熱、運動など様々な種類があり、これらのエネルギーの相互変換の仕組みを理解するために、エネルギー変換で利用される半導体材料、強磁性材料、超伝導材料、熱電変換材料、波長変換材料の機能について学びます。電気エネルギーを中心とした各種エネルギー変換において利用される様々な無機材料の利用方法を理解し、それらの材料の機能発現の仕組みを理解する上で必要となる物質科学の基礎知識の修得を目指します。
		カタチの文化学	環境には様々な構造(レイアウト)がある。人はモノの配置を換えて新たな行為の機会を獲得したり、画面のレイアウトを変形して見出した意味を共有する。人の日常行為の多くはカタチの変形や物の配置を換えることと関連しており、わたしたちの文化の基盤のひとつにはレイアウトの変形から新しい価値や意味を発見する人の知覚・行為がある。本講義では、わたしたちのふるまいが環境と探りあてているさまざまな価値や意味について、画像、映像資料を用いて学ぶ。画像、映像資料を効果的に用いるため、本授業は資料を参照するオンデマンド講義(3回)と、対面による講義とディスカッション(5回)のハイブリッド開講で行う。ヒトのふるまいが周囲の環境に生み出すさまざまな配置や痕跡、身体などの自然物の構造、デザイン・建築などの人工物など、この環境で変化あるいは持続しつつ場を占めているもの具体例を幅広く考慮する。身のまわりに在るさまざまな「かたち」を観察することにより、文化と自然の分断を越えた広い視野を身につけることを目標とする。
		カタチの自然学A	身のまわりに存在する様々なカタチの特徴や背景について理解を深める。カタチに対する知識を身に付けるとともに、それを表現する技術を身に付ける。
		カタチの自然学B	身のまわりに存在する様々なカタチの特徴や背景について理解を深める。カタチに対する知識を身に付けるとともに、それを表現する技術を身に付ける。
		カタチの科学	「海の波、岸辺のさざなみ、岬をむすぶ砂浜の湾曲、山々の輪郭、雲の形状、これら1つ1つが「かたち」の謎であり…生物のかたちの問題は…より広い「かたちの科学」の一部にすぎない(ダーシー・トムソン, "On Growth and Form", p.10).」本講義では、動物や植物などの生物の身体の構造を含む自然界に見られる「かたち」について、その成り立ちや、「かたち」と周囲の環境との関係と機能について議論する。さらに、人による「かたち」の知覚の問題や、生物の身体の特異な構造がもたらす機能についても言及する。自然の「かたち」について、周囲と織りなす動的な関係から捉える視点を身につけることを目標とする。

教養科目	総合系	データサイエンス概論A	<p>データサイエンスは、観測によって得た実世界のデータから有益な知見を数式やルールなどの形式で記述し、それを利用して価値創造を行う、「データ駆動型」の推論アプローチを体系化した学問である。これまで、数理統計学、機械学習、データマイニングなどで独立に研究されてきた学問領域がデータサイエンスとしてまとめて認知され、それに価値創造がつかがることで、サイエンスやビジネスだけでなく、我々の生活に幅広く影響を与えるようになってきた。データは「21世紀の石油」と言われるように、価値を潜在的に内包しているが、単なる数値の集まりに価値はない。そこから本当の価値を引き出す仕組みが必要であり、そこにデータサイエンスが重要な役割を果たす。本講義では、このようにデータから価値を引き出すための必要となる、数理・データサイエンス・AIの基礎知識を学び、課題の発見と定式化からデータ収集、モデル化を経て得られた分析結果を活用するためのデータエンジニアリングの基礎力を養うことを目的とする。</p> <p>本講義は、数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムが作成した「数理・データサイエンス・AI（応用基礎レベル）モデルカリキュラム」の学修目標やスキルセット等に基づいて構成されている。以下の項目を実データ、実課題（学術研究データや実課題から作ったダミーデータ等も含む）を用いた演習などを通して修得することを到達目標とする。</p> <p>[1] AIを実現する手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」、「システム最適化」の概念や知識を習得する。 [2] AIの歴史、応用分野、研究やビジネスの現場でAIの構築から運用までの一連の流れを習得する。 [3] 機械学習・深層学習の学習方式と基礎理論を理解し、各種センサから取得された数値・時系列、画像、音声、テキストに対して、正しく前処理、特徴変換、分類・予測を行うための各種手法を習得する。 [4] 課題解決における「課題発見と定式化」、「データ取得」、「データの取り扱い」、「モデル化」、「結果の可視化」、「検証、活用」と一連のステップを習得する。</p>	
		データサイエンス概論B	<p>データサイエンスは、観測によって得た実世界のデータから有益な知見を数式やルールなどの形式で記述し、それを利用して価値創造を行う、「データ駆動型」の推論アプローチを体系化した学問である。これまで、数理統計学、機械学習、データマイニングなどで独立に研究されてきた学問領域がデータサイエンスとしてまとめて認知され、それに価値創造がつかがることで、サイエンスやビジネスだけでなく、我々の生活に幅広く影響を与えるようになってきた。データは「21世紀の石油」と言われるように、価値を潜在的に内包しているが、単なる数値の集まりに価値はない。そこから本当の価値を引き出す仕組みが必要であり、そこにデータサイエンスが重要な役割を果たす。本講義では、このようにデータから価値を引き出すための必要となる、数理・データサイエンス・AIの基礎知識を学び、課題の発見と定式化からデータ収集、モデル化を経て得られた分析結果を活用するためのデータエンジニアリングの基礎力を養うことを目的とする。</p> <p>本講義は、数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムが作成した「数理・データサイエンス・AI（応用基礎レベル）モデルカリキュラム」の学修目標やスキルセット等に基づいて構成されている。以下の項目を実データ、実課題（学術研究データや実課題から作ったダミーデータ等も含む）を用いた演習などを通して修得することを到達目標とする。</p> <p>[1] AIを実現する手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」、「システム最適化」の概念や知識を習得する。 [2] AIの歴史、応用分野、研究やビジネスの現場でAIの構築から運用までの一連の流れを習得する。 [3] 機械学習・深層学習の学習方式と基礎理論を理解し、各種センサから取得された数値・時系列、画像、音声、テキストに対して、正しく前処理、特徴変換、分類・予測を行うための各種手法を習得する。 [4] 課題解決における「課題発見と定式化」、「データ取得」、「データの取り扱い」、「モデル化」、「結果の可視化」、「検証、活用」と一連のステップを習得する。</p>	
		データサイエンス基礎演習	<p>データサイエンスの効果的な実践には、コンピュータ・ソフトウェアの活用が必須である。本講義では、データサイエンスのためのプログラミング言語として世界で広く普及しているPythonを採り上げ、演習を通してプログラミングの基礎、および、データサイエンスの実践方法について学習する。文系・理系を問わず全学の学生が、Pythonを用いて初等的なデータ分析を自分の手で行えるようになること。特に、pandasフレームワークを用いて、目的・用途に応じたデータセットを自分の手で構築し、基本的な操作が行えるようになることを目指す。</p>	
		データサイエンスPBL演習	<p>PBL(Problem-based Learning)とは、複雑な課題や挑戦し甲斐のある問題に対して、生徒が少人数のグループを組み、自律的な問題解決・意志決定・情報探索などを通じて解決を目指す学習手法である。</p> <p>本授業では、神戸大学生協様の協力のもと、神戸大学生協食堂のリアルデータを活用し、データサイエンスの取り組みに基づいて、根拠に基づく知見の導出や食堂の経営施策の提案をグループで行う。文系・理系を問わず全学の学生が、データサイエンスの基本的なプロセスを通して、現実の社会における課題を理解し、その解決に資する提案をできるようにすることを旨とする。</p>	
		国際協力の現状と課題A	<p>現代の社会における「国際協力」を巡る問題について、国際的視点と国内的視点の双方から考える。現代の社会における「国際協力」を巡る問題について理解し、実際の社会での活動において役立つ知識を獲得する。</p> <p>前半と後半に分けて、大きく二つのテーマにより行われる。前半は、国際貢献の建前のもとで人権侵害的な実態が指摘されている外国人技能実習制度の問題点について考える。後半は、今日の日韓関係を題材に、何故にグローバル化が進展する今日において、むしろ、日韓関係が悪化しているのか、そしてその背景にはどのような今日の国際状況が存在するのかについて考える。</p>	隔年
		国際協力の現状と課題B	<p>本講義では、国際機関、二国間援助機関、大学機関の取り組みに焦点を当てて国際協力の現状と課題についての理解を深めることである。本講義の達成目標は、開発途上国における国際協力・国際開発の現状について深く理解することにより、開発途上国が抱えている社会経済的諸問題の源流を踏まえた上で、自分の言葉で国際協力の課題について議論ができるようになることである。</p>	隔年

<p>教養科目</p> <p>総合系</p>	<p>国際協力アクティブ・ラーニング A</p>	<p>Microeconomics plays a key role in analyzing various problems in social sciences. Societies are composed of consumers, producers and governments as economic agents and their behaviors are mutually intertwined through markets. Mutual benefits are sought out in markets by exchanging commodities or factors of productions.</p> <p>Typical questions are how a consumer reacts to a price rise or an income reduction, how a producer adjusts its supply of commodity to a change in market condition, and how prices of commodities are determined. Microeconomics addresses to these issues first by analyzing a consumer's and a producer's subjective behavior in its own economic activity, and then by examining properties of market equilibrium as the result of agents' optimal activities.</p> <p>The goal of the course is to make students understand the theoretical basis of microeconomics and to strengthen their ability to pursue their own economic analyses on development and cooperation.</p> <p>In order to achieve the goal, at the end of each chapter, homework will be assigned (once every two weeks).</p> <p>ミクロ経済学は、社会科学の様々な問題を分析する上で重要な役割を果たしている。社会は経済主体としての消費者、生産者、政府から構成され、その行動は市場を通じて相互に絡み合っている。市場では、商品や生産要素を交換することによって、相互の利益が追求される。</p> <p>典型的な問題は、消費者が物価の上昇や所得の減少にどのように反応するか、生産者が市場の状況の変化に対して商品の供給をどのように調整するか、商品の価格はどのように決定されるか、などである。ミクロ経済学では、まず消費者や生産者の経済活動における主観的な行動を分析し、次にエージェントの最適な活動の結果としての市場均衡の特性を検討することによって、これらの問題に取り組む。</p> <p>本コースの目標は、ミクロ経済学の理論的基礎を理解させ、開発と協力に関する独自の経済分析を追求する能力を強化することである。</p> <p>この目標を達成するために、各章末に宿題を出す。(2週間に1回)</p>	
	<p>国際協力アクティブ・ラーニング B</p>	<p>Theme: Law of international organizations</p> <p>How inter-governmental organizations, such as the United Nations and the World Health Organization, are created under international law, how they legally exist and effectively operate in international relations, and how they are held accountable for their activities.</p> <p>The objective for the participants in the course is to acquire the basic knowledge of law of international organizations so that they can discuss how to address multifaceted challenges the international community is confronted with in fostering cooperation through international organizations.</p> <p>テーマ 国際機関法</p> <p>国際連合や世界保健機関(WHO)などの政府間機関は、国際法の下でどのように創設され、国際関係の中でどのように法的に存在し、効果的に運営されているのか、また、その活動に対する説明責任はどのように果たされているのか。</p> <p>本講座の受講者は、国際機関法に関する基礎的な知識を習得することにより、国際社会が直面する国際機関を通じた協力の促進に関する多面的な課題にどのように対処すべきかについて議論できるようになることを目的とする。</p>	
	<p>国際協力アクティブ・ラーニング C</p>	<p>本授業は、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に貢献する国際防災協力の見地から、阪神・淡路大震災や東日本大震災を始めとする日本の大災害の経験をどのように理解し、国際社会に向けて発信し、世界各地の課題解決に役立てていくべきか、防災・復興の知識修得と共に、問題解決型の分析手法や、多文化コミュニケーションの方法等について学ぶ。</p> <p>前半は、国内外の被災地間大学連携を活かした、学際的な講義とワークショップである。はじめに東日本大震災の復興支援に関与した岩手大学・東北大学の専門家を招聘し、事例検討を通じて、日本の制度と課題について講義する。つぎに、アジアの巨大災害事例との比較考察を目的として、2004年インドネシア・アチェ津波のシヤクアラ大学、2008年四川大地震被災地の四川大学、2013年台風ヨランダのフィリピン大学他の研究者を招聘し、またワークショップ形式の中間報告会で理解を深める。</p> <p>後半では、日本の教訓をどのように敷衍し国際防災協力を役立てるか、HAT神戸に集結する研究機関の協力を得て、実践的な講義を提供する。各回はJICA関西国際防災研修センター、アジア防災センター、神戸市危機管理室他の協力により、国際防災の課題解決型の講義を提供し、また最終回はHAT神戸エリアで開催する海外研修生とのワークショップに参加する。</p> <p>1. 減災・災害復興に関して、問題を多角的に捉え、異分野とのチームワークによる課題解決に貢献できるよう、学際的な基礎知識を得る。</p> <p>2. 事例から実証的に課題を抽出し、原因を掘り下げ、対策を提案できる思考力を養成する。</p> <p>3. 国際防災協力を貢献することのできる、国際理解や柔軟なコミュニケーション能力を養成する。</p>	
	<p>グローバルリーダーシップ育成 基礎演習</p>	<p>本授業は、一般学生と留学生が第29回神戸大学国際学生交流シンポジウムの企画、立案、準備、運営を協働で行うプロジェクトベースの学習を通して、多様な他者と協働する際に必要な異文化間能力、リーダーシップ、コミュニケーション能力を涵養することを目指す。本授業は、日本語・英語のバイリンガルで行う。本授業の到達目標は、下記の3点である。</p> <p>本授業の履修を通して、受講生が</p> <p>1. 多様な文化的・言語的背景、価値観を持つ者同士、協働することを通じ、社会の様々な事象を多様な視点から捉えなおす。</p> <p>2. プロジェクト遂行の過程における一連の活動を通して、文化接触に伴う葛藤などを克服しつつ、プロジェクト遂行のために良好な人間関係を構築し、協働する姿勢・能力を身につける。</p> <p>3. 多文化・多言語なコミュニティのメンバーと協働するためのコミュニケーション能力を向上させる。日英両言語で聞き手の言語能力に配慮しつつ自らの意見を発信するスキルを向上させる。</p>	

<p>教養科目</p>	<p>総合系</p>	<p>多文化共生のための日本語コミュニケーション</p>	<p>授業のテーマ： 本授業では、多文化共生社会の概念について知識を深め、その社会の構成員として必要となる基礎知識や能力を涵養することを目指す。さらに留学生、地域の定住外国人など多様な他者とのコミュニケーションに必要な異文化間コミュニケーション能力ややさしい日本語を活用できる能力を育成する。</p> <p>授業の到達目標： 1.日本における定住外国人(高等教育機関における留学生の受け入れ状況を含む)の現状について把握し、多文化共生社会の概念に関する理解を深める。 2.異文化接触場面で生じるエスノセントリズム(自文化中心主義)について理解を深める。 3.外国語としての日本語に関する知識、日本語のコミュニケーションスタイルについて理解を深め、異文化間コミュニケーション能力を向上させる。 4.日本語非母語話者との交流に有効なやさしい日本語について理解を深め、やさしい日本語運用能力を向上させる。</p>	
		<p>海外留学のすすめA</p>	<p>海外留学は、本学での学びを異なる観点から深める好機である。異文化体験を経て、「神戸スタンダード」3つの能力(複眼的に思考する能力・多様性と地球的課題を理解する能力・協働して実践する能力)を高める。 また、海外留学は、グローバル人材として成長していく人生の貴重なチャンスである。 国際的な文化資本に恵まれた神戸で、国際交流が盛んな本学の教員や他の学生との対話を通じて、広く世界に目を向けて何を学び、どのようなキャリアを歩みたいのか考えることにより、交換留学にチャレンジする意欲を高める。 1.海外留学に関する情報を集め、選択して整理するための基礎知識を得る。 2.神戸に蓄積された国際的な文化資本に目を向け、本学のさまざまな海外留学プログラムの構成を理解し、継続的に活用できる。 3.海外の高等教育や専門分野の構成(例えば、工学部に建築専攻や法学部に政治学専攻がない)など日本との違いを理解し、所属学部の教員からアドバイスを受けて交換留学先での履修計画を立てることができる。</p>	
		<p>海外留学のすすめB</p>	<p>海外留学は、本学での学びを異なる観点から深める機会であり、グローバル人材として成長していく人生の貴重なチャンスである。 広く世界に目を向けて何を学び、どのようなキャリアを歩みたいのか考えることにより、海外インターンシップや大学院留学への挑戦を視野に入れる。 1.海外インターンシップや大学院留学に関する情報を集め、選択して整理するための基礎知識を得る。 2.海外インターンシップや大学院留学に向けた準備の大筋を考えることができる。 3.「ジョブ型雇用」など日本型雇用システムの変化を念頭に置き、大学院留学を起点とする国際機関や多国籍企業などのキャリアの可能性を考えることができる。</p>	
		<p>グローバルエキスパートセミナー</p>	<p>This class is mainly for Kobe University students who have returned from long-term study abroad as well as international exchange students to reflect on and share their study abroad experiences, and conduct research and group discussions to make the results of their study abroad. Students will also analyze and delve into how they have changed as a result of studying abroad, how they will make use of it in the future, and what kind of learning will be required. In addition, in order to acquire a higher level of expression, we will discuss and make presentations in English on the current global issues. These presentations and discussions will play an active role for the students to work globally in the future.</p> <p>1.Be able to share your own experience of studying abroad verbally. 2.Be able to express your opinion on global issues in English based on your own experiences of studying abroad. 3.Be able to imagine your own career by learning the examples of global career development. 4.Be able to contribute to others and learn independently through group discussions.</p> <p>この授業は、主に長期留学から帰国した神戸大学の学生や交換留学生を対象に、留学経験を振り返り、共有し、留学の成果を作るためのリサーチやグループディスカッションを行います。 また、留学によって自分がどのように変わったのか、今後どのように活かしていくのか、どのような学びが求められるのかを分析・掘り下げる。 また、より高度な表現力を身につけるため、現在世界で起きている問題について、英語でディスカッションやプレゼンテーションを行います。これらのプレゼンテーションやディスカッションは、将来グローバルに活躍するために必要な役割を果たします。</p> <p>1.自分の留学経験を口頭で伝えることができる。 2.自分の留学経験をもとに、グローバルな課題について英語で意見を述べることができる。 3.グローバルなキャリア形成の事例を知り、自分のキャリアをイメージできる。 4.グループディスカッションを通して、他者への貢献や主体的な学びができる。</p>	
		<p>外国語セミナーA(英語)</p>	<p>学術的なテキストを扱うことによって、あるいは、一般的なテキストを学術的な観点から扱うことによって、主としてリーディング・ライティングを中心に、複眼的思考能力と高度の英語運用能力の育成を目指す。(1)英語を用いた国際的な学術研究の重要性に対する理解を深め、(2)「複眼的に思考する能力」および「多様性と地球的課題を理解する能力」を伸ばし、あわせて、(3)学術場で要求される英語の諸技能について、高次の運用能力を育成することを目標とする。</p>	
		<p>外国語セミナーB(英語)</p>	<p>学術的なテキストを扱うことによって、あるいは、一般的なテキストを学術的な観点から扱うことによって、主としてリスニング・スピーキングを中心に、複眼的思考能力と高度の英語運用能力の育成を目指す。(1)英語を用いた国際的な学術研究の重要性に対する理解を深め、(2)「複眼的に思考する能力」および「多様性と地球的課題を理解する能力」を伸ばし、あわせて、(3)学術場で要求される英語の諸技能について、高次の運用能力を育成することを目標とする。</p>	
		<p>外国語セミナーC(英語)</p>	<p>一般的かつ専門的な内容を含む特定のテーマについて、英語による講義と演習を通して、複眼的思考能力と高度の英語運用能力の育成を目指す。(1)英語を用いた国際的な学術研究の重要性に対する理解を深め、(2)「複眼的に思考する能力」および「多様性と地球的課題を理解する能力」を伸ばし、あわせて、(3)学術場で要求される英語の諸技能について、高次の運用能力を育成することを目標とする。</p>	
		<p>外国語セミナーD(英語)</p>	<p>オンラインの学修支援システム、海外研修など多様な学習形態を活用して、受講生自らが主体的に、個々のニーズに応じた自律的な学修姿勢を育むとともに、継続的かつ高度な英語運用能力の向上を目標とする。</p>	

教養科目	総合系	外国語セミナーA(ドイツ語)	ドイツ語圏の実情も学びながら、ドイツ語能力の向上を図ります。初級ドイツ語の授業で学んだ知識を復習しながら、ドイツ語の語彙や表現を増やすことを目標とします。	
		外国語セミナーA(フランス語)	前期に開講される「フランス語C1・C2」(選択・水5)クラスの続きとして位置付けられています。前期に「フランス語C1・C2」通常クラスを履修した学生でも、意欲があれば歓迎します。一年次で学習したフランス語文法について、より高度な知識と運用能力を身に付けます。また、長文読解、リスニング練習、単語・熟語表現の習得、書き取り・作文練習など、さまざまな側面からフランス語能力を強化していきます。	
		外国語セミナーA(中国語)	中級から上級レベルを目指した中国語リスニング 中国の空港・鉄道駅などのアナウンスやテレビ・ラジオの長めのニュース、大学の講義など上級レベルの中国語リスニング能力を身につけることを目指します。	
		外国語セミナーA(ロシア語)	ロシア語作文 ロシア語による基本的な表現能力を身につけることを目標とします。基本的知識を活用し、会話スキルを向上させていく中でロシア語の作文能力も高めてもらいます。さらに、場合によっては適宜読物や歌にも挑戦してもらい、読む力を養っていきます。希望者は、11月ごろにロシア領事館で開催予定の関西ロシア語学習者の会でロシア語朗読などの発表会に参加、交流する予定。	
		外国語セミナーB(ドイツ語)	ドイツ語圏の実情も学びながら、ドイツ語能力の向上を図ります。初級ドイツ語の授業で学んだ知識を復習しながら、ドイツ語の語彙や表現を増やすことを目標とします。	
		外国語セミナーB(フランス語)	前期に開講される「フランス語C1・C2」(選択・水5)クラスの続きとして位置付けられています。前期に「フランス語C1・C2」通常クラスを履修した学生でも、意欲があれば歓迎します。一年次で学習したフランス語文法について、より高度な知識と運用能力を身に付けます。また、長文読解、リスニング練習、単語・熟語表現の習得、書き取り・作文練習など、さまざまな側面からフランス語能力を強化していきます。	
		外国語セミナーB(中国語)	中級から上級レベルを目指した中国語リスニング 中国の空港・鉄道駅などのアナウンスやテレビ・ラジオの長めのニュース、大学の講義など上級レベルの中国語リスニング能力を身につけることを目指します。	
		外国語セミナーB(ロシア語)	ロシア語作文 ロシア語による基本的な表現能力を身につけることを目標とします。基本的知識を活用し、会話スキルを向上させていく中でロシア語の作文能力も高めてもらいます。さらに、場合によっては適宜読物や歌にも挑戦してもらい、読む力を養っていきます。希望者は、11月ごろにロシア領事館で開催予定の関西ロシア語学習者の会でロシア語朗読などの発表会に参加、交流する予定。	
		外国語セミナーC(ドイツ語)	ドイツ語圏に関するテキストを読みながらドイツ語圏の生活様式や人々の考え方を学びます。ドイツ語の読解力を高めながら、新たな表現や語彙を習得することを目標とします。	
		外国語セミナーC(フランス語)	フランス社会事情や生活、身近な出来事をテーマにします。 異文化間・同文化内の違った意見や考え方、あり方について理解を深め、自分の見解を表明する。 これまで習得した基礎の活用と強化、DELFT試験対策として、聴解・読解・口頭表現・筆記表現の4つの能力を高める。 聴解・読解「フランスで放送されている短いドキュメンタリー動画や、新聞や雑誌の記事を理解できるようにすることを目標とする。 口頭・筆記表現「一貫性のある構造化された思考を表現できるようにすることを目標とする。	
		外国語セミナーC(中国語)	中国語中上級 留学準備クラス 中国や台湾の留学に耐えられるだけの中国語能力を鍛えます。	
		外国語セミナーC(ロシア語)	この授業では、平易なロシア語のテキストを読むことで、既習の文法知識のいっそうの定着を図ります。テキストは、「チェブラーシカ」シリーズの作者として知られるエドゥアルド・ウスペンスキーの作品集から抜粋した児童向けの詩を使用します。発音練習にも重点を置きますので、韻文詩の簡単な規則を押さえた上で詩の音読にも挑戦してもらいます。 単語の語形変化に慣れる。 ロシア語の単語の音節構造を理解し、正しい発音を身に付ける。 ロシア語の韻文詩の基本的な構造を理解する。	
		外国語セミナーD(ドイツ語)	ドイツ語圏に関するテキストを読みながらドイツ語圏の生活様式や人々の考え方を学びます。ドイツ語の読解力を高めながら、新たな表現や語彙を習得することを目標とします。	
		外国語セミナーD(フランス語)	フランス社会事情や生活、身近な出来事をテーマにします。 異文化間・同文化内の違った意見や考え方、あり方について理解を深め、自分の見解を表明する。 これまで習得した基礎の活用と強化、DELFT試験対策として、聴解・読解・口頭表現・筆記表現の4つの能力を高める。 聴解・読解「フランスで放送されている短いドキュメンタリー動画や、新聞や雑誌の記事を理解できるようにすることを目標とする。 口頭・筆記表現「一貫性のある構造化された思考を表現できるようにすることを目標とする。	
		外国語セミナーD(中国語)	中国語中上級 留学準備クラス 中国や台湾の留学に耐えられるだけの中国語能力を鍛えます。	
外国語セミナーD(ロシア語)	この授業では、平易なロシア語のテキストを読むことで、既習の文法知識のいっそうの定着を図ります。テキストは、「チェブラーシカ」シリーズの作者として知られるエドゥアルド・ウスペンスキーの作品集から抜粋した児童向けの詩を使用します。発音練習にも重点を置きますので、韻文詩の簡単な規則を押さえた上で詩の音読にも挑戦してもらいます。 単語の語形変化に慣れる。 ロシア語の単語の音節構造を理解し、正しい発音を身に付ける。 ロシア語の韻文詩の基本的な構造を理解する。			
外国語セミナーE(ドイツ語)	翻訳理論をテーマにして、ドイツ語圏における理論的展開について理解を深めます。 翻訳理論についてのドイツ語文献を読んで理解できるようにすることを目標とします。			

教養科目	総合系	外国語セミナーE(フランス語)	フランス社会事情や生活、身近な出来事をテーマにします。 異文化間・同文化内の違った意見や考え方、あり方について理解を深め、自分の見解を表明する。 これまで習得した基礎の活用と強化、DELFT試験対策として、聴解・読解・口頭表現・筆記表現の4つの能力を高める。 聴解・読解:フランスで放送されている短いドキュメンタリー動画や、新聞や雑誌の記事を理解できるようにすることを目標とする。 口頭・筆記表現:一貫性のある構造化された思考を表現できるようにすることを目標とする。	
		外国語セミナーE(ロシア語)	この授業では、ロシアの民話の抜粋を原文で読みます。民話特有の言い回しに親しみ、独特のリズムを味わってみましょう。時に意外な展開や一見理不尽な結末に驚くこともあるでしょうが、そこに異文化理解の鍵があるかもしれません。 ロシアの主要な民話を知る。 ロシアの民話に特徴的な言い回しを知る。 ロシア語の文章を声に出して読みながら読めるようになる。	
		外国語セミナーF(ドイツ語)	翻訳理論をテーマにして、ドイツ語圏における理論的展開について理解を深めます。翻訳理論についてのドイツ語文献を読んで理解できるようにすることを旨とします。	
		外国語セミナーF(フランス語)	フランス社会事情や生活、身近な出来事をテーマにします。 異文化間・同文化内の違った意見や考え方、あり方について理解を深め、自分の見解を表明する。 これまで習得した基礎の活用と強化、DELFT試験対策として、聴解・読解・口頭表現・筆記表現の4つの能力を高める。 ・聴解・読解:フランスで放送されている短いドキュメンタリー動画や、新聞や雑誌の記事を理解できるようにすることを目標とする。 ・口頭表現・筆記表現:一貫性のある構造化された思考を表現できるようにすることを目標とする。	
		外国語セミナーF(ロシア語)	この授業では、ロシアの民話の抜粋を原文で読みます。民話特有の言い回しに親しみ、独特のリズムを味わってみましょう。時に意外な展開や一見理不尽な結末に驚くこともあるでしょうが、そこに異文化理解の鍵があるかもしれません。 ロシアの主要な民話を知る。 ロシアの民話に特徴的な言い回しを知る。 ロシア語の文章を声に出して読みながら読めるようになる。	
		多言語セミナー1(スペイン語)	スペイン語初級文法の習得。直説法現在形規則活用動詞に関する項目まで学びます。 日常の挨拶のやりとり、書かれた文章の正しい発音、辞書を用いた上での平易な現在形の文の理解、自分や第三者に関する紹介ができるようになる。	
		多言語セミナー2(スペイン語)	スペイン語初級文法の習得。直説法現在形の不規則活用動詞から直説法過去・線過去に関する項目を中心的に学びます。 日常の挨拶のやりとり、書かれた文章の正しい発音、辞書を用いた上での平易な現在形や過去形の文の理解、自分や第三者に関する紹介ができるようになる。	
		多言語セミナー3(スペイン語)	スペイン語初級文法の習得。直説法現在から直説法過去・直説法線過去に関する項目を学びます。スペイン語で過去の体験、日常生活のことを発話し、母語話者が語る同様の内容を聴き取ることができる程度の力をつける。	
		多言語セミナー4(スペイン語)	スペイン語初級文法の習得。未来形から接続法／命令文に関する項目までを学びます。 スペイン語で過去の体験、将来の計画、日常生活のことを発話し、母語話者が語る同様の内容を聴き取ることができる程度の力をつける。	
		多言語セミナー1(イタリア語)	イタリア語を初めて学ぶ人のためのクラスであり、学生は読み・書き・会話に必要なイタリア語の基礎を身につける。 イタリア語の単語や文章を正確に読めるようになる。名詞・冠詞における性と数を知る。数詞や時刻表現、および基本動詞のessereとavereの使い方を学ぶ。	
		多言語セミナー2(イタリア語)	発音や性・数を把握したことを踏まえて、この授業では形容詞・規則動詞・不規則動詞を学習する。 規則動詞・不規則動詞の活用を学びつつ、疑問詞を交えた様々な質疑応答の技術を身に付ける。	
		多言語セミナー3(イタリア語)	今期の授業では主に代名詞(人称代名詞と再帰代名詞)の使い方を学習する。 人称代名詞は主に直接目的格、間接目的格に分かれ、さらに再帰代名詞が存在する。現在形におけるこれらの使い方を学習し、命令法との組み合わせについても習熟してもらう。	
		多言語セミナー4(イタリア語)	今期は主に過去と未来の時制を学ぶ。 学生には近過去と半過去という二つの過去形の形と性質を把握し、さらには未来の動詞の変化も学習してもらう(実際には大過去と先立未来も含まれる)。これまでの学習を通じて、学生は現在・過去・未来という時制の枠組みを習得することになる。	
		多言語セミナー1(韓国語)	ハングル文字の仕組みと読み書きを学び発音規則を学びます。 ハングル文字と発音の変化を理解し、読み書きができる。 書かれた文字や簡単な文章を正しく発音することができる。	
		多言語セミナー2(韓国語)	ハングル文字の仕組みと読み書き、発音規則の鼻音化、激音化と挨拶言葉、自己紹介、基礎文法項目を学びます。 ハングル文字と発音の変化を理解し、読み書きができる。 書かれた文章を正しく発音することができる。 日常の挨拶や自己紹介など簡単なコミュニケーションができる。	
		多言語セミナー3(韓国語)	基礎的な語彙や文法に習熟して読み、書き、聞き、話すための基礎的な運用能力を伸ばしていく。 丁寧表現(해오체)、時間と年齢を尋ねる表現を学習します。 基礎的な韓国語の文章が理解できる。 丁寧表現(해오체)で時間と年齢を尋ねたり、一日の日課や指示語を使った質問と応答ができる。 日常の簡単なコミュニケーションができる力をつける。	
		多言語セミナー4(韓国語)	基礎的な語彙や文法に習熟して読み、書き、聞き、話すための基礎的な運用能力を伸ばしていく。 過去形、尊敬形、予定表現の項目を学習します。 「ハングル」能力検定試験5級レベルの語彙と文法力をつける。 基礎的な韓国語の文章が理解できる。 過去の体験、尊敬語での発話、予定について話したり尋ねたりできる。 日常の簡単なコミュニケーションができる。	

教養科目	総合系	多言語セミナー1(ラテン語)		ラテン語の基礎文法を学び、ラテン語の簡単な文章を読み解く力をつける(4部完結コースの第1部)。語形変化のしくみや基本語彙などを記憶することで、基礎的なラテン語文法の最初の4分の1を習得する。	
		多言語セミナー2(ラテン語)		ラテン語の基礎文法を学び、ラテン語の簡単な文章を読み解く力をつける(4部完結コースの第2部)。語形変化のしくみや基本語彙などを記憶することで、基礎的なラテン語文法の最初の2分の1を習得する。	
		多言語セミナー3(ラテン語)		ラテン語の基礎文法を学び、ラテン語の簡単な文章を読み解く力をつける(4部完結コースの第3部)。語形変化のしくみや基本語彙などを記憶することで、基礎的なラテン語文法の最初の4分の3を習得する。	
		多言語セミナー4(ラテン語)		ラテン語の基礎文法を学び、ラテン語の簡単な文章を読み解く力をつける(4部完結コースの第4部)。語形変化のしくみや基本語彙などをひととおり記憶し、初級レベルのラテン語原典を辞書を引きながら読めるようになる。	
		複言語共修セミナー(タンデム)		複言語共修セミナー(タンデム)では、社会や個人の中に複数の言語が併存している現代の状況に鑑み、母語を含めた複数の言語を学び、自身に取り込み、分析することで、現代社会における言語の多様性、その役割を自分自身に問いかけ、よりグローバルな視点から世界の言語・文化やそのアイデンティティについて深い学びを得ることを目指す。 複言語共修セミナーは、国内学生と国際学生(受入留学生)との国際/多文化間共修を実施する。当授業では、受講生がベアワークによりお互いの母語を教え・学び合うタンデム学習を行う。タンデム学習による受講生の主体性育成と互恵的な学びを通して、受講生が自分の言語学習活動の再考を行い、自律学習促進へとつなげる機会とする。 当授業の開講期間終了までに、受講生が以下の知識や技能を身につけることを目標とする。 (1) 国際/多文化理解や他者/相互理解を多面的に行うことができる。 (2) 受講生自身の言語学習活動への様々な視点の内省を通して、当科目修得後に自らの目的に応じた言語学習活動を自律的に行うことができる。 (3) 複言語での学びの意義を理解することができる。	
	複言語共修セミナー(外国語としての日本語)		複言語共修セミナー(外国語としての日本語)では、社会や個人の中に複数の言語が併存している現代の状況に鑑み、母語を含めた複数の言語を学び、自身に取り込み、分析することで、現代社会における言語の多様性、その役割を自分自身に問いかけ、よりグローバルな視点から世界の言語・文化やそのアイデンティティについて深い学びを得ることを目指す。 複言語共修セミナーは、国内学生と国際学生(受入留学生)との国際/多文化間共修を実施する。当授業では、海外で行われている日本語教育の実践を概観しながら、受講生がベア/グループワークによりお互いの考えや理解を話し合う演習形式で運営する。多文化理解を考える手がかりとして、外国語としての日本語を多角的に見つめることにより、受講生が自分の言語学習活動の再考を行うと同時に、異なる言語や文脈における物事への洞察力を磨く機会とする。 当授業の開講期間終了までに、受講生が以下の知識や技能を身につけることを目標とする。 (1) 国際/多文化理解や他者/相互理解を多面的に行うことができる。 (2) 海外で行われている日本語教育の実践を多角的に見つめることで、当科目修得後に自らの言語学修や言語観を俯瞰して捉えることができる。 (3) 複言語での学びの意義への理解を自らの言葉で表現することができる。		
	基盤系	教養とは何か	○	大学での学習を通して身につけるべき素養に、人間性、創造性、国際性、専門性などがある。このような素養は我々がさまざまな問題に出会ったときに適切に判断するために必要となるもので、そのような素養の全体を我々は教養と呼ぶ。教養を身につけるためには、専門の枠には収まらない幅広い知識と多様な価値観の理解が必要であるため、大学には専門以外の話題を学ぶための環境や制度が設けられている。ただし教養は大学での学習全体で養うものであって、個々の授業で個別に扱える要素に分解できるものではない。教養を有することは単に博識であることは異なる。そもそも教養とは何であるのかは人それぞれで理解が異なり、その理解も時間と共に変化する。教養を身につけるためには、まず、自分自身の教養の理解が必要である。 この講義は、神戸大学の教員が教養とは何であり、教養を身につけるためには何が必要であると考えているのかを紹介することで、受講生がそのことについて深く考え、大学での学習を始めるにあたり、自分自身の教養の理解の基礎を築くことを目指すものである。	主要授業科目
		なぜ外国語を学ぶのか	○	言語は人間のあらゆる認知的営みの基盤であり、思考やコミュニケーションは言語によって可能になるものである。言語は個人の思考の様式を与えるもので、母語以外の言語を身につけることで、思考の多様性が生まれる。また、言語と文化は切り離すことができず、母語以外の言語の習得は異文化理解に欠かすことができない。 この講義では、なぜ大学で外国語を学ぶのかを理解し、大学での外国語学習が個々の学生にとって意義のあるものとするために、世界にはどのような言語があり、それらはどのような特徴を持っているのか、言語はどのように学習し、習得されるのかなどについて学ぶ。	主要授業科目
		情報基礎	○	現代の情報ネットワーク社会においては、情報の発信、検索、加工、提示、保存等の目的でコンピュータを使用することが不可欠である。この授業では、神戸大学において勉学を進めて行く上で最低限理解しておくべき情報リテラシーを学習する。ネットワーク上のコミュニケーションのマナーやネットワーク社会で自らを守るためのセキュリティに関する基礎的な知識の習得。また、大学生として勉学を進める上で必要な図書館情報の利用方法や、入手した情報を利用して自らレポートを作成したり、WWW(World Wide Web)などで新たに情報発信する上での基本的なアカデミックマナーの習得。	主要授業科目
		データサイエンス基礎学	○	インターネット・情報技術の進展により、ビッグデータやAIの活用が可能になり社会に新しい価値が生まれ、日常にも大きな変化をもたらしています。 この授業では、今後のデジタル社会において必要とされている数理・データサイエンス・AIの概念や手法を学び、それらを活用するための基礎を身につけます。社会におけるデータ・AI活用を理解し、データを扱う上での基礎、データに関する留意点・情報セキュリティに関して必要な知識・考え方を身につけることを到達目標とします。	主要授業科目
外国語系	Academic English Communication A1		学術的な題材を扱うことによって、あるいは、一般的な題材を学術的な観点から扱うことによって、複眼的思考能力と英語運用能力(特に聞く力・話す力)の育成を目指す。 (1)英語を用いた国際的な学術研究の重要性に対する理解を深め、(2)「複眼的に思考する能力」および「多様性と地球的課題を理解する能力」を伸ばし、あわせて、(3)聞く力・話す力を中心として、将来の学術研究や仕事に活用できる英語技能の総合的な運用能力を向上させることを目標とする。		

教養科目	外国語系	Academic English Communication A2	<p>学術的な題材を扱うことによって、あるいは、一般的な題材を学術的な観点から扱うことによって、複眼的思考能力と英語運用能力(特に聞く力・話す力)の育成を目指す。</p> <p>(1)英語を用いた国際的な学術研究の重要性に対する理解を深め、(2)「複眼的に思考する能力」および「多様性と地球的課題を理解する能力」を伸ばし、あわせて、(3)聞く力・話す力を中心として、将来の学術研究や仕事に活用できる英語技能の総合的な運用能力を向上させることを目標とする。</p>	
		Academic English Communication B1	<p>学術的な題材を扱うことによって、あるいは、一般的な題材を学術的な観点から扱うことによって、複眼的思考能力と英語運用能力(特に聞く力・話す力)の育成を目指す。</p> <p>プロジェクト活動を基にした口頭英語を中心とした英語能力の向上</p> <p>本コースでは各自が日常生活、クラブ活動等の関心事をテーマにプロジェクトを組み、英語でセルフアピールをする。簡単なリサーチ、ディスカッション、プレゼンテーションのスキルを学ぶ。また、オンライン環境を利用してグローバル世界に発信する第一歩を踏み出す。</p> <p>(1)英語を用いた国際的な学術研究の重要性に対する理解を深め、(2)「複眼的に思考する能力」および「多様性と地球的課題を理解する能力」を伸ばし、あわせて、(3)聞く力・話す力を中心として、将来の学術研究や仕事に活用できる英語技能の総合的な運用能力を向上させることを目標とする。</p> <p>■ 自分を中心としたプロジェクト立ち上げと他者への関心</p> <ul style="list-style-type: none"> - 自分が現在何に対して興味・関心を持っているかを明確にし、セルフアピールというプロジェクトに落とし込むことができる。 - 他者のプロジェクトに関心を抱くことができる。 <p>■ 興味・関心の掘り下げ</p> <ul style="list-style-type: none"> - セルフアピールに必要な情報を幅広いメディアから集め、その内容を簡潔に説明することができる。 - 収集した情報に基づいて効果的なセルフアピールを行えるよう、適切な構成を考えることができる。 <p>■ プロジェクト成果の口頭発表</p> <ul style="list-style-type: none"> - プロジェクトの成果を基本的なアカデミック・フォーマットに沿って英語で口頭発表することができる。 - 自身のプロジェクトへの質問に対して英語で応答することができる。 - 他者のプロジェクトに関心をもち、そのことについて英語で質問することができる。 	
		Academic English Communication B2	<p>学術的な題材を扱うことによって、あるいは、一般的な題材を学術的な観点から扱うことによって、複眼的思考能力と英語運用能力(特に聞く力・話す力)の育成を目指す。</p> <p>プロジェクト活動を基にした口頭英語を中心とした英語能力の向上</p> <p>本コースでは各自が日常生活、クラブ活動等の関心事をテーマにプロジェクトを組み、英語でセルフアピールをする。簡単なリサーチ、ディスカッション、プレゼンテーションのスキルを学ぶ。また、オンライン環境を利用してグローバル世界に発信する第一歩を踏み出す。</p> <p>(1)英語を用いた国際的な学術研究の重要性に対する理解を深め、(2)「複眼的に思考する能力」および「多様性と地球的課題を理解する能力」を伸ばし、あわせて、(3)聞く力・話す力を中心として、将来の学術研究や仕事に活用できる英語技能の総合的な運用能力を向上させることを目標とする。</p> <p>■ 自分を中心としたプロジェクト立ち上げと他者への関心</p> <ul style="list-style-type: none"> - 自分が現在何に対して興味・関心を持っているかを明確にし、セルフアピールというプロジェクトに落とし込むことができる。 - 他者のプロジェクトに関心を抱くことができる。 <p>■ 興味・関心の掘り下げ</p> <ul style="list-style-type: none"> - セルフアピールに必要な情報を幅広いメディアから集め、その内容を簡潔に説明することができる。 - 収集した情報に基づいて効果的なセルフアピールを行えるよう、適切な構成を考えることができる。 <p>■ プロジェクト成果の口頭発表</p> <ul style="list-style-type: none"> - プロジェクトの成果を基本的なアカデミック・フォーマットに沿って英語で口頭発表することができる。 - 自身のプロジェクトへの質問に対して英語で応答することができる。 - 他者のプロジェクトに関心をもち、そのことについて英語で質問することができる。 	
		Academic English Communication B1 (ACE)	<p>Class Description: Students will discuss academic topics on important social issues, learning to gather and share data to support views on complex matters. They will think critically about their own and other cultures and participate in academic discussions related to the humanities and science. They will also begin analyzing and practicing good presentation structure to share such information.</p> <p>Objectives Students will acquire academic skills that are commonly used in English-speaking university settings. They will</p> <ul style="list-style-type: none"> · Share research-based data and report results · Participate in small group critical discussions on academic issues · Analyze and develop oral presentation skills <p>授業の内容 重要な社会問題に関する学術的なトピックについて議論し、複雑な問題に対する見解を裏付けるデータの収集と共有を学ぶ。自国や他国の文化について批判的に考え、人文科学や科学に関連する学術的な議論に参加する。また、そのような情報を共有するために、分析し、優れたプレゼンテーションの構成を練習する。</p> <p>目標 英語圏の大学で一般的に使用される、アカデミック・スキルを習得する。具体的には</p> <ul style="list-style-type: none"> - 研究データを共有し、結果を報告する - 少人数グループでのアカデミックな問題に関するディスカッションに参加する。 - 口頭のプレゼンテーションスキルの分析と開発 	

教養科目	外国語系	Academic English Communication B2 (ACE)	<p>Class Description: Students will discuss academic topics on important social issues, learning to gather and share data to support views on complex matters. They will think critically about their own and other cultures and participate in academic discussions related to the humanities and science. They will also begin analyzing and practicing good presentation structure to share such information.</p> <p>Objectives: Speaking Focus Students will acquire more advanced academic skills that are commonly used in English-speaking university settings. They will</p> <ul style="list-style-type: none"> Share research-based data and report results Participate in small group critical discussions on academic issues Analyze and develop oral presentation skills <p>授業の内容 重要な社会問題に関する学術的なトピックについて議論し、複雑な問題に対する見解を裏付けるデータの収集と共有を学ぶ。自国や他国の文化について批判的に考え、人文科学や科学に関連する学術的な議論に参加する。また、そのような情報を共有するために、分析し、優れたプレゼンテーションの構成を練習する。</p> <p>目標 スピーキング 英語圏の大学で一般的に使用される、より高度なアカデミック・スキルを習得する。具体的には</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究データを共有し、結果を報告する 少人数グループでのアカデミックな問題に関するディスカッションに参加する。 口頭でのプレゼンテーションスキルの分析と開発 	
		Academic English Literacy A1	<p>学術的な題材を扱うことによって、あるいは、一般的な題材を学術的な観点から扱うことによって、複眼的思考能力と英語運用能力(特に読む力・書く力)の育成を目指す。</p> <p>(1)英語を用いた国際的な学術研究の重要性に対する理解を深め、(2)「複眼的に思考する能力」および「多様性と地球的課題を理解する能力」を伸ばし、あわせて、(3)読む力・書く力を中心として、将来の学術研究や仕事に活用できる英語技能の総合的な運用能力を身に付けることを目標とする。</p>	
		Academic English Literacy A2	<p>学術的な題材を扱うことによって、あるいは、一般的な題材を学術的な観点から扱うことによって、複眼的思考能力と英語運用能力(特に読む力・書く力)の育成を目指す。</p> <p>(1)英語を用いた国際的な学術研究の重要性に対する理解を深め、(2)「複眼的に思考する能力」および「多様性と地球的課題を理解する能力」を伸ばし、あわせて、(3)読む力・書く力を中心として、将来の学術研究や仕事に活用できる英語技能の総合的な運用能力を身に付けることを目標とする。</p>	
		Academic English Literacy B1	<p>多様な学術的題材を扱うことによって、あるいは、一般的な題材を多様な学術的観点から扱うことによって、複眼的思考能力と英語運用能力(特に読む力・書く力)の育成を目指す。</p> <p>(1)英語を用いた国際的な学術研究の重要性に対する理解を深め、(2)「複眼的に思考する能力」および「多様性と地球的課題を理解する能力」を伸ばし、あわせて、(3)読む力・書く力を中心として、将来の学術研究や仕事に幅広く応用できる英語技能の総合的な運用能力を身に付けることを目標とする。</p>	
		Academic English Literacy B2	<p>多様な学術的題材を扱うことによって、あるいは、一般的な題材を多様な学術的観点から扱うことによって、複眼的思考能力と英語運用能力(特に読む力・書く力)の育成を目指す。</p> <p>(1)英語を用いた国際的な学術研究の重要性に対する理解を深め、(2)「複眼的に思考する能力」および「多様性と地球的課題を理解する能力」を伸ばし、あわせて、(3)読む力・書く力を中心として、将来の学術研究や仕事に幅広く応用できる英語技能の総合的な運用能力を身に付けることを目標とする。</p>	
		Academic English Literacy B1 (ACE)	<p>Students will read and write about academic topics on important social issues, learning to gather and share data to support views on complex matters. They will think critically about their own and other cultures and participate in academic writing related to the humanities and science. They will do basic academic research: identify a topic of personal interest (within a given range), find and read relevant academic articles on the topic, and write a presentation abstract on it.</p> <p>Students will acquire academic reading and writing skills that are commonly used in English-speaking university settings. They will</p> <ul style="list-style-type: none"> Develop skills for critical reading in English academic contexts, such as articles Find academic research articles on a topic of interest Write short article summaries with logical, well-organized paragraphs. <p>重要な社会問題に関する学術的なトピックを読み、書くことで、複雑な問題に対する見解を裏付けるデータを集め、共有することを学ぶ。自国や他国の文化について批判的に考え、人文科学や科学に関連した学術的な文章を書く。基本的なアカデミック・リサーチを行う。(与えられた範囲内で)個人的に関心のあるトピックを特定し、そのトピックに関する関連学術論文を探し、読み、そのトピックに関するプレゼンテーションのアブストラクトを書く。</p> <p>英語圏の大学で一般的に使用されるアカデミックなリーディングとライティングのスキルを身に付けます。具体的には</p> <ul style="list-style-type: none"> 論文のような英語のアカデミックな文脈を批判的に読むスキルを身に付ける。 興味のあるトピックに関する学術研究論文を見つける 論理的に整理された段落で、短い論文の要約を書く。 	

<p>教養科目</p> <p>外国語系</p>	<p>Academic English Literacy B2 (ACE)</p>	<p>Class Description: Students will read and write about academic topics on important social issues, learning to gather and share data to support views on complex matters. They will think critically about their own and other cultures and participate in academic writing related to the humanities and science. They will do basic academic research.</p> <p>Objectives: Reading Focus Students will acquire academic reading and writing skills that are commonly used in English-speaking university settings. They will ・ Develop skills for critical reading in English academic contexts, such as articles ・ Do an academic writing project related to research done (e.g. on Student Conference presentation topic)</p> <p>授業の内容 重要な社会問題に関する学術的なトピックを読み、書くことで、複雑な問題に対する見解を裏付けるデータを集め、共有することを学ぶ。自国や他国の文化について批判的に考え、人文科学や科学に関連した学術的な文章を書く。基本的な学術研究を行う。</p> <p>目標 読解の焦点 英語圏の大学で一般的に使用されるアカデミックなリーディングおよびライティングスキルを習得する。到達目標 - 論文など、英語のアカデミックな文脈を批判的に読むスキルを身につける。 - 研究に関連したアカデミックライティングプロジェクトを行う。</p>	
	<p>第三外国語(ドイツ語)T1</p>	<p>この授業では基礎的なドイツ語の知識を文法を中心に体系的に学習します。外国語第II(未修外国語)としてドイツ語を選んだ人が必ず履修しなければならない科目です。ドイツ語は、今日、東西両ドイツの統一と欧州連合(EU)に基づくヨーロッパ統合を経て、さらに中東欧への市場拡大の時代を迎え、ますます情報伝達の手段としての役割を顕著にしています。幅広く国際社会で活躍しようとする人にとっても、多彩で興行きのあるヨーロッパの歴史や文化に関心のある人にとっても、また環境問題のような現代的な課題に取組もうとする人にとっても、ドイツ語を学ぶ意義はさきわめて大きいといえるでしょう。そうしたドイツ語圏に関する知識を得、理解するための第一歩としてドイツ語の基礎をしっかりと身につけることが初年度の授業のテーマです。</p> <p>ドイツ語の基礎的な文法知識や日常的なコミュニケーションの基本的表現などの習得をとおして、基礎的なドイツ語能力(読む・書く・聞く・話す力)を身につけることを目標とします。</p>	
	<p>第三外国語(ドイツ語)T2</p>	<p>この授業では基礎的なドイツ語の知識を文法を中心に体系的に学習します。外国語第III(未修外国語)としてドイツ語を選んだ人が必ず履修しなければならない科目です。ドイツ語は、今日、東西両ドイツの統一と欧州連合(EU)に基づくヨーロッパ統合を経て、さらに中東欧への市場拡大の時代を迎え、ますます情報伝達の手段としての役割を顕著にしています。幅広く国際社会で活躍しようとする人にとっても、多彩で興行きのあるヨーロッパの歴史や文化に関心のある人にとっても、また環境問題のような現代的な課題に取組もうとする人にとっても、ドイツ語を学ぶ意義はさきわめて大きいといえるでしょう。そうしたドイツ語圏に関する知識を得、理解するための第一歩としてドイツ語の基礎をしっかりと身につけることが初年度の授業のテーマです。ドイツ語の基礎的な文法知識や日常的なコミュニケーションの基本的表現などの習得をとおして、基礎的なドイツ語能力(読む・書く・聞く・話す力)を身につけることを目標とします。</p>	
	<p>第三外国語(ドイツ語)T3</p>	<p>この授業では基礎的なドイツ語の知識を文法を中心に体系的に学習します。外国語第III(未修外国語)としてドイツ語を選んだ人が必ず履修しなければならない科目です。ドイツ語は、今日、東西両ドイツの統一と欧州連合(EU)に基づくヨーロッパ統合を経て、さらに中東欧への市場拡大の時代を迎え、ますます情報伝達の手段としての役割を顕著にしています。幅広く国際社会で活躍しようとする人にとっても、多彩で興行きのあるヨーロッパの歴史や文化に関心のある人にとっても、また環境問題のような現代的な課題に取組もうとする人にとっても、ドイツ語を学ぶ意義はさきわめて大きいといえるでしょう。そうしたドイツ語圏に関する知識を得、理解するための第一歩としてドイツ語の基礎をしっかりと身につけることが初年度の授業のテーマです。ドイツ語の基礎的な文法知識や日常的なコミュニケーションの基本的表現などの習得をとおして、基礎的なドイツ語能力(読む・書く・聞く・話す力)を身につけることを目標とします。</p>	
	<p>第三外国語(ドイツ語)T4</p>	<p>この授業では基礎的なドイツ語の知識を文法を中心に体系的に学習します。外国語第II(未修外国語)としてドイツ語を選んだ人が必ず履修しなければならない科目です。ドイツ語は、今日、東西両ドイツの統一と欧州連合(EU)に基づくヨーロッパ統合を経て、さらに中東欧への市場拡大の時代を迎え、ますます情報伝達の手段としての役割を顕著にしています。幅広く国際社会で活躍しようとする人にとっても、多彩で興行きのあるヨーロッパの歴史や文化に関心のある人にとっても、また環境問題のような現代的な課題に取組もうとする人にとっても、ドイツ語を学ぶ意義はさきわめて大きいといえるでしょう。そうしたドイツ語圏に関する知識を得、理解するための第一歩としてドイツ語の基礎をしっかりと身につけることが初年度の授業のテーマです。ドイツ語の基礎的な文法知識や日常的なコミュニケーションの基本的表現などの習得をとおして、基礎的なドイツ語能力(読む・書く・聞く・話す力)を身につけることを目標とします。</p>	
	<p>第三外国語(フランス語)T1</p>	<p>「明晰でないものはフランス語ではない」という有名な言葉があるように、フランス語はとても合理的で明快な構造を持っている言語です。フランス語の学習を通じて、言葉自体の面白さを味わうとともに、豊かな歴史や文化に触れたいと思います。なぜなら言語を学ぶことは文化を学ぶことでもあるからです。またフランス語は英語とともに重要な国際共通語であり、国連やEUの公用語であるだけでなく、中東やアフリカの多くの国々、アジアやアメリカの一部でも使われています。フランス語を知ることによって、現代世界における政治、経済、社会問題にも視野を広げ、英語一辺倒ではない世界を知ってほしいと思います。フランス語の基礎的な文法知識や日常コミュニケーションの基本的表現などの習得をとおして、基礎的なフランス語能力(読む・書く・聞く・話す力)を身につけることを目標とします。第1クォーター開講科目。</p>	
	<p>第三外国語(フランス語)T2</p>	<p>「明晰でないものはフランス語ではない」という有名な言葉があるように、フランス語はとても合理的で明快な構造を持っている言語です。フランス語の学習を通じて、言葉自体の面白さを味わうとともに、豊かな歴史や文化に触れたいと思います。なぜなら言語を学ぶことは文化を学ぶことでもあるからです。またフランス語は英語とともに重要な国際共通語であり、国連やEUの公用語であるだけでなく、中東やアフリカの多くの国々、アジアやアメリカの一部でも使われています。フランス語を知ることによって、現代世界における政治、経済、社会問題にも視野を広げ、英語一辺倒ではない世界を知ってほしいと思います。フランス語の基礎的な文法知識や日常コミュニケーションの基本的表現などの習得をとおして、基礎的なフランス語能力(読む・書く・聞く・話す力)を身につけることを目標とします。第2クォーター開講科目。</p>	

教養科目	外国語系	第三外国語(フランス語)T3		「明晰でないものはフランス語ではない」という有名な言葉があるように、フランス語はとも合理的で明快な構造を持っている言語です。フランス語の学習を通じて、言葉自体の面白さを味わうとともに、豊かな歴史や文化に触れたいと思います。なぜなら言語を学ぶことは文化を学ぶことでもあるからです。またフランス語は英語とともに重要な国際共通語であり、国連やEUの公用語であるだけでなく、中東やアフリカの多くの国々、アジアやアメリカの一部でも使われています。フランス語を知ることによって、現代世界における政治、経済、社会問題にも視野を広げ、英語一辺倒ではない世界を知ってほしいと思います。フランス語の基礎的な文法知識や日常コミュニケーションの基本的表現などの習得をおして、基礎的なフランス語能力(読む・書く・聞く・話す力)を身につけることを目標とします。第3クォーター開講科目。			
			第三外国語(フランス語)T4		「明晰でないものはフランス語ではない」という有名な言葉があるように、フランス語はとも合理的で明快な構造を持っている言語です。フランス語の学習を通じて、言葉自体の面白さを味わうとともに、豊かな歴史や文化に触れたいと思います。なぜなら言語を学ぶことは文化を学ぶことでもあるからです。またフランス語は英語とともに重要な国際共通語であり、国連やEUの公用語であるだけでなく、中東やアフリカの多くの国々、アジアやアメリカの一部でも使われています。フランス語を知ることによって、現代世界における政治、経済、社会問題にも視野を広げ、英語一辺倒ではない世界を知ってほしいと思います。フランス語の基礎的な文法知識や日常コミュニケーションの基本的表現などの習得をおして、基礎的なフランス語能力(読む・書く・聞く・話す力)を身につけることを目標とします。第4クォーター開講科目。		
		健康・スポーツ科学系	健康・スポーツ科学講義A		生涯にわたって健康で豊かな生活を送るために、健康と行動や環境との関わり、および身体運動のスポーツ科学的関わりをテーマとする。生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための知識や実践能力を身につけることを目標とする。		
			健康・スポーツ科学講義B		生活機能病(腰痛や関節痛など、主として整形外科領域の病気)や生活習慣病(肥満、高血圧症、脂質異常症、糖尿病など、主として内科領域の病気)は、まだ病気を抑制したり、その程度を軽くしたりすることができると考えられています。そこで、本講義では、スポーツやアルコール、薬物、喫煙、食生活、感染予防など、健康とスポーツに関する様々な実践的な知識を学修し、適度に身体運動を行って生涯に渡って健康に過ごすための能力を身につけることを目的とします。食事・運動・休養・嗜好品など、生涯に渡って健康的な生活を送るために必要な生活習慣ならびに、一般的な病気や傷害の予防と対処法に関する知識を学修して自分で実践できるようになることを目標とします。		
	健康・スポーツ科学実習基礎			運動・スポーツを生活に取り入れ、心身の健康を維持、増進しよう。 ・各自が自らの健康や体力について考えとともに、その維持増進のための知識と実践方法を学びます。 ・授業で行う運動・スポーツ種目を各自が選択して実践することにより、からだを動かすことの楽しさを体感しながら、ルール、マナー、技術の習得を目的とします。 ・各種の運動やスポーツの実践を通して、履修学生相互の積極的な交流を行い、コミュニケーションやリーダーシップ、ソーシャルサポート等、社会性の向上を目指します。			
	健康・スポーツ科学実習1			身体コンディショニングで扱われるエクササイズの実習を通して、エクササイズを協力して楽しむ能力を養います。 ※本授業は第4クォーターの実習2と連続して同一種目を行います。 身体コンディショニングで扱われる各種エクササイズの目的を理解し、適切に実施できるようになる。			
	健康・スポーツ科学実習2		身体コンディショニングで扱われるエクササイズの実習を通して、エクササイズを協力して楽しむ能力を養います。 身体コンディショニングで扱われる各種エクササイズの目的を理解し、適切に実施できるようになる。				
	専門科目	基礎系	数学	線形代数	○	本講義では、行列、行列式、線型写像、ベクトル空間、部分空間と基底・次元、線型写像、固有値と固有ベクトル、対角化、内積、特殊な線形変換について学ぶ。これにより、システム情報学の専門科目を学ぶために必要となる線形代数の基礎的な概念と計算方法を修得する。	主要授業科目
				基礎解析	○	はじめに、高等学校で習った1変数関数の微分積分を多変数関数へ拡張する。それを踏まえ、曲線や曲面について学び、ベクトル解析に関する諸定理を理解する。その後、フーリエ解析をはじめ、フーリエ解析の微分方程式への応用、微分方程式の数値解法、複素関数を学んでいく。本講義の目的は、解析学全般を概観するとともに、多変数の微分積分、ベクトル解析、フーリエ解析、微分方程式、複素関数に関する基礎知識を身に付けることである。	主要授業科目
				離散数学		グラフ理論におけるグラフとは、対象同士の「繋がり」を抽象的に表現するために用いられる概念であり、ネットワークなどに関する実用的な問題を扱う際に役立てられる。この授業では、グラフ理論を中心に離散数学に関する基礎的な事項を学び、その知識を問題解決に応用できるようになることを目指す。具体的に、はじめに理論の土台となる集合と写像について学び、グラフの次数、直径、道などの基礎的な事項を学ぶ。その後、グラフの操作や木、彩色、最適化問題などの様々な事項を学ぶ。講義の終盤では、グラフの行列表現や、群と関連するケイリーグラフについて学ぶ。	
代数・幾何演習1					線形代数の基本的な事項に精通するための演習である。世の中のことは最後は線形代数に落とし込まれて処理されていると言われるほど線形代数は重要で基本的な分野である。数ベクトル、行列を使った連立一次方程式の解法、行列で表される線形写像、行列の核や行列の像としての線形空間、線形空間の基底と次元、行列の固有値、固有ベクトルの集合である固有空間、内積、行列の対角化について具体的な計算を通して学ぶ。		
解析演習1					同科目は基礎解析に対応する演習科目である。はじめに、多変数関数の微分積分の演習問題(多変数関数と偏導関数、高階偏導関数、テイラーの定理、陰関数定理、逆写像定理、極値問題、累次積分、変数変換、広義重積分)を解いて、微分積分の基礎知識を身に付ける。つぎに、ベクトル解析の演習問題(外積とベクトル値関数、曲線と曲面、スカラー場の勾配、ベクトル場の発散と回転、線積分と面積分、グリーンの定理、ガウスの発散定理、ストークスの定理)を解き、線積分と面積分の扱いを確実なものにする。最後に、応用解析学の三本柱であるフーリエ解析、微分方程式、複素関数に関する基本的な演習問題を解き、これらの科目間の繋がりを理解する。		

専門科目	基礎系	数学	代数概論	代数学では足し算や掛け算が基本的な演算であり、環、体、群、イデアルなどの概念が基本的である。整数全体や多項式全体は環になっている。時計算のように、固定した数で割った余りの世界も環になる。多項式環でも同様である。馴染みのある整数や多項式における具体的な計算を通して環、体、群、イデアルの概念を自然に学ぶ。有限体が簡単に構成できて、その乗法群が簡単な構造をしていることを学ぶ。このことを利用した誤り訂正符号も学ぶ。この符号は放送、通信、QRコードなど世の中の様々なところで使われている。暗号、特に秘密鍵の交換方法は有限体の乗法群の構造を利用したものが考案されている。群を楕円曲線のもつ群構造に置き換えたものも考えられている。これらの技術が代数的に基本的なことだけで構成されていることを学ぶ。	
			応用解析	微分方程式と複素関数は解析学において主要な役割を担うとともに、現象を表す数理モデルとして工学やその他の分野において幅広く利用されている。この授業では、それらに関する基礎的な事項と計算手法を学ぶとともに、工学やその他の分野における応用例に触れ、関連する理論と応用手法に習熟することを目指す。具体的に、講義の前半は微分方程式、後半は複素関数について学ぶ。微分方程式の授業では、具体的に解くことができる様々な形の1階の方程式の解法を学ぶ。複素関数の授業では、複素平面における複素数の表示、複素関数による変換、複素微分と関連する定理について学ぶ。	
			代数・幾何演習2	基本的な代数学である群、環、体の基本的な事項について、具体的に身近なものを通じて演習を行う。整数、分数、実数、複素数というのが高校までに学んできた数の拡大の仕方であるが、時計算の一般化で有限の体を構成したり、体係数の多項式環において同様の構成で体の拡大をする方法などについて具体例で学ぶ。有限体を利用した誤り訂正符号や様々な暗号が世の中で使われているが、簡単な場合について具体的に計算してみることにより、理解を深めていく。	
			解析演習2	応用解析で学んだ内容に関連する演習問題に取り組むことで、同科目の内容の理解度の向上を図る。具体的に、微分方程式については、変数分離形、同次形、一階線形・非線形などの常微分方程式の解の導出に関する演習問題に取り組む。また、複素関数については、極形式、正則性、コーシー・リーマンの方程式、初等関数、一次変換などに関する演習問題に取り組む。必要に応じて、学生が課題に対する自身の解答を板書等で発表し、教員がそれを添削するという授業形式をとることで、学生が能動的に授業に参加できるようにする。	
			幾何概論	幾何学は図形の性質を研究する学問であるが、現代数学では様々な変換で不変な量や概念を研究する学問とも言える。幾何学で使われる基本概念として、位相(トポロジー)と多様体がある。この講義では実数の数直線、座標平面、円、楕円、双曲線、球面、2次元などなじみのある対象を題材に、位相や多様体の概念を学び、様々な図形がどのような変換で写りあえるのか、あるいは写りあえないのか、どう調べる。また、どのような量により図形が区別されるのかということも学ぶ。	
			常微分方程式論	一つの独立変数の未知関数とその導関数を含む方程式を常微分方程式という。力学の多くの現象は常微分方程式を用いて記述される。また、それらは電気回路を用いて等価的に表される。今や常微分方程式は物理をはじめとする自然科学のみならず、工学や社会科学の共通の言語の一つとなっている。本講義では、基本的な常微分方程式の解法を修得し、常微分方程式の解の一意存在定理などの諸定理を理解することを目標とする。	
			複素関数論	工学・科学の多くの分野および応用数学においては、複素平面上で定義された複素数値関数が現れる。例えば制御理論や信号処理の分野においては伝達関数や周波数応答関数という形で複素変数・複素数値関数が登場する。交流回路や機械力学、流体力学においても重要な役割を果たす。また、応用数学においても重要な基礎の一つである。本講義では、複素関数論の基礎理論を講義する。以下の基礎理論を理解し、その運用ができることを目標とする。(1) 複素微分および正則関数、コーシー・リーマンの関係式 (2) 複素積分、コーシーの積分定理・コーシーの積分公式 (3) ベキ級数、テイラー展開、ローラン展開、留数定理およびその実定積分への応用 (4) 最大値の原理、リュウビルの定理、代数学の基本定理、偏角の原理、一致の定理	
			数理論理学	数学の基礎である数理論理学への入門である。まず接統詞を用いて構成された命題を取り扱う命題論理学を学ぶ。真理表によって命題論理を解釈する意味論と、数学における証明の概念を形式化する演繹によって統語論を理解する。健全性定理と完全性定理で意味論によるアプローチと統語論によるアプローチが同値であることがわかる。次に量記号を用いて作られた言語を取り扱う述語論理学を学ぶ。項、論理式、自由変数、束縛変数などの述語論理の基本的な概念を導入してから、数学における構造を扱うモデル論(意味論)と、演繹による統語論を解説する。最後に述語論理の健全性定理とゲーデルの完全性定理を紹介する。	
		偏微分方程式	音の伝播、熱の伝導、弦の振動などの物理現象はすべて偏微分方程式によって解析的に記述される。本講義では基本的な偏微分方程式の解法や安定性解析を学ぶとともに、ポラテラ型やポラテラ-フレドホルム型の積分変換によって、偏微分方程式系を別の偏微分方程式系に写して解析する手法を学ぶ。とりわけ、偏微分方程式系の状態を推定するための手法を修得するとともに、不安定な系に対しては安定化する手法を修得することを目標とする。		
		物理学	物理基礎	(概要) 現代科学の基礎である古典物理学を学ぶ。力学と電磁気学を主な対象とし、基本的な概念と基本法則、そしてその帰結として記述される多彩な現象について理解する。 (オムニバス方式/全15回) (5 陰山 聡/7回) 前半では力学を学ぶ。「系(システム)」の時間変化を数学的に記述する枠組みが力学である。高校物理で学んだニュートン力学はその一例に過ぎない。ニュートン力学を一般化した解析力学では、力(ちから)の概念が中心的なものではなく、自由で便利な一般化座標の下で運動方程式を考えることが可能となる。 (1 日井 英之/8回) 後半では電磁気学を学ぶ。電荷の周囲にある電界や、磁石の周囲にある磁界のように、「系」が空間的に広がっているとき、それを「場」という。はじめに電界と磁界の時間変化を統一的に記述する基本方程式(マクスウェル方程式)を示した後、その帰結としての様々な電磁場の形態と電気回路について学ぶ。	オムニバス方式 主要授業科目
			物理数学	高度情報化社会を支える通信技術は電磁波と光という波動現象を広く利用している。また、パネやブランコのような振動現象もロボットハンドやアクチュエータなどの挙動や電気回路応答において広くみられる。本講義では、この「波動と振動」の基本概念を理解するとともに、それらの現象を数学的に取り扱う際に必要となるフーリエ級数展開やフーリエ変換、ラプラス変換の基礎とその物理的意味について、それぞれ波動方程式や拡散方程式などで記述される具体的な事例を通して学ぶ。	主要授業科目

専門科目	基礎系	データサイエンス	確率・統計・情報	○	私達は、国勢調査等で得られる「静的データ」を分析するとき、確率統計の知識や考え方を役立てることが多い。他方、SNSやモバイルから得られる「動的データ」の理解においては、情報系の様々な手法や技術が実装されている。本講義では、標準的な確率統計の科目内容を一部踏襲しつつも、通常の確率統計の基礎講義には含まれない(1) 確率統計の手法(実験計画法、主成分分析など)、(2) 情報および関連する確率統計の話題(情報量基準、符号理論など)を新たに科目内容に加え、これらのサーベイ的な講義を展開する。「静的データ」と「動的データ」を融合させた、より現実的なデータを解析するための素養として、確率・統計・情報に関する諸概念に共通する思考や手法を総合的な視野から学ぶ。	主要授業科目
			データ解析	○	現代社会において、我々は膨大なデータに触れながら生活しており、これらのデータから得られる情報を読み解き、データを我々人間が利用できる形に変換・処理することによって対象についての理解や予測を行うことがますます重要となつてきている。本講義では、このようなデータの要約・分析、ならびにデータに基づいて立てられる仮説の検証をするためのデータ解析について、その基礎的・古典的な方法について講述する。具体的には、回帰分析、主成分分析、因子分析、判別分析に代表される多変量解析、および区間推定や仮説検定に代表される統計解析に焦点をあて、その基本的な考え方や手法について、具体例を交えながら解説する。	主要授業科目
			アルゴリズムとデータ構造	○	計算機ソフトウェアを設計・作成・評価する際の重要な要素は、そのソフトウェアで実行される処理の基本となるアルゴリズムとデータ構造である。本講義では、アルゴリズムとデータ構造に関する基本概念、アルゴリズムの計算量の概念、基本的なデータ構造、データの格納・検索のためのアルゴリズムとデータ構造、整列のためのアルゴリズム、その他の重要なアルゴリズムやアルゴリズム設計戦略などを中心に学び、今後、自ら計算機ソフトウェアを設計開発する上での基礎力を身につける。	主要授業科目
			計算論		計算のモデルであるオートマトンおよびチューリングマシンについて学習する。講義の前半では、オートマトンと形式言語の文法・表現という2つの数学的概念を理解し、またこれらの間の同値性および変換可能性を理解する。講義の後半では、チューリングマシンを計算モデルとして用いて、どのような問題がコンピュータで解決するのに時間や領域を要するかを分析する計算複雑性理論(計算量理論)について学び、計算複雑性を用いた問題の分類を理解する。これらの議論を通じて、諸問題の計算モデルを用いた数学的分析法を身につけることを目指す。	
	数理系	設計と計画	システムモデル	○	モデル(System Model)は、システムをつくりあげ、目的とする仕様を実現するために重要な役割を演じている。自然界や社会において、複雑なシステムを実現するためには、コンピュータを援用してシステムを構築することが必要である。コンピュータを利用するためには、数学モデルを構築することがその第1歩となる。講義の前半は、システムモデリングの基本構成について講述し、続けて静的モデル動的モデルの形成について講述する。後半は、分布定数モデルの構成法およびそのシミュレーション技法について、適用事例を交えながら解説する。	主要授業科目
			最適化理論1	○	最適化は、様々なシステムを効率的かつ合理的に設計・計画・運用・制御したいと考えたときに直面する問題であり、1940年代後半に線計計画問題が提案されて以降、最適化の分野は大きな発展を遂げ、今日ではシステム工学の中心的課題となっている。ここでは、最適化のためのモデル化・定式化や解法について、数理計画法に焦点を絞って高額の観念から解説する。特に、計算手順やアルゴリズムといった技法の解説に終始せず、これらのベースにある基本的な考え方や枠組みが具体例を通して直感的に把握できるように配慮する。	主要授業科目
			最適化理論2		システムの計画・設計・構築する際に生じる諸問題を科学的に解決するためには、対象とする問題の構造・性質の適切な分析、数学的・統計的なモデルを用いた適切な方策の決定、並びに得られた結果に対する定量的な評価と意思決定といった、システムの問題解決のアプローチが重要となる。このアプローチを身につけることを目標に、最適化理論2では、最適化理論1の内容を踏まえつつ、待ち行列、組合せ最適化、ネットワーク計画、スケジューリングなど、オペレーションリサーチに関する理論的手法を学ぶとともに、生産・交通・運送・経営・プロジェクトマネジメント・行政など日常生活に密接した実用的問題へ適用し、その理解度を深める。	
			設計工学		工業製品、大規模構造物から組織にいたるまでの広義の対象を一般的にシステムとしてとらえ、それらの合理的な設計を行うための基礎的な考え方を学ぶ。概念設計から詳細設計・生産設計までのシステム設計の各プロセスにおけるモデル化法、解析法についても学ぶ。計算機援用設計の時代においては、設計情報をどのように取り扱うかは重要な課題であり、このことについても検討する。	
	計測と制御	制御工学	制御工学1	○	制御技術は、航空機、自動車、鉄道、産業ロボット、大型宇宙ステーション、化学プラント、製鉄プラント、ハードディスク装置など、非常に広範な分野において用いられている。本講義では、制御工学におけるモデリング、解析と制御系設計について体系的に講義をし、演習を行う。具体的には、力学系や電気回路、DCモーターなどを代表とする線形システムについて、ラプラス変換を用いた解析と周波数応答法の講義を行う。まず、線形システムについて伝達関数によるシステム表現・ブロック線図を導入する。次に、システムの時間応答、定常特性及び周波数応答の解析と安定判別法を講義する。最後にPID制御設計などの制御手法について解説する。	主要授業科目
			制御工学2		航空機、自動車、ロボットなどの機械システムだけでなく、化学プラント、製鉄プラント、情報通信ネットワーク、電力供給ネットワークなど、多様なシステムが制御技術に支えられて稼働している。現代制御理論は、対象システムを状態方程式として表すことで、多くのシステムに共通する制御系設計手法を蓄積してきた。この講義では、制御の観点での対象システムの解析方法、制御系設計の考え方および方法について、その基礎理論と応用事例を学習する。これにより、現代制御理論の基礎を習得し、制御の視点からシステムを理解する力を身につけることを目標とする。	
			知能ロボティクス		ロボットは、現代の科学技術における必要不可欠の要素のひとつである。ロボティクスは、機械工学、電気工学、センシング、計測制御、生体力学、神経科学、多次元数学、剛体力学、解析力学などの幅広い学術分野と深く関係している。本講義では、知能ロボットの体系化に関する基礎知識、マニピュレータの運動学、動力学、計測、制御、ヒューマン/0、認知・学習機能、実応用等について述べる。特に、代表的な産業用ロボットのひとつであるロボットマニピュレータを具体例として、その制御あるいは解析を行うために必要な動力学基礎や知能計算について講義する。	
			計測工学		計測は事物や現象を捉えること目的として、物理量を機械的・電気的手段により数値として取得することであり、さまざまな分野において根幹となる重要な技術である。本講義では、計測の基本となる単位や次元解析、多様なセンサの種類やメカニズムを学ぶ。さらに、センサと数値データの解析を組み合わせた応用計測や数値データ・計測手段の評価方法について理解する。これらにより、センサのメカニズムから計測データの解析方法まで計測にかかわる広い知識を獲得することができ、計測実験の計画方法やセンサの選定方法、得られた結果の解釈の方法が身につく。	

専門科目	現象系	信号処理	信号処理1	○	時間信号のもつ特徴を調べるのに、周波数領域での解析は有用である。時間領域と周波数領域を結びつけるのがフーリエ変換である。この講義では主として連続時間信号を扱い、フーリエ変換及びフーリエ級数展開による非周期・周期時間信号の周波数領域での特徴抽出方法を示す。また、各種フィルタを用いてノイズの削減や信号の特徴抽出の効果を理解する。さらに、サンプリング定理により連続時間信号を正しく離散時間信号に変換するための条件を理解する。	主要授業科目
			信号処理2		現在はコンピュータネットワーク社会であり、画像や音声などのメディアコンテンツが広く流通している。このようなコンテンツの理解、変換、検索などを行うためには、デジタル信号をコンピュータに入力し処理する技術が必要である。また各種センサから得られるアナログ信号をデジタル信号に変換して、解析を行い、情報機器を自動制御するためにも、デジタル信号処理が不可欠である。本講義では離散時間フーリエ変換、z変換などの基礎理論から、適応フィルタ、最新の機械学習による信号変換、二次元信号処理まで取り上げ、基礎理論がどのように応用されて実用的な問題を解いているかを理解できるようにする。	
			画像工学		画像情報から特徴を抽出する画像処理に関して、実空間及び空間周波数空間での処理の2つのアプローチがある。特に、2次元フーリエ変換により画像の空間周波数特性が得られ、特徴量を視覚的に調べることができる。さらにヒストグラムや相関演算などの画像の統計量や類似性を定量的に評価できる。画像データの特徴は画像データの圧縮につながる。画像認識は、画像に含まれる人やモノを識別する技術であり、既に自動運転、顔認証や不良品検出など工業的に応用されている。また、画像データの暗号化は情報通信に必要な技術である。本講義では、画像の性質、画像処理、画像認識を通じて画像工学の基本を学習でき、画像を用いた応用研究に役立つ知識が身につく。	
			光情報工学		高度な情報社会やものづくりを支える技術として、光情報処理システム、光計測技術を扱う。光学の基礎を講述するとともに、信号処理と線形システムとしての光情報処理について重点的に扱う。数学系科目や信号解析等で学習したフーリエ変換の実践的な事例として、電磁波の回折やレンズの機能を取り扱い、その取り扱いや解析方法について学ぶ。また、時間、三次元空間、位相、波長、偏光といった多次元情報としての光の特性とその応用事例について理解することを目的とする。	
	物理計算	数値解析1	○	解析的に解くことが難しい問題や計算量が膨大な問題に対しては、コンピュータを用いた数値計算が有効である。本講義では、基本的な数値計算アルゴリズムとその収束性・安定性に関する性質、誤差解析について学ぶ。アルゴリズムの知識を身につけるだけでなく、背景にある考え方や達成しうる精度について理解することが目標である。具体的には、まず非線形方程式と線形連立方程式に対する反復解法とその収束性について学ぶ。その際に、縮小写像と不動点定理についての知識も習得する。次に、数値積分のアルゴリズムとその誤差解析、常微分方程式の数値解法とその安定性に関する基礎を身につける。最後に補間法と最小二乗法について学習する。	主要授業科目	
		数値解析2	○	物理現象をマクロ的視点でとらえ(物質の構成要素である分子や原子にまで立ち戻らず、連続体仮説が成り立つ条件で考える)、連続体場で成り立つ質量・運動量・エネルギーの保存則から導かれる偏微分方程式に対して離散化を行うことで、コンピュータにより解を得る方法について学ぶ。まず、波動方程式及び拡散方程式を対象に差分法による離散化手法について学んだ後、対流・拡散方程式に対して有限体積法にもとづく離散化を行い、具体的なプログラミング手法についても理解する。	共同 主要授業科目	
		数値解析3		近年、数値解析的手法は、生命現象、自然現象、物質・エネルギー、宇宙など広範な分野で応用され、重要な役割を果たしている。本講義では、計算科学の観点から物質科学の基礎知識と現代社会における役割を俯瞰的に捉え理解を深める。量子力学に基づく分子や固体の取り扱いから、分子シミュレーション技術に基づく応用分野の概論を通じて、近年注目されている機械学習や量子情報技術への展開も俯瞰する。		
		量子コンピューティング		古典物理学に従う古典コンピュータでは取り扱うことが困難ないくつかのタスクに対して、量子力学における重ね合わせの原理を用いた量子コンピュータが有効であることが知られている。現在実現されているゲート方式量子コンピュータは1982年のファインマンによる提案から始まり、量子情報理論とハードウェア技術の両側面において着実に発展を遂げてきた。本講義では量子力学の基礎から出発し、量子情報理論の概要とその実践について学ぶ。特に量子ビットやゲート操作を数学的に表現する手立てを学ぶことで、代表的な量子アルゴリズムを通して、ゲート方式量子コンピュータがその計算量においていかにして古典コンピュータに対して優位性を与えるかについて解説する。		
		HPC		コンピュータシミュレーションを中心としたハイパフォーマンスコンピューティング(HPC)による問題解決の考え方や手法を習得する。小規模なシミュレーション(プロトタイプシミュレーション)の重要性を理解した上で高性能な計算機システムを活用した大規模なシミュレーションを行う方法を学ぶ。読みやすいシミュレーションコードを書く方法、誤差の種類と大きさ、バージョン管理の仕方、並列化、可視化、時間計測、最適化、テスト手法などを学ぶ。		
	情報系	計算機工学	コンピュータシステム1	○	本科目ではコンピュータを構成する要素技術とアーキテクチャ、設計方法の基礎を学ぶ。トランジスタやメモリ、入出力装置などのハードウェアと、その上で動作するソフトウェアの関係を理解し、コンピュータの構成と動作を理解する。トランジスタの微細化と高速化、メモリの階層化とキャッシュ、パイプライン処理、仮想化、機械学習など、コンピュータの高性能化を支える技術について紹介する。また、最新のCPUやGPUのアーキテクチャ、半導体製造プロセスなど最新技術についても適宜紹介する。	主要授業科目
			コンピュータシステム2	○	本授業では、現代の計算機システムにおけるオペレーティング・システム(以下OS)の基本的な事項を学ぶ。基本的な機能とCPU等計算機ハードウェアとの関わりを理解するとともに、現実に利用されているOS(Linux, Windowsなど)における事例を通じて、基本的なOSの機能とOSの機能を実現するための技術、およびプログラムからのOS機能の利用について理解することを目標とする。授業の初回は、CPUの機能を中心とした計算機の発展の歴史とOSの機能について述べ、2回目以降に、OSの基本的機能をプロセス管理、記憶管理、相互排除、デッドロック等順に説明する。また、ネットワーク機能に関しても基本を紹介するとともに、OSにおける情報セキュリティ機能、多国語処理、計算機ハードウェア・OS等の仮想化についても言及する。	主要授業科目
			コンピュータシステム3	○	この講義では情報通信ネットワークと分散システムの基礎を学ぶ。インターネット技術を中心に、情報通信ネットワークの階層化の概念や各階層に求められる機能、ならびに分散処理システムが具備すべき機能などの基本的な考え方を理解することを目標とする。本講義の前半は情報通信ネットワークに関する内容であり、プロトコル階層にそって各層が提供する機能について、適宜、演習を交えながら学ぶ。本講義の後半は、情報サービスをネットワーク上で実現するための基盤技術としての分散処理システムについて学ぶ。	主要授業科目

専門科目	情報系	計算機工学	情報通信工学	○	この講義では情報理論と通信工学の基礎を学ぶ。情報通信システムにおいて、情報をコンパクトに表現する方法、誤りなく伝送する方法、情報を信号として伝送するための変調方式などの基本的な考え方を理解することを目標とする。本講義の前半は情報理論に関する内容であり、情報を確率と関連づけてとらえ、情報をコンパクトに表現したり、通信における誤りへの耐性を高めたりする方法についてその基礎的な考えを学ぶ。本講義の後半は通信工学(伝送工学)に関する内容であり、物理媒体を介して誤りなく情報を送るための要素技術について学ぶ。これらを踏まえ、これらの要素技術が無線通信技術にどのように応用されているかを学ぶ。	主要授業科目
			情報セキュリティ		デジタル情報の流通と利活用は社会活動の基盤であり、デジタルデータの機密性、完全性、可用性を確保するセキュリティは不可欠である。セキュリティを担う情報デバイスは、デジタルデータの入手、記憶、処理、出力において、セキュリティの要件を満たすように設計・製造されるとともに、セキュリティ機能の確らしさ、さらには、セキュリティ機能の停止・劣化あるいは改竄等の意図しない変更のないことが求められる。本講義では、情報セキュリティの工学基盤として、暗号アルゴリズムの数理的基礎と実装方法および運用技術、セキュリティ半導体デバイスの耐タンパー性と真正性、安全と安心に向けた計測セキュリティについて講述する。	
			ソフトウェア工学1		(概要)ソフトウェア工学は、ソフトウェアの開発・運用・保守をどのように行うかについての研究分野である。本講義では、座学を通して、ソフトウェアの開発プロセス・手法、設計と実装などを学習し、ソフトウェア工学の考え方を理解する。また演習を通して実践的な知識・技術を身につける。 (オムニバス方式/全15回) (19 藤井 信忠/8回) ソフトウェア開発プロセスやモデリング手法について学ぶ。 (31 宋 剛秀/7回) ソフトウェア開発環境やオブジェクト指向プログラミングについて学ぶ。	オムニバス方式
			電子回路		電子情報機器にはMOS(Metal-Oxide Semiconductor)トランジスタによる半導体集積回路が搭載され、情報処理と通信・インタフェースはそれぞれデジタル電子回路とアナログ電子回路により処理される。コンピュータの発展はデジタル電子回路技術により支えられている。アナログ回路技術は高速・高性能化する通信技術を担い、またデジタル部とアナログ部を接続する変換回路やセンサ回路としても利用されている。このように電子回路は身の回りの電子装置を実現するために不可欠の技術であり、本講義では実例を交えながら電子回路の体系を習得する。	
			並列コンピューティング		大規模コンピュータを活用した計算科学を行う上で必須の技術である並列コンピューティング技術を学ぶ。本授業は、並列コンピュータシステムを利用する上で必要となるハードウェア、ソフトウェアの知識に関する座学と、並列コンピュータ上でのプログラミング演習によって構成される。並列コンピュータシステムの仕組み、OpenMPを用いたスレッド並列計算、MPIによるプロセス並列計算、両者を統合したハイブリッド並列計算の技法を理解・習得する。また並列プログラムの性能を評価する方法についても習得する。これらの取り組みを通して、実際に並列コンピュータ上で動作するプログラムが書けるようになることを目標とする。	
			ソフトウェア工学2		コンピュータ上で動作する様々なソフトウェアは、その開発過程においてプログラミング言語によって記述される。本講義では、プログラミング言語の仕組みやその処理系を学び、演習を通して、ソフトウェアの動作原理を理解することを目標とする。具体的には、ソフトウェアを記述するプログラミング言語の概念から、構文や意味論に至るまでを系統的に学ぶ。さらに、計算機がプログラミング言語を理解し実行できる状態に変換する方法(コンパイル)を学ぶ。そして、演習による簡易コンパイラの開発を通して、ソフトウェアの動作原理を実践的に理解する。	
			量子デバイス		量子コンピュータは、量子力学の原理を活用して超高速計算を実現する次世代のコンピュータとして注目されている。量子計算は量子ビットと呼ばれる基本計算単位で実行され、それらは量子現象に基づいた量子デバイスで構成されている。本講義では、超伝導型、半導体型、イオントラップ型を例に、量子デバイスの動作原理と構成法、および、それらの制御手法について学ぶ。さらに、量子ビットデバイスの実装方法と量子計算システムの構成を学ぶことで、量子コンピュータの仕組みと動作原理の基礎知識を習得することを目指す。	
	知能情報学	人工知能1	○	人間の認識、思考、学習などの知的なふるまいをコンピュータによって再現したものを人工知能と呼ぶ。人工知能の実現に不可欠な技術の一つが機械学習であり、これはコンピュータが大量のデータから背景にあるルールやパターンを発見・獲得することで、データの分類や予測を行う技術である。本講義では機械学習技術を中心に解説するが、その基礎技術であるデータの自動クラスタリング、教師あり学習、過学習、高次元空間の次元削減、勾配降下法などの最適化手法を取り上げ、およびそれらの応用について修得することを目的とする。	主要授業科目	
		人工知能2	○	人工知能1に続いて、機械学習技術についてさらに理解を深め、画像・音声・自然言語といったメディア情報処理への応用について学ぶ。認識や生成といったメディア処理技術は近年著しく進歩しているが、その背景として2010年代から急速に発展した深層学習技術の貢献が大きい。本講義ではニューラルネットワークの基礎や畳み込みニューラルネットワーク、再帰型ニューラルネットワークといった深層学習技術で広く使われる基礎的な理論から、Transformerや画像・音声・自然言語処理といった応用技術までを取り上げ、近年の機械学習とその応用技術を、ソフトウェアでの実装が可能なレベルで理解することを目標とする。	主要授業科目	
		HCI		(概要)数値、テキスト、音声、文字、画像、映像など、情報を伝達する手段をマルチメディアと呼ぶ。このマルチメディアを、デジタル空間にある知識やデータを用いてコンピュータが認識、実現することにより、ヒューマン・コンピュータ・インタラクションが構築される。本講義では、特に画像の取得と表現、物理空間とデジタル空間の間で生じるマルチメディアの認識と可視化について論じる。 (10 熊本 悦子/7回) 画像処理に関する基礎や画像認識技術について学ぶ。 (34 伴 好弘/8回) コンピュータグラフィックス、データ可視化、人工現実に関する基礎について学ぶ。	オムニバス方式	

専門科目	総合系	総合	システム情報学入門	○	<p>(概要)システム情報学の概要とシステム情報学を構成する学問体系について理解するとともに、システム情報学にもとづくデザイン思考による実社会の問題解決へのアプローチを学ぶ。また、システム情報学を学ぶ人材として、情報倫理、知的財産権、情報セキュリティの基礎知識を習得し、情報社会における個人の役割を理解することを目標とする。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3 大川 剛直/4回) システム情報学とは何かやその学問体系、技術事例を学ぶ。</p> <p>(19 藤井 信忠/6回) システム情報学にもとづくデザイン思考による社会課題アプローチを実践的に修得する。</p> <p>(3 大川 剛直/5回) 情報倫理、知的財産権、情報セキュリティの基礎知識を習得し、情報社会における個人の役割を学ぶ。</p>	オムニバス方式 主要授業科目	
			システム情報学応用	○	<p>(概要)この講義では、システム情報学に関する先端研究について広く理解するとともに、システム情報学に関わる各研究分野における要素技術とその応用によって、社会の課題がどのように解決されているかを学ぶ。多岐にわたる研究分野についての応用事例を学ぶことで、理論と実践の統合的な知識を構築し、システム情報学の専門家としての基盤を築くことを目標とする。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(11 小林 太/1回) システム情報学における研究開発概要について学ぶ。</p> <p>(23 羅 志偉・1 白井 英之/1回) (共同) システム制御、計算宇宙科学について学ぶ。</p> <p>(22 的場 修・14 玉置 久/1回) (共同) システム計測、創発計算について学ぶ。</p> <p>(33 中本 裕之・13 滝口 哲也/1回) (共同) システム構造、メディア情報について学ぶ。</p> <p>(19 藤井 信忠・10 熊本 悦子/1回) (共同) ソフトウェア、システム知能について学ぶ。</p> <p>(18 鳩野 逸生・27 國領 大介/1回) (共同) 情報セキュリティ運用論、システム計画について学ぶ。</p> <p>(3 大川 剛直・16 永田 真/1回) (共同) 知的データ処理、情報システムについて学ぶ。</p> <p>(6 川口 博・4 太田 能/1回) (共同) アーキテクチャ、情報通信について学ぶ。</p> <p>(12 佐野 英樹・21 増淵 泉/1回) (共同) システム数理について学ぶ。</p> <p>(7 桔梗 宏孝・20 BRENDELE JOERG DIETMAR/1回) (共同) 情報数理について学ぶ。</p> <p>(15 天能 精一郎・5 陰山 聡/1回) (共同) 計算分子工学、シミュレーション技法について学ぶ。</p> <p>(11 小林 太・39 坪倉 誠/1回) (共同) 計算基盤、計算流体について学ぶ。</p> <p>(11 小林 太・2 浦久保 孝光・17 仁田 功一/1回) (共同) 共創システム情報学について学ぶ。</p> <p>(11 小林 太・3 大川 剛直/1回) (共同) 応用システム、ソーシャルロボティクスについて学ぶ。</p> <p>(11 小林 太/1回) システム情報学による実社会における課題解決事例について学ぶ。</p>	オムニバス方式 共同(一部) 主要授業科目	
			C ³	C ³	○	<p>社会環境および社会ニーズを基盤に特定の領域や課題ごとに設定される C3 (Co-Creation and Cooperation) ユニットの枠内で、大学院生を含む数名の学生から成る P2 (Project/Problem) チームに参加し、協力者へのインタビューや大学院生を交えたグループディスカッションを通じて、技術の潮流も考慮しながら、価値創造に資する研究課題の設定に取り組む。このプロセスを通じて、システム情報学に基づく俯瞰力を涵養する。</p>	主要授業科目
			実験・演習	演習1	○	<p>基本的な計算機リテラシーを習得し、ソフトウェアを「使う訓練」ではなく「作る訓練」をPythonプログラミングを通して行う。まず計算機システムの操作方法やテキストエディタの導入などプログラミングのためのリテラシーを習得する。次にPythonによるプログラミングの基本的事項(対話モードとファイル実行、演算子、条件分岐、繰り返し、オブジェクトと型、リスト、辞書、関数、クラス、モジュールとパッケージ、ファイル処理など)を学修することで、計算やプログラミングの概念を理解するとともに簡単な計算などのソフトウェアが実装できるようになることを目標とする。</p>	主要授業科目
				演習2	○	<p>UNIX環境におけるCUI(キャラクタ・ユーザ・インターフェース)によるコンピュータ操作、およびC言語を用いたプログラミングの基礎的事項を学修する。教育用計算機システムを利用した演習授業により、UNIX環境におけるコマンドやファイル操作の基本的操作を習得する。続いて分岐と繰り返し・関数とスコープ・ポインタ・構造体・記憶領域の動的確保など、C言語の基本事項等を身につける。また外部ファイルへの入出力・分割コンパイル・Makefileなど、プログラム内部で完結しない事項についても習得する。これらの演習授業を通して簡単なデータ構造、小規模なソフトウェアの実装ができるようになることを目標とする。</p>	主要授業科目

専門科目	総合系	実験演習	演習3	○	最適化理論および人工知能に関する講義科目で取り扱ったいくつかの代表的な手法や発展的な課題について、それらを計算機上に実装することにより、講義内容の理解の向上ならびにプログラミング技術を習得する。数値解析、最適化理論、人工知能に関連する理論(動的計画法、最短経路問題、シンプレックス法、遺伝的アルゴリズム、ニュートン法、勾配降下法、クラスターリング、教師無し学習および教師有り学習、パーセプトロンとニューラルネットワークなど)について解説した後、Pythonを用いた実装を行うことで、理論を深く理解するとともに、ソフトウェア実装ができることを目標とする。	主要授業科目
			実験1	○	現象系ならびに情報系における複数の講義科目において学習した理論的な内容を、機械部品や電子機器等の具体的なハードウェアとそのソフトウェア制御で取扱うことにより、さらに理解を深めること、すなわちシステム情報学部に必要な情報の獲得・操作・制御・出力をより深く理解することを目的とする。実験・演習4では、オーディオ装置を用いた音波通信を題材に、デジタル変復調方式と、通信ネットワークプロトコルの実装に取り組み、演習1～3までで取得したプログラミングに対する知識を活用しつつ、場合によっては複数人での協調作業により、デジタル変復調並びに通信ネットワークプロトコルに関する複数の課題に取り組み。	主要授業科目
			実験2	○	制御系科目など複数の講義科目において学習した理論的な内容を、機械部品や電子機器等の具体的なハードウェアとそのソフトウェア制御で取扱うことにより、さらに理解を深めること、すなわちシステム情報学部に必要な情報の獲得・操作・制御・出力をより深く理解することを目的とする。複数人の協調によるグループワーク形式で実験に取り組み、制御アルゴリズムの試験用ベンチマークやソフトウェア制御可能なロボット等を用いた開発に取り組み。実験2では、与えられたテーマに対するアプローチの方法・問題の解決法を学び、これらに加えて報告書のまとめ方の習得を目指す。	主要授業科目
		卒業研究	○	特定の教育研究分野に所属し、C ³ (Co-Creation and Cooperation)の枠内で設定された研究課題を技術的に解決する研究テーマ(卒業論文テーマ)に取り組む。このプロセスを通じて、当該分野における高度な専門知識と研究・開発を遂行するための基本的な能力、ならびにシステム情報学に基づく創造力を涵養する。	主要授業科目	
	専門教養系		教理情報英語A		本講義では、アカデミックな英語能力の涵養を図るため、数学的な論証の方法、線形代数や微分積分の専門用語の英語表現などを解説し、リーディング・ライティング・プレゼンテーション活動を実践する。数学の主要なトピックについて、英語によるリーディング・ライティング・プレゼンテーション活動を通して、数学についての基礎的教養を身につけ、基盤となるアカデミックな英語能力を修得する。	共同
			教理情報英語B		本講義では、アカデミックな英語能力の涵養を図るため、自然科学における思考方法や、物理学や化学・生物学の専門用語の英語表現などを解説し、リーディング・ライティング・プレゼンテーション活動を実践する。自然科学の主要なトピックについて、英語によるリーディング・ライティング・プレゼンテーション活動を通して、自然科学についての基礎的教養を身につけ、基盤となるアカデミックな英語能力を修得する。	共同
			教理情報英語C		本講義では、アカデミックな英語能力の涵養を図るため、情報学における基礎知識や、計算機科学やAI・データサイエンスの専門用語の英語表現などを解説し、リーディング・ライティング・プレゼンテーション活動を実践する。情報学の主要なトピックについて、英語によるリーディング・ライティング・プレゼンテーション活動を通して、情報学についての基礎的教養を身につけ、基盤となるアカデミックな英語能力を修得する。	共同
			教理情報英語D		本講義では、アカデミックな英語能力の涵養を図るため、工学一般における基礎知識や、工学諸分野の古典的技術や先端技術についての専門用語の英語表現などを解説し、リーディング・ライティング・プレゼンテーション活動を実践する。工学の主要なトピックについて、英語によるリーディング・ライティング・プレゼンテーション活動を通して、工学についての基礎的教養を身につけ、基盤となるアカデミックな英語能力を修得する。	共同
			情報科教育論A		本講義では、高等学校普通科「情報」及び専門教科「情報」の教育目標、内容を理解し、実際に授業を担当する状況に自らを置き、その指導方法について学ぶ。具体的内容として、学習指導要領をしっかりと読み解き、「情報」という教科の必要性の理解、小中学校での情報教育の現状把握などを行う。また、教材研究、学習指導案の作成方法の基礎的な能力を身につける。最終的に、情報科教員としての基礎を身につけることを目指す。	
			情報科教育論B		本講義では、情報科教育論Aで修得した教材開発の観点や学習指導案作成の観点をもとに、より具体的な授業設計方法について、模擬授業の実践を通して学ぶ。具体的には、教科情報で必要な学習指導分野に応じて、それぞれ適切な学習指導案の設計・作成を、教材観や評価標準を含めて吟味を行い、実際に模擬授業を受講生間で相互批評することで教科情報を教授していく上で必要な指導感を身につけることを目指す。	
			基礎教養A		時間や空間、真偽、認識などの概念の理解に関する学問領域が哲学、善悪の判断基準や人間の行為の規範に関する学問領域が倫理学、合理的な人間の思考についての学問領域が論理学である。そもそも哲学・倫理学・論理学と自然科学とは明確に区別されるものではなかったが、自然科学が成立してからはそれらは自然科学とは異なる世界を形成していると考えられるようになった。しかし、人工知能などの技術が急激に発展してから、哲学・倫理学・論理学の議論が自然科学や技術にとっても重要な意味を持つようになった。この講義では哲学・倫理学・論理学の代表的な考え方を紹介しながら、それらが科学技術とどのように関係するのかについて考察する。	
			基礎教養B		社会における人間の行動を理解するためには、我々をとりまく環境である情報化社会・集団社会の中で、人々がどのような方法で物事を知覚、学習、記憶、思考、意識し、また、どのようなメカニズムで人々の個性や性格が形成されるのかなど、人間の心理や認知について科学的にとらえることが重要である。本講義では、人間の認知・感情・意志などを情報処理の観点、心理学的観点から解説するとともに、それが人間の行動にどのような形で影響を与えているのかについて、講義ならびにそれに対応づけて設定した演習を通して理解を深めることを目的とする。	
			基礎教養C		システム情報学は社会経済と深く関わっている学問であり、社会にとって有益なシステムや情報の技術を開発、発展させ、それを適切に応用するためには、経済の基礎を正確に理解することが必要である。そのため社会科学の基礎的知識として、経済学の基礎と社会科学の哲学の基礎について学ぶ。具体的には、主体均衡分析および市場均衡分析、厚生経済学の基本定理などのミクロ経済学の基礎について学習し、さらに、マクロ経済学のいくつかの話題を学んだ上で、経済社会、特に資本主義を社会システムの中でどのように捉えるのかに関する哲学的な基礎について考察する。	

専門科目	専門教養系	基礎教養D	<p>(概要)自然科学全体を見通す、いわば見取り図を身につけておくことは、今後自分の専門において特定の領域の知識が必要となるときにも有用となるであろう。たとえば気象データの分析には気象学の知識が必要となるし、量子力学の理解なしに量子コンピュータの研究開発はできない。チューリング・マシンやチューリング・テストを考案したチューリングは、生物の形態形成についても研究していた(チューリング・パターン)。コンピュータ関係では分散システムの研究のヒントがアインシュタインの特殊相対性理論から得られた例など、自然科学の中に新しい技術のヒントが隠されていることも多い。この講義では、4つの異なる切り口を通じて俯瞰的な立場から自然科学の体系と基礎概念について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(5 陰山 聡/2回) 自然の階層構造、物理学の重要概念、反証可能性、計算機の役割について学ぶ。</p> <p>(1 臼井 英之/2回) 太陽系、宇宙空間物理の基礎、人類生存基盤領域としての宇宙空間について学ぶ。</p> <p>(15 天能 精一郎/2回) 量子論の歴史と基礎、現代社会における量子力学について学ぶ。</p> <p>(132 森田 光洋/2回) 遺伝子と細胞、ヒトの機能の背景にある細胞機能の多様性、感覚・運動・記憶・情緒の背景にある生理現象について学ぶ。</p>	オムニバス方式
		総合教養A	我々の社会と先端科学技術の関わり合いについて学ぶ。科学技術の発展により、我々はより豊かで便利な生活を築いてきた。特に情報通信技術の発展は目覚ましく、様々な人や物がインターネットを介して結びつき、社会全体が複雑で巨大なシステムとして機能しつつある。この結果、ある科学技術が社会へ実装された結果、我々の生活に思わぬ負の側面が明らかになることもある。本講義では、IoT、AI、ロボット、シミュレーションやこれらを活用したDXのような先端情報系技術を例に、農業やものづくり、金融といった産業への実装例を通して、我々の社会との関係について学ぶ。	
		総合教養B	本講義では、システム情報学部の専門教育を受けた学生が、システム情報学に係わる理論や技法を活用して企業・団体をどのように経営・管理するのかを学ぶとともに、起業家精神を醸成し自身が起業する際に必要な知識を修得する。環境、資本、組織などに関する経営学の基礎だけでなく、リーダーシップ、イノベーション、レジリエンス、システム思考などのトピックスを交え、さらにはデータサイエンス、人工知能、ロボティクスなどの最先端技術の農林水産業、製造業、サービス業、そして公共・社会システムにおける活用事例を学び、システム情報学を礎とした起業と経営に関する知識を身につける。	
		総合教養C	私たちが日常使っていることばの仕組みを研究する学問分野は言語学(Linguistics)と呼ばれている。本授業では、ことばの獲得・処理・学習の認知プロセスと関連づけながら、自然言語の基本的な性質をはじめ、音声(発声の仕組み)、音韻(脳の音声情報)、形態(語に内蔵された構造)、統語(文の構造)、意味・運用(語や文の意味、発話行為の仕組み)、認知と言語について、基本的な知識と分析方法を修得し、システム情報学の諸領域への応用可能性の視点を獲得することを目標とする。	
		総合教養D	情報通信技術の発展に伴い、これまで科学技術とは直接的な関係が薄いと考えられてきたデザイン・メディア・アートなどの領域と科学技術の関係が互いに強く影響を及ぼすようになってきている。この講義では、デザイン・メディア・アートなどに関する話題を選び、それらについて、これまでどのような議論がなされてきたのか、最近の科学技術の発展に伴いどのように変化しているのか、今後、どのように発展すると考えられるのかについて、具体例を交えながら議論をする。	
資格免許のための科目	日本国憲法1	日本国憲法についての講義です。全体的な憲法の原理・各条文などの理解を深めてもらいます。第1Qは憲法総論、人権領域を主にとりあつかいます。この講義を通じて学生は、憲法の人権領域の理解とその前提となる基本原則について理解し、世の中にある人権の問題に対する視点を養うことができるようになることを目的としています。		
	日本国憲法2	日本国憲法についての講義です。全体的な憲法の原理・各条文などの理解を深めてもらいます。第2Qは憲法総論、統治機構の領域を主にとりあつかいます。この講義を通じて学生は、憲法の統治機構の領域の理解とその前提となる基本原則について理解し、世の中にある国の統治の仕組みに関する問題に対する視点を養うことができるようになることを目的としています。		
	教育原理	人間にとって教育とはなにかという問題を考えるための視点と方法を獲得することを目指す。そのために、主として近代以後の西洋および日本における教育思想と教育実践の歴史をたどる。 ①人間の発達に関する思想がどのように展開したかを理解している。②人間の発達に対して、家庭、学校、および社会が与えている影響を具体的に理解している。③現代の学校教育が直面している諸課題を、歴史的・哲学的観点から捉え、自力で考察する能力を獲得している。		
	教育史	本講義では、前半は国内外の教育の歴史の変遷を中心に通史的な理解を深め、それらと受講者自身がこれまで受けてきた教育と重ね合わせ、今日および今後の教育の在り方についてグループディスカッション等を通じて学ぶ。後半は、戦前・戦後教育史の中で主要なテーマ(教育・学校の起源、学歴社会、教員養成等)を取り上げ、教育史的な視点を鍛える。 ・歴史的な視点から、教育改革の動向や教育の在り方について考えを述べることができる。 ・通史的な理解をふまえ、受講者自身が受けてきた教育の特徴と課題について考えを述べることができる。		
	教職論(中・高)	本講義は、「学校で働くとはどういうことか」、「現代社会においてどのような教員が求められているか」という問いを探究する。この問いを探究すべく、教職の意義及び教員の役割や、教員の職務内容、現在求められている教員像をめぐる議論を中心に学習する。 ・教職の意義及び教員の役割や教員の職務内容を理解し、それを分かりやすく他人に説明することができるようになること ・現在求められている教員像に近づくために、今後の教職課程での学習を主体的に方向づける構えを身につけること		

資格免許のための科目	教育行政学(中・高)	<p>教育行政と聞けば、少し固い印象を受け、教室での教育活動とは距離があるとも思われる。だが実際には、日々の教育活動を直接的・間接的に物質面・意識面において支援したり制限したりしている。これらは公権力を有した機関により実現されるが、行政機関の一存で構想・実現されるのではなく、刻一刻と変化する社会の状況や、あるいは世間の学校教育に対する期待・反応などに大きく影響を受けている。</p> <p>本講義では、特に学校教育の領域を中心として、それを取り巻く社会的諸力に着目して検討し、教育行政学の基礎概念・基本的論点を提示するとともに、教育行政の現代的課題とその克服方途を見出すことを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育行政学における基礎概念、基本的論点、課題について理解を深め、説明することができる ・教職に就く者として、教育行政学の知見の意義や活用方法について考察を深める ・現代社会における教育行政学の意義・課題について、自らの意見を述べることができる
	教育経営学(中・高)	<p>本講義の前半では、教育経営の基本的な原理や構造について理解を深めるとともに、その現代的課題と改革動向について広い視野で把握・分析できるようになることを目的とする。これらを通じて、「組織としての学校」で働く中高教諭として必要な資質・能力を修得する。</p> <p>本講義の後半では教育経営学の立場から、特に学校と地域等との関係構築、および多機関との連携に関する知見の習得を目指す。教育経営を「特定の教育理念の実現を目指し、社会に渦巻く様々な人・諸機関・資源を組織化し、効果的に運用・活用する営み」として捉えることで、マネジメント・マインドを持った教職の基礎を身につけることを目指す。</p> <p>【講義前半】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育経営学における基礎概念、基本的論点、課題について理解を深める ・教職に必要な教育経営上の知識(PDCA、自律性、リーダーシップ等)を獲得する <p>【講義後半】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国、地方、学校の各段階を通じた教育経営の過程と課題を把握する ・学校と地域との関係、学校の社会的役割とその組織的実践について理解を深める ・教職に必要な地域教育経営上の知識(アカウンタビリティ、開かれた学校、教職員組織等)を獲得する ・現代社会の変化に応じて学校組織が直面する経営課題への主体的な姿勢を養う
	心の発達と教育1(学習・言語心理学1)	教師や心理師など、子どもの育ちに関わる職業に必要とされる諸知識について、教育心理学の観点から学びます。発達とそれを支える教育に関する心理学的知識の基本的内容を獲得する。
	心の発達と教育2(教育・学校心理学1)	教師、公認心理師など、子どもの育ちに関わる職業に必要とされる諸知識について、教育心理学の観点から学びます。発達とそれを支える教育に関する心理学的知識の基本的内容を獲得する。
	青年心理学	青年期の心理について、青年期のアイデンティティ(自我同一性)形成の問題を中心として、講義する。また、青年期の精神病理や現代青年論についても、取り上げる予定である。青年期のアイデンティティ形成について深く学習することを目指す。
	中等特別支援教育論	<p>通常の学級に在籍する生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別的教育のニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。生徒の障害の特性及び心身の発達や実態把握、アセスメントをもとにした教育課程や支援の方法を理解する。また、障害はないが特別な教育的ニーズのある生徒の学習上又は生活上の困難とその対応と「個別の指導計画」を理解し、学校における特別支援教育体制と特別支援教育コーディネーターの役割及び特別支援学校や地域のリソースとの連携等について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする生徒の障害の特性及び心身の発達を理解し、特性や発達をふまえた支援を考えることができる。 ・生徒の障害の特性及び心身の発達や実態把握、アセスメントをもとにした教育課程や支援の方法を理解する。 ・特別な支援を必要とする生徒に対する教育課程や支援の方法を理解し、自立活動の視点をイメージできるようになる。 ・障害はないが特別な教育的ニーズのある生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。
	中等カリキュラム論	<p>【目的】 学校教育において不可欠である教育課程の編成と実施について、教育課程やカリキュラム研究の歴史的な展開や学校現場の実状を踏まえて考える力を養うことを目指す。</p> <p>【概要】 講義の前半では、教育課程の編成にあたって、教育課程の意義や歴史について学習する。講義の後半では、教育課程の実施を考えるうえで重要となる評価の問題やカリキュラム・マネジメントについて学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程やカリキュラム・マネジメントに関する基本的な知識を習得する。 ・教育課程やカリキュラム研究の歴史的な展開を説明することができる。 ・教育課程やカリキュラム研究をめぐる課題を説明することができる。
数学科教育論A	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、学習した内容を生活や学習で活用するための「数学的に考える資質・能力」を育成できる教員の養成を目指し、数学科の今日的課題、中学校及び高等学校の数学科の目標について学ぶとともに、既習事項の活用という観点から、数学科の指導内容及び数学的活動を通じた指導方法及び数学科におけるICT活用について学ぶ。また、実践的な指導力を有した数学科担当教員の養成を目指し、数学科における評価方法及び生徒のつまずきについて学ぶとともに、数学科の目標・指導内容・指導方法・評価方法に関する基礎的・基本的な知識を活用して数学科学習指導案の作成と模擬授業を行い、指導と評価の一体化について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 数学科の今日的課題と数学科の目標の関連について理解できるようになる。 2. 既習事項の活用という観点から、指導内容のつながりについて理解できるようになる。 3. 数学的な見方・考え方に基づく数学的活動を通じた指導方法について理解できるようになる。 4. 数学科における評価方法について理解できるようになる。 5. 数学科における生徒のつまずきについて理解できるようになる。 6. 数学科の目標・指導内容・指導方法・評価方法に関する基礎的・基本的な知識を活用して、数学科学習指導案を作成することができるようになる。 7. ICTを活用した数学指導について理解できるようになる。 	

資格免許のための科目	数学科教育論B		この授業では、初等中等教育の算数・数学と大学で学ぶ現代数学を結びつけつつ、指導法や、実際の小中高での授業実践例の紹介、さらに様々な自治体での取り組みにまで言及します。授業での情報通信技術の活用方法も扱うことで、現在小中高で何のように学んでいるかがわかり、大学で数学を学ぶことが算数・数学の指導、そして自治体の教育力向上の指針作りにもどのように関連するのかを理解することを目指します。 小中高の算数・数学について、その独自性と連続性の観点から理解し、大学で学ぶ数学との関係でさらに深められることを目標とします。	
	数学科教育論C		数学教育における、指導要領の理解と、その実践方法について学修する。 箱ひげ図、基本統計量、仮説検定、2群比較、分散分析、回帰分析の概要を学び、実際の問題に対して、データを活用する方法の教授法を学修する。	
	数学科教育論D		近年の中等数学教育においては、コンピュータの適切な活用が求められている。本授業では、数式処理ソフトウェアを用いて、中等数学の各科目の理解を促す教材作成を学ぶ。探求をサポートする自習向け教材、配布資料の作成、授業内提示教材(特にインタラクティブに操作可能な教材)などの作成方法を扱う。 数式処理ソフトウェアの基本的な利用が可能であり、授業資料に含まれる雛形を利用する必要があるが、中等数学教育の特定の単元の理解を促進する教材(配布資料、授業内提示資料、探求をサポートする自習向け教材など)を作成できる。中等数学教育における授業内提示教材と、自習向け教材に求められる操作性の違いも間接的に理解する。	
	中等道徳教育論		本授業科目は、「道徳教育」をテーマとします。たとえば、学校における道徳教育の基本原則、学校での道徳教育の歴史、道徳の発達に関する理論、様々な道徳教育の方法などを学びます。以上述べたような事柄についての学習を踏まえて、次に、道徳の教材研究、学習指導案の作成、模擬授業など、より実践的な事柄に取り組んでいきます。 ①学校での道徳教育の基本原則(実施体制、目標、内容、評価の方法など)を説明できる。 ②日本の学校における道徳教育の歴史を説明できる。 ③道徳の本質や道徳性の発達に関する諸理論について、それぞれの趣旨や意義を説明できる。 ④道徳の授業を実践するための教材研究や学習指導案作りを行うことができる。 ⑤道徳や道徳教育について考えたり、振り返ったりしたことを表現することができる。	
	総合的な学習の指導法(中・高)		本講義では、総合的な学習の時間の意義や指導法および評価に関する知見の習得を目指す。総合的な学習の時間について、成立した背景を探るとともに、現在、各学校で実施されているカリキュラムや実践を概観しながら、教科を越えて必要となる資質・能力の育成の視点からその目的を理解する。さらに、総合的な学習の時間の具体的な指導計画の立案を通して、指導法や評価法を理解することを目的とする。 ・総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割について、教科を越えて必要となる資質・能力の育成の視点から理解する。 ・学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点を理解する。 ・各教科等との関連性を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な事例を理解する。 ・主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性とその具体的な事例を理解する。 ・探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てを理解する。 ・総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解する。	
	中等特別活動指導論		近年、情報化・少子高齢化など急激な社会変化の中で、人間関係の希薄化が進み、子どもたちの自主性、社会性などを身に付ける機会が激減している。そこで、多様な集団活動や体験活動を通して「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」を育成する資質・能力の三つの視点としている特別活動の果たす役割を考える。 本授業では、特別活動の教育的意義や目標・内容、評価や指導法等についての理論と実践を理解し、実践的な指導力を身に付けるとともに、学びを今後の自己の生き方に生かすことができる。 ・特別活動の教育的意義や全体目標・内容、他の教科等との関連及び特別活動の各内容の目標・内容、指導計画・指導方法・評価等を理解するとともに、最近の教育事情から特別活動への期待や果たす役割等について考えることができるようになる。 ・講義内容、模擬授業や具体的事例等を通して指導法の在り方を探求し、実践的な指導力を身に付ける。 ・自主的、主体的に授業に参加し、自らの学びを振り返り、今後の学習や生活に生かそうとする。	
	中等学習指導・ICT活用論		本講義では、授業を計画し、実践し、他者との議論を通じて自他の授業を改善することができるようになるための基礎的な知識や技能について講義するとともに、その内容についての自分なりの考えを深めるための機会を提供する。また、社会的背景の変化や急速な技術の発展を踏まえ、情報通信技術を活用した実践事例の検討を通して、情報通信技術を活用した授業を考案できるようにする。 授業を計画し、実践し、他者との議論を通じて自他の授業を改善することができるようになるための基礎的な知識や技能を習得するとともに、その内容についての自分なりの考えを深めること。また、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識や技能を獲得すること。	
	中等生徒指導論		本講義では、教職を目指す学生に不可欠な資質である生徒指導の基礎を理解し実践力を付けることを主眼とする。また、生徒指導のみならず、進路指導は単なる出口指導ではなく、学力指導・生徒指導の到達点でありキャリア形成の第一歩である。長期的・組織的視野に立ち、豊かな人権感覚が伴ってこそ学校教育の場をふさわしい生徒指導と進路指導の実践が可能であり、どの教科の教師を目指す上でも、教職を志す限り等しく力量形成が求められる。本講義は、生徒一人一人の人権を尊重し、決して生徒を見捨てない教員になりたいと考える教職希望者のための授業である。真剣な参加姿勢を求める。主体的姿勢で担当教員との対話や学生同士の複数名での応答等を経験し、学びを深めてもらえれば幸いである。 ①自身の中学・高校時の学校生活を振り返り、教員としての適性を吟味することができる。②生徒指導の基本理念を理解し、困難を克服した実践事例等を通じて教員に必要な能力を理解するとともに意欲を高めることができる。③進路指導の基本理念を理解し、様々な進路事例に接することを通じて教員に必要な資質を知るとともに意欲を高めることができる。④本授業への参加態度を能動的・積極的に形成することができ、教職への意欲を高めることができる。	

資格免許のための科目	中等学校教育相談	現代の教育現場である中学校において、不登校・摂食障害・いじめ・解離性障害・対人恐怖・リストカット症候群・アスペルガー障害、学習障害などの問題行動や異常心理、発達障害が表れることが増加してきており、教師がそれらの対応に迫られる機会が増えている。そのような問題行動や発達障害への教師やスクールカウンセラーの対応の仕方、保護者との連携の仕方、校内の教育相談のシステムの作り方、教師とスクールカウンセラーとスクールサポーターとの連携の仕方などについて学ぶことを目標とする。現代の教育現場における種々の問題を教師やカウンセラーとして解決していける基本的な知識及び態度を養うことを目標とする。
	教職実践演習(中・高)	教職および各教科の科目履修、教育実習等を通して学生が身に付けた専門的知識・技能が統合され、教員として必要な実践的資質能力が形成されていることを、特に教科の指導を中心に確認する。この科目の履修を通して、教科指導についての知見を深めると同時に、教職についての理解を確認し、教職への適性について考察するとともに、主体的に教員として必要な資質能力を統合・形成していくことができるようになることをねらいとする。教員としての使命感、責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力、社会的規範性、子ども理解、学級経営、教科内容等の資質や能力を向上する。
	中等教育事前・事後指導	事前指導においては、教育実習の意義と目的を理解するとともに、学校参観を通じて生徒の実際および教育の実情について理解することを目指す。 事後指導においては、教育実習の体験を総合的に省察し、他の実習生との交流することで、自らの学修の達成を確認するとともに教職を目指す自らの課題を発見する。 ・教育実習の意義と目的を理解し、学校参観を通して生徒を理解するとともに教育の現状を理解する。 ・教育実習で求められる実践的指導力の基礎を身につける。
	中学校教育実地研究A	この授業では、実際の中学校の教育現場における3週間の実習を通じて、次の4つの学修の達成を目指すものである。 ① 中学校教育の実情について経験的、実践的な理解を形成する。 ② 実際の授業・教科指導を担当することを通じて教科内容の理解を深めるとともにその効果的な指導方法を研究する。 ③ 生徒たちと接し、学級指導の経験を持つことで生徒たちの実情を理解し、生徒の心身を育成する生徒指導の実践的諸能力を獲得する。 ④ 教育職員に課せられる教育的、社会的使命とその職務内容を理解し、その遂行能力の基礎を身につける。 ・中学校教育の実情を把握し、理解する。教科内容や指導方法を研究し、教科指導の実践的能力を身につける。 ・生徒たちの実態を把握し、生徒指導の実践的能力を身につける。 ・教員の職務内容を理解し、その遂行能力を身につける。
	中学校教育実地研究B	この授業では、実際の中学校の教育現場における3週間の実習を通じて、次の4つの学修の達成を目指すものである。 ① 中学校教育の実情について経験的、実践的な理解を形成する。 ② 実際の授業・教科指導を担当することを通じて教科内容の理解を深めるとともにその効果的な指導方法を研究する。 ③ 生徒たちと接し、学級指導の経験を持つことで生徒たちの実情を理解し、生徒の心身を育成する生徒指導の実践的諸能力を獲得する。 ④ 教育職員に課せられる教育的、社会的使命とその職務内容を理解し、その遂行能力の基礎を身につける。 ・中学校教育の実情を把握し、理解する。教科内容や指導方法を研究し、教科指導の実践的能力を身につける。 ・生徒たちの実態を把握し、生徒指導の実践的能力を身につける。 ・教員の職務内容を理解し、その遂行能力を身につける。
	高等学校教育実地研究	この授業では、実際の高等学校の教育現場における2週間の実習を通じて、次の4つの学修の達成を目指すものである。 ① 高等学校教育の実情について経験的、実践的な理解を形成する。 ② 実際の授業・教科指導を担当することを通じて教科内容の理解を深めるとともにその効果的な指導方法を研究する。 ③ 生徒たちと接し、学級指導の経験を持つことで生徒たちの実情を理解し、生徒の心身を育成する生徒指導の実践的諸能力を獲得する。 ④ 教育職員に課せられる教育的、社会的使命とその職務内容を理解し、その遂行能力の基礎を身につける。 ・高等学校教育の実情を把握し、理解する。教科内容や指導方法を研究し、教科指導の実践的能力を身につける。 ・生徒たちの実態を把握し、生徒指導の実践的能力を身につける。 ・教員の職務内容を理解し、その遂行能力を身につける。